

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）

ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学

# ぎふフューチャーセンター実施報告書

平成 27（2015）年度

岐阜大学地域協学センター



## 地域協学センター・フューチャーセンターの取り組み

岐阜大学は、『学び、極め、貢献する』地域に根ざした国立大学」を理念として掲げて、広く地域の要請と期待に応えられるよう努めています。「地域に根ざした大学」を目指して、岐阜大学は、地（知）の拠点として、全学体制で地域の課題を解決すべく、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（大学COC（Center of Community）事業）において、「ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学」が採択され、COC事業の実施支援機関として、平成25年12月に地域協学センターを設置しました。

地域協学センターでは、「次世代地域リーダーの育成」、「多様な人々が集い対話する『場』の設置」及び「地域志向学プロジェクトの推進」を取り組みの3つの柱として、事業を推進しています。

2つ目の柱であるフューチャーセンター（Future Center）とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ（課題）について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「対話の場」のことを指し、岐阜大学ではこのような地域との対話を創発するためのフューチャーセンターや多様な人との交流ができる空間を構築・運営し、地域との「協学」を推進しています。

そして、第1に「産業への貢献」として、研究主体から学生・生涯教育を含めた地域課題解決を目指し、第2に「地域政策への貢献」として、地域課題を浮き彫りにし、地域と協学しながら解決するという循環の創出、第3に「地域教育と文化への貢献」として、地域をめぐる「学び」の仕組みを作り、地域住民が自らの地域課題に即して行政と協働して解決し得るよう支援します。

平成27年度は、ぎふフューチャーセンターとして、自治体連携10回、揖斐高校の地域活動との高大連携1回、職員研修等の機会の提供6回、学内企画としての域学連携活動1回を実施しました。各フューチャーセンターの取り組み内容および成果をご報告申し上げます。今後も、岐阜大学における地域連携の取り組みを広く知っていただくと同時にさらなる地域への貢献を目指し、ぎふフューチャーセンターの活動を展開していきたいと考えております。

ぎふフューチャーセンターの実施において、関係各機関・施設・団体の皆様には多大なるご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、参加者をはじめ地域コーディネーターやスタッフの皆様にはプログラムの運営等でサポートいただき、ありがとうございました。今後ともご指導ご協力いただきますようお願い申し上げます。

2016年3月

地域協学センター

フューチャーセンター部門長 三井 栄



## 目 次

第1回 ぎふフューチャーセンター 人のつながりから地域をつくる ……………	1
5月22日(金) 会場：高山市飛騨高山まちの博物館 主催：岐阜大学	
第2回 ぎふフューチャーセンター いびの恵みを発信 ～効果的な発信方法を考える ……	9
6月5日(金) 会場：揖斐高校 主催：揖斐高校・岐阜大学	
第3回 ぎふフューチャーセンター 郡上市八幡町市街地の空き家の利活用について ……	15
6月13日(土) 会場：郡上市郡上八幡産業振興公社 主催：岐阜大学	
第4回 ぎふフューチャーセンター 自然保護と地域振興の共存 ……………	21
8月28日(金) 会場：高山市乗鞍岳畳平 主催：岐阜大学・高山市	
第5回 ぎふフューチャーセンター 飛騨牛ブランドをどう考えるか ……………	31
9月29日(火) 会場：高山市 JA ひだ本店 主催：岐阜大学応用生物科学部	
第6回 ぎふフューチャーセンター 若者よ、投票に行こう ……………	37
11月10日(火) 会場：岐阜大学サテライトキャンパス 主催：岐阜大学・岐阜市	
第7回 ぎふフューチャーセンター 南ひだ健康道場の活用 ……………	45
11月15日(日) 会場：南ひだ健康道場 主催：岐阜大学・岐阜県	
第8回 ぎふフューチャーセンター 特産安岐そば・シクラメン祭りをリニューアルする …	51
12月12日(土) 会場：中津川市中の島公園 主催：岐阜大学・中津川市	
第9回 ぎふフューチャーセンター 使いたくなる散策マップを作ろう ……………	61
1月20日(水) 会場：岐阜市長良川うかいミュージアム四阿 主催：岐阜大学・岐阜市	
第10回 ぎふフューチャーセンター つかえる「チラシ」を考えよう ……………	69
1月30日(土) 会場：郡上市総合文化センター 主催：岐阜大学・郡上市	
第11回 ぎふフューチャーセンター 美濃加茂市特産の干柿の新たな展開を考える ……	77
2月16日(火) 会場：美濃加茂市生涯学習センター 主催：岐阜大学・美濃加茂市	
学内企画ぎふフューチャーセンター 岐阜大学生によるオリエンテーリングルートの提案 …	83
9月4日(金)～5日(土) 会場：中津川市中の島ふれあいの里ほか 主催：岐阜大学工学部社会基盤工学科地域システムデザイン研究グループ	
FD・SD (Faculty・Staff Development：教職員向け研修) ……………	95



第1回 ぎふフューチャーセンター

人のつながりから地域をつくる

平成 27 年 5 月 22 日（金）

会場：高山市飛騨高山まちの博物館

主催：岐阜大学



「地（知）の拠点整備事業」 平成 27 年度第 1 回 りふふチャーセンター	
会場	飛驒高山まちの博物館 研修室（高山市上一之町 75 番地）
日程	平成 27 年 5 月 22 日（金） 13:00～16:00
目的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点事業」に取り組み、連携自治体と共同に地域課題の改善に寄与することを目的としてぎふふチャーセンターを実施する。
テーマ	人のつながりから地域をつくる 過疎地域を研究する国際的な学者の参加があり、はじめに外国（スウェーデン）における過疎地域の取り組み事例が紹介されて全体議論する。 (1) 自分の身の回りと比較して、スウェーデンの事例で感じたこと。 (2) 高山をモデルとして、地域で出来ること。
内容	地域振興を目的として起業や社会貢献を推進するために、高山市民（一般市民、市職員、地元高校生）と大学関係者及び国際的な研究者が日本や外国の状況を踏まえて議論し、活性化に必要な要素や効果的な取り組み方法を提言した。
参加者の構成と人数	64 人 9～10 人×7 グループ <内訳> 大学生 5 人・市職員 8 人・社会人 5 人・高校生 33 人・研究者 13 人
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	伊藤栄一（地域協学センター 地域コーディネーター）
グループ発表	スウェーデンの研究者ハンス・ウェストランド教授から、過疎地域を活性化につなげた取り組み事例を事前に紹介して、全体の対話に入った。そこでは、「自分たちは地域貢献をどうするべきか」、「地域や行政は活性化に向けてどう取り組むべきか」を議論した。そこでは、スウェーデン人は日本人と比較して自身の判断で行動する習慣が身に付いているため、地域貢献への意識が高い。さらに、行政と企業及び地域の結びつきが強く、共に活動する社会構造が確立されて起業しやすい環境が整っている。 参加者からは、「自分たちはもっと地域を知り、そこで貢献する気持ちを持つ事が必要」という意見が最も多くあった。そして、「そうした思いが積極的に地域の環境を良くするきっかけに繋がる」という意見もあった。産業面では、「高山の地域資源を活用した地場産業が支えている。そのため、異なる産業が連携して新たな産業や企業の創出を考え産業振興を図るべき」という意見があった。仕組みづくりでは、「高山市も行政と企業及び人が連携して、起業がしやすい環境整備が必要」と強く要望する意見があった。
FCのまとめと今後の展開	地域を活性化させるためには、人々の地域を思う気持ちや人との強い繋がりが最も重要であると提言した。それは、人と対話することで情報を共有してコミュニケーションが生まれ、新しい発想に気づき人とのコミュニケーションを強くすることでお互いに信頼関係が確立されて何かを実行する場合の

	<p>協力体制ができるという思いが見られた。</p> <p>現在高山市は、教育委員会や自治体などが、小中学校の教育で地域を知り、そこで暮らす人と接して地域貢献とは何かを学ぶ機会をつくる体制づくりを積極的に進めている。既に高校では、地域学と称して地域へ出かけて人と対話して地域貢献について学習している。</p> <p>このことを踏まえて、地域で活躍する人材をつくるためには、地域を知り、自身が地域で何が出来るかを常に考えることが重要になるため、現在進めている地域学習を積極的に継続して地域を見て考える機会をつくる事が必要である。また、企業間が情報交換する事で新しい産業の開発が出来ると考えられるため、積極的に多種の企業連携を行い新しい産業づくりの研究を実施してほしいと考える。</p> <p>大学においても、地域の事に興味を持ち地域で活躍できる人材育成が必要である。その取組みでは、学生が積極的に地域に出かけ、そこにある地域資源（人、自然、産業など）と直に触れて「ここある課題は、私は何が出来るか」を考える機会づくりを積極的に推進する事が大切である。今、大学が取組むCOC事業に「次世代地域リーダー育成プログラム」があり、これが進行している。まさにこのプログラムは、地域を知り地域を考えるものであり、学生全員が積極的にこのプログラムに参加する取り組みが必要である。この取り組みを強化することが地域振興への後押しになると考える。</p>
--	--

## ぎふフューチャーセンターのアンケート結果

### 第1回高山会場の結果

参加者64名 回答者53名 回収率 82.8%

#### 1. 性別

①男性 26      ②女性 27

#### 2. 年代

①10代 32      ②20代 3      ③30代 4      ④40代 6      ⑤50代 8      ⑥60代 0      ⑦70代以上 0

#### 3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 42      ②2回目 7      ③3回目 0      ④4回目 1      ⑤5回目以上 3

#### 4. これまでに、人たちが集まり話し合いながら何かを決めていく場（ワークショップ等）に参加したことはありますか。

①今回が初めての参加 18      ②これまでに参加したことがある 35

#### 5. フューチャーセンターへの参加を決めた理由はなんですか。（複数回答可）

- ①テーマ「人のつながりから地域をつくる」に関わりたかった 4
- ②自分の良い経験になるから 13
- ③フューチャーセンターに関心があった 2
- ④人から勧められたから 29
- ⑤その他 15

#### 6. フューチャーセンターの感想についてお伺いします。

(1)フューチャーセンターに参加することで、どんなことを期待して来場しましたか。（複数回答可）

- ①参加者を通してさまざまな地域の情報を入手し、視野を広げること 29
- ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えること 22
- ③テーマ「人のつながりから地域をつくる」に関して、自分の意見を発言できること 3
- ④地域に関わるひとつのきっかけとなること 16
- ⑤その他 2 ( いろんな気づきを与えたい。異世代交流 )

(2)今日のフューチャーセンターに参加して、どんな感想をお持ちになりましたか。(複数回答可)

- ①参加者を通してさまざまな地域の情報を聞いて、視野を広げることができた 34
- ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 27
- ③テーマ「人のつながりから地域をつくる」に関して、自分の意見を発言できることが大切だ 10
- ④地域に関わるひとつのきっかけとなりそう 14
- ⑤その他 5 ( なかなか深い議論するのは難しい。など )

(3)フューチャーセンターに参加することで、地域に対する考えにどんな影響があると思われましたか。

※参加前に思うこと(複数回答可)

- ①住民自治の意識が高まる 28
- ②人(地域、大学、行政など)のつながりができる 26
- ③行政が身近な存在に感じる 9
- ④その他 2

(4)フューチャーセンターに参加して、地域に対する考えにどんな影響がありましたか。

(複数回答可)

- ①住民自治の意識が高まった 29
- ②人(地域、大学、行政など)のつながりができた 30
- ③行政が身近な存在に感じられた 6
- ④その他 6 ( 若い人の意見をどんどん取り入れるべき。 )

7. 今後、フューチャーセンターに参加したいですか。

- ①参加したい 14
- ②テーマに興味があれば参加したい 37
- ③参加したくない 0
- ④その他 1

8. 今後の参考とさせていただくため、フューチャーセンターの内容や進め方について、ご意見をお伺いします

- 学生等(若い世代)とディスカッションできたのは、大変良かった。
- セッションの時間が短かった。
- 高校生の意見をもっと聞きたかった。
- 活発な意見交換が出来て良かった。
- フューチャーセンターをもっと情報発信してほしい。
- 各地域で研修会の開催数を増やしてほしい。
- 行政の管理職の研修につなげてほしい。
- 地域づくりの土台となりました。
- 初めて参加しましたが楽しかった。
- 今まで他人事として捉えてきた地域の行政について話し合いが出来て楽しかった。
- 高山に対して自分が出来ることを考える機会が出来て良かった。

- 普段は話す機会がない人たちと「高山」と言う一つの地域について意見を出し合えて新しい知識を得られとても良い経験になりました。
- 高校生の皆さんの意見が聞けて良かった。しかし、発想はオジサン、オバサンと同じで少し安心したが残念。
- 意見を様々な立場の人と話し合えたのでよかった。
- 内容や進め方が良かった。
- 様々な意見を持った人達と話が出来て自分の視野が広がった。
- 付箋を使った話し合いは意見が出しやすかった。
- ディスカッションの時間がもう少しあると良い。
- なかなか地元の事について考えることは無いので良い機会になった。
- もう少し時間にゆとりがあり、議論が深めれば良い。
- いろいろな考えの人たちと話すことが出来て良かった。
- 将来高山をもっとより良くしていけるように自分も何か関わられるようにしたいと思った。
- 話し合いも充実していたし、考える時間も十分あり良かった。
- スウェーデンの人から直に話が聞けて貴重な経験が出来た。
- いろいろな年齢の人と高山の事を話すことが出来て良かった。
- 何に対する結論を出したら良いのかあまり良く分かりませんでした。
- 地域を考える良い切っ掛けになった。
- いろいろな人と関わり合えてよかった。
- 一人の視点で様々な事を考えることに限界がある。このような話し合いは大切だと感じた。
- 地元を知る良い機会になった。
- 高山市が良いまちになってほしい。
- またこうした会に参加したいです。
- 休み時間があればより打ち解けて良いと思います。
- 年齢がバラバラで高校生、大学生、研究者や地元の方などが一つのテーブルで話し合うことは無いのでいい経験になった。
- いろいろな方と話し合いが出来て貴重な経験が出来ました。
- 普段関わりの無い人たちとディスカッションをしているような見方がある事が分かった。
- いろいろな年代、地域の人達と話し合う事で良い経験になった。
- 今まで考えなかった身近な事を考える機会が出来て良かった。
- 住民自治の意識が高まった。
- スウェーデンとの比較から視野が広がった。
- 高校生がしっかりと自分の意見を持っていることに感動した。
- とても良い経験が出来た。
- 普段の生活では話すことが出来ない内容や人と関わり合えてとてもよかった。
- 様々な立場の人達と地域の事を話し合う事で地域づくりが出来ることが分かり感動した。
- 前回と同じようなテーマでも話し方で違う結論となり勉強になった。
- 地元の当たり前前の生活について良く考えることが出来て良い経験になった。
- 話し合いの時間がもう少し欲しい。
- 対話の進め方が良かった。
- 地域について改めて考えて気づくことができた。

- たくさんの人の意見が聞けて良かった。
- 自分が学んでいる過疎について勉強が出来て良かった。
- いろんな意見の中で自分にない意見も聞けて良かった。
- いろんな職業の人達と交流し良い経験が出来た。
- 自分の意見がいろんな人と共有できてよかった。
- リーダーを初めてやり難しかった。
- 今度はもっと上手くやりたい。
- もう少し時間が欲しかった。
- 普段いろんな世代の人と話し合う事が無いのでよい機会になった。
- 今まで普通に住んでいる高山で「もっとこんなことがしてみたい」や「これを大切にしていきたい」と関心を持つ事が出来た。
- いろんな人と話意見が聞けて良かった。
- 深く議論するためには、型にはまらないフューチャーセンターの実施が必要。
- 初めての参加でどうやって良いのかわかりませんでした。
- 話し合いの時間をもう少し欲しい。
- 高校生が多かったので話しやすいように進めるべきと反省。
- とてもよかった。
- いろんな面で今回参加した事を活かして活動したい。
- いろんな人と話が出来て良かった。
- 高山でもスウェーデンのような企業と連携した取り組みが必要。

#### <フューチャーセンターの効果>

##### アンケートNo.6

(1)、(2)

様々な知識や経験を持った人と会話する事で、地域の視野を広げた人が増えた。

話し合いの場で、自分の意見を発言する事は大切と認識した人が増えた。

(3)、(4)

人のつながりが出来たと感じた人が増えた。

若い人の意見を聞くと考える人が増えた。

##### アンケートNo.8

意見が多かったもの

1. いろんな人と話が出来て良かった。
2. 地域を見直すことが出来た。
3. 議論する時間がもっと欲しい。

##### まとめ

外国人研究者、大学教員、大学生、高校生、社会人と世代の異なる多種多様な人々とフューチャーセンターを開催した。テーマ「人のつながりから地域をつくる」をグランドルールの下で議論した。参加者は、楽しく意見を出し合い、その意見から地域を見直すきっかけになった参加者も現れた。議論して出た意見は多様なアイデアとして情報共有する事が出来た。

今回のフューチャーセンターは多種多様な人達と対話し、自分たちが住む地域の資源を再認識する目的では、アンケート結果からも成果があったと見受けられた。



起業家精神と人のつながりが  
地方の発展を生み出す

ハンス・ウェストランド  
スウェーデン王立工科大学教授



# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.05.22 2015年8月1日発行号

VOL.18



## 他国のまちづくりを学び 新たな視点で地域を見つめる

5月22日、飛騨高山まちの博物館において、「ひとのつながりから地域をつくる」をテーマにぎふフューチャーセンターを開催し、岐阜大学生、高山西高校及び飛騨高山高校の生徒、高山市民のほか国内外のソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の研究者が参加しました。対話の前に、スウェーデンのハンス・ウェストランド教授から同国の地域活性化の事例の紹介があり、参加者は地域の取り組みを成功に導くためには、ひとのつながりや起業家精神が大切であることを学びました。対話では、最初に「自分の身の回りと比較して、スウェーデンの事例で感じたこと」について話し合い、次に「高山をモデルとして、地域で出来ること」について意見やアイデアを交換しました。

高山市の活性化には、行政と企業を協力させる仲介役が必要であること、地域をあげた起業家育成の必要性、高校生が自ら国際的感覚を身に付けるなどの意見が出されたほか、ハンス教授らが出席した国際研究会において今回の対話の内容が報告されました。



### 今回のまとめ

- 高山の魅力をつくるためには若い人が定住することが重要で、若い人が高山のいいところを発見したり、地元に戻ってくる仕組みをつくる必要がある
- 飛騨牛を世界に広めるために、高山の助け合いを大切にする地域性を生かして、起業をする
- 高山の人たちの「ぬくい」人間性は地域の良さであり、高齢者に優しく若者に楽しいまちをつくる
- 物事を起こすときに、地域の協力体制やまわりの資源を活用することが大切

各グループからの  
意見・アイデア



### 違う視点から見るきっかけに

スウェーデン王立工科大学 教授  
ハンス・ウェストランド さん

フューチャーセンターのはじまりはスウェーデンですが、多くの高校生と対話をする機会は今回が初めてでした。話題提供として、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)やアントレプレナーシップ(起業家精神)をキーワードに話をしました。難しい言葉ですが、それぞれの立場で解釈することで高山を違った視点から見るきっかけになったと思います。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第2回 ぎふフューチャーセンター高大連携

いびの恵みを発信  
～効果的な発信方法を考える～

平成27年6月5日（金）

会場：揖斐高校

主催：揖斐高校・岐阜大学



<p>「地（知）の拠点整備事業」</p> <p>平成27年度第2回 ぎふフューチャーセンター（in 揖斐高校）</p> <p>（第2回 自然豊かないびワクワクフューチャーセンター）</p>	
会場	揖斐高校 城台会館
日程	平成27年6月5日（金）13:20～15:20
目的	<p>・揖斐高校では、平成26年度から2ヶ年度、県の「専門高校生地域産業推進連携事業（飛び出せスーパー専門高校生推進事業）」として、生活環境科の生徒が揖斐川町の自然、産業、伝統工芸などについて学習し、「いびの恵み」として衣食住環境の製品づくりを進めている。この事業における地域課題の掘り起しの場として、昨年10月に岐阜大学と連携してフューチャーセンターを開催した。（H26.10.2 第1回自然豊かないびワクワクフューチャーセンター、テーマ「いびについて考える～地域のために若者ができること～」）</p> <p>・今回は、揖斐高校が学習する「いびの恵み」について、マスコミやインターネットなど各種媒体を活用して効果的にPRしていくための方法を大学生や地域住民を交えて考える。大学生を加えてグループのサポート役を担わせることで話し合いを円滑に進め、高校生、大学生ともにそれぞれの段階に応じた学びの場とする。</p> <p>・5月29日（金）、揖斐高生（3年3組、38人）に対し事前研修を実施（講師：地域協学センター 大宮康一特任准教授）</p>
テーマ	いびの恵みの発信 ～効果的な発信方法を考える～
サブテーマ	<p>（1）伝えたい いびの恵み（いいところ）</p> <p>（2）いびの恵みを知ってもらうために、どんな発信方法が考えられるか？</p> <p>（3）いびの恵みをもっと世界へ発信するには？</p>
参加者の構成と人数	<p>57人</p> <p>岐阜大学生 9人</p> <p>岐阜大学職員 1人</p> <p>揖斐高校生活環境科3年3組 38人</p> <p>揖斐川町職員 2人</p> <p>一般 7人</p>
対話の方法	グループによる話し合い
ファシリテーター	大宮康一 地域協学センター特任准教授
当日のスケジュール	<p>13:20～13:25 挨拶（揖斐高校鈴木校長）5分</p> <p>13:25～13:35 フューチャーセンターの説明 10分</p> <p>13:35～15:20 フューチャーセンター</p> <p>① アイスブレイク（グループで自己紹介をしながら、自分の住んでいるまち、ふるさとの良いところについて語り、サブテーマ（1）につなげる）（15分）</p> <p>② 対話 各サブテーマ 20分×3（60分）</p> <p>③ まとめ（30分）</p> <p>④ アンケート（5分）</p>

出された意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いびの恵み (いいところ) については、自然が豊かなこと、揖斐茶や鮎といった特産品、揖斐祭りや谷汲踊りなどの伝統行事、いびがわマラソン、ダムのほか、人があたたかいなど地元住民の人柄に関する意見があげられた。</li> <li>・いびの恵みの発信方法としては、インターネットの動画サイトや SNS (LINE、Facebook、ツイッターなど) の活用、ゆるキャラやご当地アイドルを使った宣伝、いびの恵みを生かした観光ツアーの実施、新聞・テレビなどマスコミの活用があげられた。</li> <li>・いびの恵みを世界へ発信する方法については、揖斐のアイドルをつくる、いびがわマラソンを通じた国際交流、空港を造る、オリンピックなど国際的な大会の開催、揖斐 (揖斐川) のブランド化を進める、高校生が特産品を考える、揖斐茶のPR強化などがあげられた。</li> </ul> <p><b>1 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖斐高生がアイドルになる、フェンシングで世界1位になる、いびちゃん (揖斐高校のゆるキャラ) を有名にする</li> <li>・いびがわマラソンを通じて世界の人々と交流する</li> </ul> <p><b>2 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IBI ブランドをつくる・・・空港をつくる、WBCやオリンピックの開催、(揖斐川町のキャラクターである) かっぱを本当に見つける、揖斐川町だけのものをつくる</li> </ul> <p><b>3 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特産物を活用した商品を高校生が考え、地元業者と協力して売り出す</li> </ul> <p><b>4 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖斐のアイドルをつくる。アイドルの歌や活動により揖斐の良さを広める</li> <li>・アイドルの活動の様子をインターネットの動画サイトにアップする</li> </ul> <p><b>5 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有名人を出し、PR してもらう</li> <li>・揖斐を自然遺産、世界遺産にする</li> </ul> <p><b>6 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖斐に空港をつくり、揖斐の景色の写真を飾るなどして PR する</li> </ul> <p><b>7 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「揖斐川」をブランド化し、YouTube や漫画・アニメを利用しておいしい水やお茶、文化を伝える</li> </ul> <p><b>8 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖斐茶を世界へ発信！揖斐茶を使った食べ物やお土産を開発し、養老鉄道を活用した体験ツアーを行う</li> </ul> <p><b>9 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖斐に空港をつくる。そこへ著名人を呼び、揖斐茶を飲んでもらい PR する</li> <li>・「揖斐る」をキーワードに揖斐のブランド化を進める</li> </ul> <p><b>10 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いいところがたくさんあるが「意外と」知られていない。「意外と」をキーワードに、今あるものに付加価値を付け、世界一のものをつくる</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のフューチャーセンターに関する報道 岐阜新聞西濃版 (H27.6.9)、中日新聞西濃版 (H27.6.7) ぎふちゃん ニュース番組「Station」 (H27.6.5)</li> </ul>
今後の展開	<p>1. 対話で出された意見を活かし、揖斐高校生活環境科の生徒 (いびっ高隊) が飛び出せスーパー専門高校生推進事業の一環として「いびの恵み」の PR 活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いびの恵み」を伝えるコマーシャルビデオの作成</li> <li>・県マスコットキャラクターミナモの浴衣の作成及び全国育樹祭での「いびの恵み」PR</li> </ul>

- ・揖斐高ショップや地元イベント（いび川マラソンなど）におけるいび茶んクッキーの販売及び「いびの恵み」PR
- ・揖斐川町を訪問したアメリカの大学生への観光ガイド
- ・中学生向け体験授業におけるいび茶んクッキーづくり 他

2. 岐阜大学教員によるフューチャーセンターの振り返り授業を揖斐高校にて実施（H27.9.4）し、生徒が対話で得た成果や反省点、揖斐のために自ら取り組みたいことについて話し合った。

3. 「揖斐高校学習成果報告会」（H28.1.26）及び「飛び出せスーパー専門高校生推進事業 西濃地区合同発表会」（H28.1.29）において、揖斐高校の代表生徒がフューチャーセンターを含むいびっ高隊の活動について発表した。

4. 揖斐高校の飛び出せスーパー専門高校生推進事業については、今年度をもって終了した。次年度以降の連携の内容については、今後同高と協議する。



## 揖斐高校 フューチャーセンター振り返り授業

平成27年6月5日に開催した「第2回ぎふフューチャーセンター（自然豊かなびわくわくフューチャーセンター）」の振り返りのための授業を揖斐高校にて行った。

1. 日 時 平成27年9月4日（金）13:05～13:50
2. 対象者 揖斐高校生活環境科 3年3組 38人
3. 担当者 地域協学センター：大宮特任准教授、塚本助教、野々村  
揖斐高校：田口教諭

### 4. 内 容

- (1) 各グループのリーダーがフューチャーセンターでの対話の概要を発表
- (2) 「(フューチャーセンターを経験して) 自分が変化したところ」、「出たアイデアで更に改良・実行・追加等できること、または自分が揖斐のためにPRできること」について各自で考え、発表



### 4. 生徒の感想まとめ

#### 「(フューチャーセンターを経験して) 自分が変化したところ」(自由記述)

- ・自分の意見が言えるようになった・・・20人
- ・揖斐について関心を持った（好きになった、知ることができた）・・・15人
- ・いつも話さない人（クラスメイト、大人、大学生）と話せるようになった、交流できた・・・10人
- ・考え方（視野、話題）が広がった・・・9人
- ・B紙（模造紙）や色の使い方がわかった・・・6人
- ・人前で話せるようになった・・・6人
- ・意見をまとめることができるようになった・・・3人
- ・見やすい表を作れるようになった・・・2人
- ・変化なし・・・2人
- ・その他

クラスで発言がしやすくなった、人の顔を見て話せるようになった、現実的に考えるようになった、夢と現実のそれぞれよいところを知ることができた、考え方が少しだけ変わった、人の良いところを探すことが多くなった、大人っぽくなれた気がする ほか

#### 「出たアイデアで更に改良・実行・追加等できること、または自分が揖斐のためにPRできること」

(自由記述)

- ・SNS、ホームページ、ブログ、ツイッターで揖斐を紹介する・・・16人
- ・知り合いや友人に揖斐のよいところを伝え、広める・・・13人
- ・海外に揖斐のもの（揖斐茶など）を輸出する・・・5人
- ・その他

自分がまず揖斐について知る・詳しくなる、観光名所をつくる、ボランティア活動、広告のデザインを考える、自然を使ってヨガなど健康的なことをする、おいしいものを食べて伝える ほか

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.06.05



### 岐阜大学×揖斐高校 いびの魅力の世界へ発信

6月5日、揖斐高校と岐阜大学が連携して開催した「自然豊かないびワクワクフューチャーセンター(略称:いびワクワクフューチャーセンター)」には、揖斐高校生活環境科の生徒(いびっ高隊)、岐阜大学生、揖斐川町の皆さんら58人が「いびの恵みの発信～効果的な発信方法を考える～」をテーマに対話しました。高校生がグループのリーダーを務め、大学生はそのサポートを行いながら、いびのいいところ(いびの恵み)やその発信方法について意見を出しながら対話を深め、最後に「いびの恵みをもっと世界へ発信するには」としてまとめました。各グループからは「揖斐のアイドルをつくる」、「いびがわマラソンを通じた国際交流」、「揖斐のブランド化を進める」、「揖斐茶のPR強化」などの意見が出されました。

揖斐高校では、対話で出された意見を活かし、揖斐川町の広報活動や特産品を生かした製品づくり(揖斐茶のクッキー、草木染の着物など)を行っています。フューチャーセンターをはじめとする揖斐高校の活動について、岐阜大学は今後も連携して取り組んでいきます。



#### 今回のまとめ

- 揖斐のアイドルをつくる
- いびがわマラソンを通じた国際交流
- オリンピックなど国際的な大会の開催
- 揖斐(揖斐川)のブランド化を進める
- 揖斐茶のPR強化
- 高校生が特産品を考え、地元企業と協力して売り出す
- 空港をつくる

各グループからの  
意見・アイデア



#### いびっ高隊で情報発信

揖斐高校生活環境科3年  
野口 弘美さん

グループでの話し合いは事前研修で経験したこともあり、スムーズにできました。大学生や社会人の方の自分とは違う考え方を知り、刺激になりました。高校生がクッキーを考え、特産物として売り出すのは地域の活性化につながると思います。今後もいびっ高隊全員で揖斐川町のことを発信していきます。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>  
[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第3回 ぎふフューチャーセンター

郡上市八幡町市街地の空き家の利活用について

平成27年6月13日（土）

会場：郡上市郡上八幡産業振興公社

主催：岐阜大学



「地（知）の拠点事業」 平成27年度第3回 ぎふフューチャーセンター(in 郡上)	
会 場	郡上八幡産業振興公社/旧庁舎記念館 2階ホール
日 程	平成27年6月13日（土）9:30～17:00
目 的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携して大学が有する多様で豊富な教育力、研究力で県内の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として地域社会の活性化に貢献することを目的としてぎふフューチャーセンターを実施する。
テーマ	「郡上市八幡町市街地の空き家の利活用について」 ① 午前中の市街地踏査により気づいた事を整理して意見交換 ② こんなまちになったらいいのではないかと（空き家の活用）という案を出して意見交換 ③ 郡上市八幡町で実現するにはどうしたらいいか（実際の空き家の利活用や支援策）について案を出して意見交換
内 容	郡上市八幡町市街地では、人口減少と高齢化により空き家が増加してきている。今回のフューチャーセンターでは、高木教授担当の講義である「初年次セミナー」、「環境デザイン」を履修する学生を参加者の中心にし、八幡町市街地の現場を見たうえで、大学教員、行政及び一般市民（移住者含む）の参加を得ながら、市外の者、若者の視点も取り入れ、実際に郡上市八幡町の空き家を活用するための意見を出し、講義と連動したフューチャーセンターを行った。
参加者の構成と人数	42人 7人×6グループ 学生 29人（学部生）+TA4名（大学院生） 大学教員 3人 市職員・一般含む 6人（空き家対策等の関係市民）
対話の方法	7人／6グループ FC（3セッション）
ファシリテーター	高木 朗義 教授（地域協学センター副センター長）

グループ発表

1 グループ

空き家を埋めて空き家を埋める

<PR>

○空き家の分かるサイトづくり

<イベント開催>

○空き家を活用してイベント開催

<宿泊>

○郡上踊りや食品サンプルづくりなど体験して宿泊するツアー開催

<ファンづくり・出展>

○学生が先行して体験し、郡上に移住したい人がつく。

2 グループ

空き家観光

空き家を郡上に生きた情報資源と考え、これを徹底的に売り出す観光をめざす。

<方法>

①圧倒的な情報収集、②圧倒的に面白い編集、③観光客を圧倒する掲載。

<効果>

○空き家の歴史⇒郡上の魅力ととらえる。

○また来たいと思わせる。

○空き家に人が住むことにより、人口増加。

3 グループ

住民×学生による空き家対策＝空き家→サテライト教室にする。

○歴史、文化、自然、地域課題を学ぶ教室として空き家を活用。

①空き家が恒常的に利用される。

②若者向けの仕事生まれる。

③郡上八幡に住んだことを・・・情報発信、将来の住民候補

4 グループ

郡上に泊まろう (キャンペーン)

ターゲット：リフレッシュ (30代から60代)

滞在型、何もせずのんびり

ターゲット：若者

短期型、土日のできるもの。

ターゲット：趣味

釣りプラン、アユ釣り大会、郡上おどりプラン、スキー、雪合戦

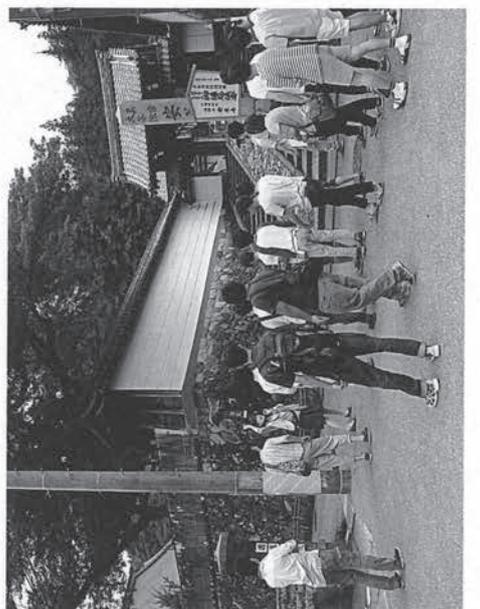
5 グループ

郡上で飲食店を開こう!

カフェ、焼き鳥屋、ラーメン屋、朝から白飯が食べられる所をいくつか

～郡上が goodjob になる!～

	<p>○知ってもらふ 都市に行く（ツアーを組む）</p> <p>○来てもらふ（知ってもらふ）</p> <p>○店を出したいと思ってもらふ（補助）</p> <p>○店を出す</p> <p><b>6 グループ</b></p> <p><b>若者が集まるまち、郡上</b></p> <p>若者があつまるには・・・居住エリアと観光エリアにわけ</p> <p>○居住環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レンタルハウス、サテライトオフィス、芸術家のアトリエ</li> <li>・ 年寄と若い世帯が共生できる仕組みや空間をつくる。</li> <li>・ 公共交通の更なるアクセスの向上</li> </ul> <p>○観光の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古い町並み、食</li> <li>・ 貸コテージ、写真館、観光オフィシャルセンター</li> <li>・ 食べ歩き、500円めし、建物の統一感</li> </ul>
<p>当日のスケジュール</p>	<p>あいさつ</p> <p>FCの説明、概要</p> <p>話し合い（3セット）</p> <p>発表</p> <p>まとめ</p> <p>閉会</p>
<p>FCのまとめと今後の展開</p>	<p>郡上市八幡町市街地の空き家については、様々な観点から課題となっている。空き家については郡上市に限ったことではなく、全国的な問題となっているが、郡上市八幡町市街地の一部については、伝統的建造物群保存地区に指定されたことや、歴史的なまちづくりを進めて行く上で、空き家についての課題は、市にとっても解決していかなくてはならない課題である。こうした課題に対して、多様な視点を持つ大学生を中心としたフューチャーセンターが開催できたことは有意義なことであった。当日は、市街地を散策し実際に現場を見て、フューチャーセンターに入ったことで、より現実味のある意見が出されたのではないかと思われる。しかしながら、限られた時間の中でのフューチャーセンターであり、空き家の課題解決に至るまでの即効性のある解決策とまでは言えなかった。その後、学生たちが大学へ持ち帰って、さらに議論を深めて行こうという機運が盛り上がった。講義を通してさまざまな意見を出し合いながら、実際に空き家をリノベーションできないか。また、実際にリノベーションできるような提案をしていこうという議論が進んできた。現在、高木教授の指導のもと、実際にリノベーションできないか議論を進めており、今後その成果が期待される。</p>

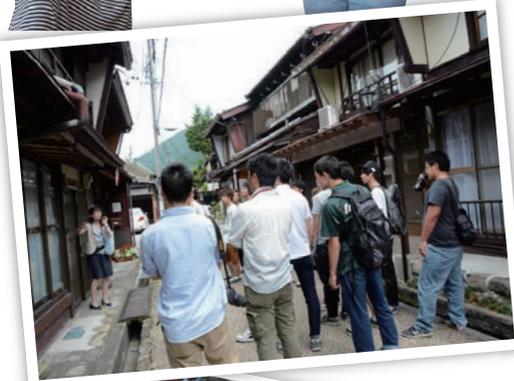


# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.06.13 2015年10月1日発行号

VOL.19



## 郡上市八幡町で 市街地の空き家活用について考える

郡上市八幡町の中心市街地では、人口減少と高齢化により空き家が増加しています。6月13日、郡上八幡旧庁舎記念館で開催した「郡上市八幡町市街地の空き家の利活用について」(第3回ぎふフューチャーセンター)には、岐阜大学工学部の「初年次セミナー」、「環境デザイン」を受講する学生33人が参加しました。学生たちは市街地を歩いて現地踏査し、市で空き家対策に取り組む郡上市の関係者6人(移住者含む)とともに、空き家の利活用について対話を行いました。学生が事前に研究し、また実際に現地を確認してから、空き家の活用についてどのような方法があるのか意見を出し合ったことで、空き家活用について多くの意見が出されました。その後、これらの意見を学生が持ち帰って再度検討を重ね、様々な空き家利活用を提案できるようまとめることができました。

今後も、引き続き研究を重ねて郡上市において課題となっている空き家対策に貢献できるよう、岐阜大学は地域と連携して取り組みを進めていきます。



### 今回のまとめ

- 前線教室  
(教室として改修した空き家を利用)
- 郡上今翔かん(空き家をリノベーション)
- 郡上八幡で飲食店を開こう(空き家活用)
- ¥0プロジェクト  
(0円で、空き家のリノベーションプロジェクト)
- 空き家は財産(空き家でのイベント構想)
- 人を呼ぶ空き家(ミニアウトレットタウンづくり)

各グループからの  
意見・アイデア



### がんばっています地域おこし

郡上市川合東部地域おこし協力隊

鈴木 ちひろ さん

学生のみなさんが、初めて来た郡上八幡について考え、さまざまなアイデアを出してくださったことにとっても感動しました。郡上八幡にはもっと若い力が必要です。これからも郡上八幡に足を運んでほしいと思います。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第4回 ぎふフューチャーセンター

自然保護と地域振興の共存

平成27年8月28日（金）

会場：高山市乗鞍岳畳平

主催：岐阜大学・高山市



「地「知」の拠点整備事業」 平成27年度第4回 ぎふフューチャーセンター	
会場	乗鞍バスターミナル 雷鳥の間 (高山市丹生川岩井谷乗鞍)
日程	平成27年8月28日(金) 11:00~16:00
目的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地(知)の拠点事業」に取り組み、連携自治体とともに地域課題の改善に寄与することを目的としてぎふフューチャーセンターを実施する。
テーマ	自然保護と地域振興の共存 (1) 乗鞍の自然を守るためにとるべきこと。 (2) 地域振興のために必要なこと、乗鞍を活かした観光のあり方。
内容	<p>高山市の優良な観光地である乗鞍スカイラインは1972年に開通以降、シーズン中は年間50万人、22万台余りのマイカー、バス、オートバイで賑わっていた。しかし、自動車乗り入れの激増による渋滞やスカイライン沿線でのごみの投棄、スカイラインの排水路のトイレ利用などが深刻な問題となった。</p> <p>そこで、乗鞍スカイラインの建設償還期間の30年が経過した期に地元自治体や経済団体等で構成する乗鞍自動車利用適正化協議会が発足して、マイカー規制に関する協議が始まり2003年に長野県側の乗鞍エコラインと同時に車両乗入規制が実施された。</p> <p>規制後は乗鞍岳の貴重な自然環境の保全是確保される一方で、入込客数は3分の1にまで減少し、周辺温泉地の宿泊客数も大きく落ち込み地域経済への影響も課題となった。</p> <p>そこで、2012年から2015年まで乗鞍自動車利用適正化協議会が実施した乗鞍スカイラインEV乗り入れ実験・研究事業における「自然への影響」、「EVニーズ」、「EVの実用性」の検証について高山市と岐阜大学が協力した。今年度は、3ヵ年の調査・研究の成果を踏まえ、高山市の自然保護と地域振興に貢献する活動として、学生、市民及び市職員が乗鞍岳の自然保護を含めた有効活用について議論して研究活動に取り入れる事を目的としている。</p>
参加者の構成と人数	36人 4グループ <内訳> 大学生15人・市職員6人・市民10人・教員1人・乗鞍ガイド4人
対話の方法	KJ法
ファシリテーター	伊藤栄一 (地域協学センター 地域コーディネーター)
グループの意見	<p>乗鞍岳の「自然保護と地域振興の共存」をテーマに、多様な人が議論しその課題解決に向けた提案は次のとおりである。</p> <p>乗鞍岳の自然保護については、全グループから「乗鞍の自然保護は必要である」、「入山者に対して自然保護を周知する看板(多言語表示)の設置や自然保護に関する教育が必要である」という提案があった。その教育については、自然保護に関する事は小、中学校の時期に道徳教育などで学習する事が効果的という意見や入山者への対応は、山岳ガイド等が自然保護に関する講</p>

義を開催して、それを入山前に入山者全員が必須で受講させることで入山者の意識統一が図れて有効的と具体案を出した。

乗鞍岳は、バス等で気軽に入山できることから登山目的以外の観光客も多く訪れるため、自然保護への意識もバラバラで自然保護の面と観光的な面での対応の難しさが意見としてあったが、その二つを両立して対応するには、山岳ガイドなどを増やすことが良好で、ガイド等の育成が最も効果的であると提案があった。

乗鞍岳へは、毎年10万人以上の入山者が訪れている。入山への乗鞍スカイラインは、マイカー規制であるため、入山者の多くはバス等で来場している。このため入山者が外来種を持ち込む危険性が十分ある状況がある。希少な高山植物の生態系を保全するために入山者が外来種を持ち込まない対策が必要という意見や、マイカー規制では、事前にマイカー規制の取組み経緯の説明があった事で、今後も継続するべきと言った意見が最も多かった。その一方では、乗鞍岳の収容能力を把握して入山台数を限定してマイカー（EV自動車のみ）規制を緩和したらどうかという提案があった。

地域振興については、標高2,702mまで気軽に行ける事と雄大な自然と希少な動植物に触れられる魅力を価値として広くPRする事が効果的と提案があった。その内容には、乗鞍岳が備える設備、登山道などの整備状況や天候、山の状況及び有事の際の対応などを具体的に多言語で情報発信することが有効で、入山しやすい環境づくりが必要と意見があった。さらに、高低差や環境を活かして、高地トレーニングの場として提供する事や四季折々のイベントを積極的にPRする事及び岐阜県、長野県の広域連携で乗鞍の知名度を向上させるPRを積極的に推進する事で地域振興が図れると提案があった。

乗鞍岳への入山者について山岳ガイドからは、入込客の質（環境へ配慮する人）が、マイカー規制前と比較して向上していると話があった。その理由では、以前はマイカーで気楽に入山できた事で入山者が多く訪れたが、それに伴いゴミなどによる環境汚染も広がったが今はそうした事が少なくなり改善されていると説明があった。そして、乗鞍岳は標高2,702mまで車で気軽に行く事ができる日本で唯一の場所で、それを体験する事が既に貴重なことである事と、此处でしか出来ない体験を多くの人に実感してほしいと思う一方で、自然保護への取組みの難しさを語った。

乗鞍岳の自然と観光資源については、2013年に開催された乗鞍フォーラムにおいて、横浜国立大学の加藤峰夫教授から「乗鞍岳の適正利用」として生態系保全と利用体験提供のバランスが大切で適正な収容力を検討して順応的管理の実施が重要と提言している。

<p>FCのまとめと今後の展開</p>	<p>現在、乗鞍の環境保全への取り組みでは、岐阜県が法定外目的税として乗鞍環境保全税を創設してバス、タクシーが鶴ヶ池駐車場を利用する際に徴収して、環境パトロールの活動や公衆トイレ及び園路の整備など環境保全活動に役立てられている。もう一つは、乗鞍自動車利用適正化協議会が、2013年から乗鞍スカイラインにおける環境保全と観光振興の両立を研究するEV自動車の乗り入れ実験を実施し、その効果を岐阜大学の協力を得て評価分析され、毎年開催される乗鞍フォーラムで調査研究の成果や関係機関の取り組みが紹介されている。この取り組みは、今後もこの取り組みは継続される予定である。</p> <p>このような活動を踏まえて今後は、乗鞍岳という資源を多くの人に知ってもらい、そこにある自然と観光資源を最も効果的に活用できる体制づくりに取り組む必要がある。それには、今の車両規制は継続し、過剰な入山者を入れないことを考慮して適切な対策を検討する必要がある。さらに、山岳ガイドの育成を積極的に推進してガイドを多く確保して、すべての入山者に対して分かりやすく国立公園のルールを紹介し、楽しい山岳体験ができる環境づくりに積極的に取り組む事も必要である。</p> <p>大学においても、行政及び協議会と連携して教員と学生が乗鞍の資源を適切に活用して効果的な資源の利用方法について積極的に調査研究の活動を実施している。今後も行政及び協議会と連携を図り、自然を適切に活用して効果的な観光への取り組み策について調査研究を推進する。</p>
---------------------	---

## ぎふフューチャーセンターのアンケート結果

### 第4回高山会場の結果

参加者35名 回答者32名 回収率91.4%

#### 1. 性別

①男性 22 ②女性 10

#### 2. 年代

①10代 3 ②20代 13 ③30代 2 ④40代 3 ⑤50代 2 ⑥60代 5 ⑦70代以上 4

#### 3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 24 ②2回目 7 ③3回目 0 ④4回目 0 ⑤5回目以上 1

#### 4. これまでに、人たちが集まり話し合いながら何かを決めていく場（ワークショップ等）に参加したことはありますか。

①今回が初めての参加 10 ②これまでに参加したことがある 22

#### 5. フューチャーセンターへの参加を決めた理由はなんですか。（複数回答可）

①テーマ「自然保護と地域振興の共存」に関わりたかった 3

②自分の良い経験になるから 18

③フューチャーセンターに関心があった 2

④人から勧められたから 19

⑤その他 7 ( )

6. フューチャーセンターの感想についてお伺いします。

(1)フューチャーセンターに参加することで、どんなことを期待して来場しましたか。(複数回答可)

- ①参加者を通してさまざまな地域の情報を入手し、視野を広げること 21
- ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えること 18
- ③テーマ「**自然保護と地域振興の共存**」に関して、自分の意見を発言できること 4
- ④地域に関わるひとつのきっかけとなること 11
- ⑤その他 8

(2)今日のフューチャーセンターに参加して、どんな感想をお持ちになりましたか。(複数回答可)

- ①参加者を通してさまざまな地域の情報を聞いて、視野を広げることができた 25
- ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 20
- ③テーマ「**自然保護と地域振興の共存**」に関して、自分の意見を発言できることが大切だ 12
- ④地域に関わるひとつのきっかけとなりそうだ 13
- ⑤その他 5

(3)フューチャーセンターに参加することで、地域に対する考えにどんな影響があったと思いますか。

※参加前に思うこと(複数回答可)

- ①住民自治の意識が高まる 21
- ②人(地域、大学、行政など)のつながりができる 22
- ③行政が身近な存在に感じる 8
- ④その他 2

(4)フューチャーセンターに参加して、地域に対する考えにどんな影響がありましたか。

(複数回答可)

- ①住民自治の意識が高まった 16
- ②人(地域、大学、行政など)のつながりができた 17
- ③行政が身近な存在に感じられた 13
- ④その他 3

7. 今後、フューチャーセンターに参加したいですか。

- ①参加したい 5
- ②テーマに興味があれば参加したい 26
- ③参加したくない 0
- ④その他 0

8. 今後の参考とさせていただくため、フューチャーセンターの内容や進め方について、ご意見をお伺いします

- 座学だけでなく、フィールドワークをどんどん行っていくのがいいと思う。
- ワークショップに参加することは初めてでした。とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。
- 地域について、他の考えや意見を聞きながら考えた時に、いろんな考え方で脳を柔らかくして見る事が出来ました。
- この活動を、いろんな人に広げて行ったらいいと思う。
- 自然の中だからこそ、緩やかな話し合いが出来る。

- 多くの人々の意見が聞けて良かった。
- 地元の山をもっと拡散の人々に知ってもらいたいと思う。美しい自然を大切にせねばと思いました。
- 人の意見を尊重することは良い。
- 公募型での開催に期待したい。
- 参加して本当に良かった。自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたり面白かった。
- グループの中で発言しない、発言が少ない人がいたのもう少し少人数での話し合いでも良いと思った。
- 皆さんの意見が平等に聞けてとても良い進め方だった。
- 世代を超えた楽しいひと時でした。
- もう少し時間があれば良いと思いました。今後も地域の人と関わる場が出来れば参加したいです。
- もう少し話し合う時間がたっても良かったと思う。
- 最初に散策があり、乗鞍岳の魅力や改善点などを考えるのにイメージが湧きやすかった。
- 若者の意見をいろんな場面に反映できる「つなぎ」の役割をフューチャーセンターが担ってほしい。
- 話し合いの際に決められていたルールによって、非常に話し合いやすい場になっていた。そのため、様々な方々と意見を交換できて楽しかった。
- 学生と関わり事が無いのでよかった。
- このような取り組みを広く県民へPRしてほしい。

#### <フューチャーセンターの効果>

##### アンケートNo.6

(1)、(2)

話し合いの場で、自分の意見を発言する事は大切と認識した人が増えた。

(3)、(4)

住民自治の意識が下がった。

行政が身近に感じたが増えた。

##### アンケートNo.8

意見が多かったもの

1. フューチャーセンターの手法や取組みが良かった。
2. 地域を見直すことが出来た。
3. 議論する時間がもっと欲しい。

#### まとめ

大学教員、大学生、社会人、山岳ガイドと世代の異なる多種多様な人々とフューチャーセンターを開催した。テーマ「自然保護と地域振興の共存」をグランドルールの下で議論した。今回の取組み方法は、参加者がまず現地を踏査して、テーマに関連した講義を教員から受けて対話に入る事とした。その効果もあって有意義な場が設定できた。対話では自分の意見をしっかり発言できたなど多様な意見が活発に繰り広げられて良かった。しかし、住民自治については、課題を身近に感じる事が少し弱く、自分はこの課題にどの様に取り組むかと言うところの意見が消極的であった。

今回のフューチャーセンターは多種多様な人達と対話し、自分たちが住む地域の資源を再認識する目的では、アンケート結果からも成果があったと見受けられた。



電気自動車(EV)乗り入れ実験・研究事業



【乗鞍WG】EV実験・研究事業研究チーム



## 第5回 乗鞍フォーラム

### サイクルヒルクライムに関する調査報告

～乗鞍岳を活かした地域振興策として～

乗鞍フォーラム

2015.12.19

岐阜大学 三井 栄

### 調査報告と考察

#### 目的

地域振興と自然保護の観点から  
乗鞍スカイラインサイクルヒルクライムを事例に  
来訪者数増加のための取組みについて考察する

- 1 自転車による来訪者の乗鞍に対する認識に関するアンケート調査
- 2 シャトルバスや観光バスによる来訪者との比較
- 3 来訪者数増加を図るための取組み



### 自転車利用者による乗鞍岳に対する評価に関するアンケート調査

#### <調査要領>

調査目的: 自転車による入山者の乗鞍岳に対する認識の把握  
調査対象: 乗鞍岳への自転車による来訪者  
調査方法: アンケート調査  
調査日: 2015年7月11日(土)、8月23日(日)、9月19～22日(連休)、27日(日)  
総回収数: 262サンプル  
有効回答数: 253サンプル(有効回答率96.6%)

調査項目

Q1 性別	Q10 禁止事項の認知度
Q2 年齢	Q11 ゴミに対する工夫
Q3 居住地	Q12 自転車走行時における危険
Q4 職業	Q13 次回の交通手段
Q5 旅行行程	Q14 今後、期待する取り組み
Q6 宿泊地	Q15 マイカー規制に対する意識
Q7 旅行予算	Q16 入山料金
Q8 訪問回数	Q17 EV実験の認知度
Q9 乗鞍に関する11項目への評価	Q18 EV実験の情報の入手先
	Q19 EVの乗入への賛否とその理由

### 乗鞍岳への認識や期待する取組み等の把握に関するアンケート調査

#### <調査要領>

調査目的: 観光客の乗鞍岳に対する認識の把握  
調査対象: 乗鞍岳来訪者  
調査方法: アンケート調査  
調査日: 2014年9月2日 火曜日、3日 水曜日、23日 火曜日(祝日)  
総回収数: 332サンプル  
有効回答数: 250サンプル(有効回答率75.3%)

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| Q1 性別           | Q10 乗鞍での滞在時間           |
| Q2 年齢           | Q11 乗鞍での予算             |
| Q3 居住地          | Q12 訪問回数               |
| Q4 職業           | Q13 訪問地に乗鞍岳を選んだ理由      |
| Q5 旅行行程         | Q14 乗鞍に対する認識11項目に対する評価 |
| Q6 宿泊地          | Q15 禁止事項の存在            |
| Q7 旅行予算         | Q16 マナー指導への評価          |
| Q8 乗鞍までの交通手段    | Q17 次回の交通手段            |
| Q9 ターミナルまでの交通手段 | Q18 今後、期待する取り組み        |

### 自転車による来訪者の特性

- ◆ 男性の比率が高い86.6%  
(バスは男性54.8%)
- ◆ 若年層の比率が高い  
20・30代が43.5%、40・50代が51.7%  
(バスは60代以上が48.4%と約半数を占める)
- ◆ 会社員・学生の比率が高い  
(バスは無職・主婦の比率が高い)
- ◆ 旅行予算は相対的に低い

Q2	年齢	自転車	バス		
		度数	%	度数	%
累計		253	100.0	250	100.0
1	10・20代	97	28.5	21	8.4
2	30代	49	17.0	34	13.6
3	40代	77	30.4	43	17.2
4	50代	54	21.3	21	12.4
5	60代	10	4.0	86	34.4
6	70代以上	2	0.8	32	12.8

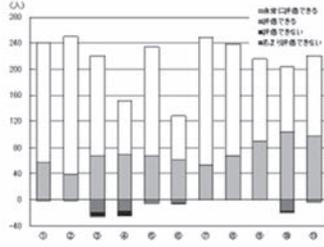
Q4	職業	自転車	バス		
		度数	%	度数	%
累計		253	100.0	250	100.0
1	会社員	155	61.3	88	35.2
2	公務員	15	5.9	19	7.6
3	主婦	5	2.0	40	16.0
4	パート・アルバイト	3	1.2	18	7.2
5	学生	50	19.8	4	1.6
6	無職	2	0.8	53	21.2
7	その他	21	8.3	28	11.2

Q7	旅行予算	自転車	バス		
		度数	%	度数	%
累計		248	100.0	250	100.0
1	1万円未満	116	46.8	89	35.6
2	1～2万円	66	26.6	34	13.6
3	2～3万円	40	16.1	44	17.6
4	3～5万円	20	8.1	52	20.8
5	それ以上	6	2.4	31	12.4

乗鞍岳に対する評価11項目

- ①スカイラインのドライブ/サイクリング
- ②スカイラインからの景観/眺望
- ③気軽に2700mまで登れる
- ④気軽にご来光が見に行ける
- ⑤曇平からの景観、眺望
- ⑥剣ヶ峰への登山
- ⑦澄んだ山頂の空気
- ⑧高山植物等の自然環境
- ⑨登山道やトイレなど環境整備
- ⑩乗鞍の情報提供のあり方
- ⑪スタッフの対応



自転車による来訪者はバスによる来訪者よりも「非常に評価できる」の回答比率が高く、リピーターとしても期待できる  
ただし、④と⑥は体験していないケースが多く、「わからない」が多い

自転車による来訪者の問題点

- ◆ 国立公園における禁止事項の認知度が相対的に低い  
知っていて守れなかった76.7%、知らなかった21.3%  
(バスは知らなかった11.2%)  
→シャトルバスではアナウンスがある、登山目的者が多い
- ◆ ゴミを落とさない工夫している 94.1%  
落としたことあり・何もしていないも6名、無回答9名
- ◆ 危険と感じたこと  
下りのスピード 42.7% 車との並走 17.8%  
下りの追抜き 15.4% 登りの追抜き 14.6%  
登りの疲労時 13.4%  
→現時点で大きな事故は起きていないが...

自転車による来訪者による  
環境保全に対する支払意思額

1	500円以内	101	39.9 %
2	1000円以内	84	33.2 %
3	1500円以内	29	11.5 %
4	払いたくない	28	11.1 %
5	無回答	11	4.3 %

自転車による来訪者による今度の取組みへの期待

1	自転車のガイドツアー	53	20.9%
2	自転車だけの時間	60	23.7%
3	自転車だけの日	86	34.0%
4	その他	43	17.0%

自転車による来訪者を増加させるために

国立公園内のルールの周知  
「ルール知らない」は20・30代が約7割  
初めて来訪者が65%

バスや自転車への注意喚起・事故防止策の実施

自転車だけの時間や日にちを設定  
ガイドツアーにより乗鞍の魅力を伝える

環境税徴収も今後の検討事項

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.08.26



### 乗鞍の自然保護と 地域社会の共存を考える

岐阜県と長野県にまたがる乗鞍岳は、貴重な自然環境を保全するためマイカーでの入山が規制されています。8月28日は、乗鞍スカイラインの終点である畳平にてフューチャーセンターを開催し、岐阜大学生、山岳ガイド、地域住民、高山市職員の皆さんら36人が参加しました。

まず、岐阜大学地域科学部の三井栄教授による乗鞍スカイラインのEV(電気自動車)乗り入れ実験に関する報告や同学部林琢也准教授による世界遺産・小笠原諸島の事例紹介を行い参加者で自然保護や観光に関する情報を共有し、その後、「乗鞍の自然を守るために取り組むべきこと」や「乗鞍を活かした観光のあり方」について対話を深めていきました。

各グループからは、「まず地元の人意識を高める」、「環境教育やガイドの育成を行う」、「周辺地域と連携し宿泊型の観光にする」といった意見が出されました。

今後は、これらの意見を活かした岐阜大学と高山市による研究事業のほかCOC事業の地域志向学プロジェクト研究が進められ、その成果が期待されます。



#### 今回のまとめ

- 乗鞍へ入山するすべての人達に、自然保護についての教育が必要
- 自然保護のルールや希少な動植物の看板設置(多言語)
- 外来種を持ち込まない対策
- 乗鞍は気軽に標高2702mまで入山できる環境にある価値を広くPR
- マイカー規制は今後も継続するべき
- 乗鞍の収容能力を把握して入山対応を考える
- 山岳ガイドの育成が必要

各グループからの  
意見・アイデア



#### 多様な意見を聞き、広い視野を

岐阜大学地域科学部4年  
岸田 章裕 さん

乗鞍に関して学生はいい意味で何も知らないため、斬新な意見が言えたと思います。ゴミ問題について、私は「ゴミ箱の設置を増やすべき」と意見しましたが、他の方の「ゴミは持ち帰るもの」や「景観的な配慮が必要」という意見から解決の難しさを感じました。卒業研究は、他の学生やいろんな職業の方の意見を伺いながら、広い視野を持って進めたいです。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第5回 ぎふフューチャーセンター

飛騨牛ブランドをどう考えるか

平成 27 年 9 月 29 日（火）

会場：高山市 JA ひだ本店

主催：岐阜大学応用生物科学部



「地（知）の拠点整備事業」	
平成 27 年度第 5 回 ギフフューチャーセンター	
企画名	飛騨牛倶楽部
会場	JA ひだ本店
日程	平成 27 年 9 月 29 日（火）13:00-15:00
目的	飛騨牛倶楽部は大学 COC 事業「ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学」の中で地域志向学として開講される授業であり、地域にとけこみ活躍する人材（地域志向人材）の育成を目的としている。岐阜県ブランドの 1 つである飛騨牛を教材として、地域ブランドについて考える。 合宿後もグループワークを継続して最終的には発表を行うため、後のグループワークの土台となるような対話の場を提供する。
テーマ	飛騨牛ブランドをどう考えるか
サブテーマ	(1) 「飛騨牛ブランド」の生産・流通の過程でどんな課題が考えられるでしょうか (2) それに対してどんな工夫が考えられるでしょうか (3) 「飛騨牛ブランド」をどうしていけば良いと思いますか
参加者の構成と人数	34 人（6 グループ） 岐阜大学生 20 人（2 年生 6 人、1 年生 14 人） JA 2 人 飛騨ミート 1 人 地域住民（生産農家）3 人 岐阜大学教職員 8 人（応生教員 5 人、地域協学センター 2 人、事務 1 人）
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	大宮 康一 地域協学センター特任准教授
当日のスケジュール	13:00- 来場者自己紹介、テーマ提示、実施方法説明（KJ 法）、グループ内自己紹介（アイスブレイク） 13:15- 第一セッション 「飛騨牛ブランド」の生産・流通の過程でどんな課題が考えられるでしょうか ※当日、参加者からの発案で、各グループで地域の方からのお話を聞く時間を冒頭に 5 分程度確保。それを核に対話を進めた。 (グループ別に生産・流通を選択あるいは指定) 13:35- 第二セッション それに対してどんな工夫が考えられるでしょうか 14:00- 第三セッション 課題を発展的に解消するためには、どんなブランド戦略をとれば良いでしょうか 14:30- 発表・まとめ 15:00 終了
グループ構成	○学生 3-4 人（2 年生 1 人、1 年生 2-3 人） ○学外 1 人 ○教職員 1-2 人 ※ 2 年生にグループリーダーを務めてもらう。 ※ 学生の流通・生産の班分けは合宿中に意思確認をして振り分けた。

<p>出された意見・ アイデア</p>	<p><b>【生産班 1】</b>  ・差別化の「見える」化  ・価値をつける人への PR  ・観光とのタイアップ</p> <p><b>【生産班 2】</b>  ・新規就農者を増やす  ・地域全体のつながりを強める  ・質の良い物を作る</p> <p><b>【生産班 3】</b>  エサ代コストの限界、高齢化、子牛が少ない等の問題  ⇒肉質以外での差別化  →味の好みは人によって違うので、他ブランドと味で差別化</p> <p><b>【流通班 1】</b>  ・消費者と生産者をつなぐ（意見交換、アンケート実施、6次産業レストラン等）  ・ブランド（特異性を出す、高級牛であることの意義を考える等）  ・知名度を上げる（取扱店を増やす・他県での消費をうながす・全国に PR する等）</p> <p><b>【流通班 2】</b>  ①「安心・安全な飛騨牛」を全国・海外に知ってもらう  →②岐阜県に観光に来てもらっていろいろな商品として買ってもらう  →観光客がお土産として持ち帰った物が広まり、より知名度が高まる!!</p> <p><b>【流通班 3】</b>  ・高級路線  ・観光と密着  ・PR</p>
<p>今後の展開</p>	<p>話し合いで作られた模造紙は、後のグループワークに活用。フューチャーセンターで6グループに分かれていた受講生は、2グループずつ固まって更にアイデアを掘り下げ、平成27年12月17日に成果報告会を実施した。</p> <p><b>【1班】</b> ハラル認証牛の勧め  <b>【2班】</b> 各学生それぞれが提案（観光ルートの作成・小中学生の見学実施・大規模化によるコスト削減・飛騨牛らしさ・知名度 up 作戦）  <b>【3班】</b> HP 改訂提案・若い女性向けの飛騨牛バーガー提案（試作品あり）</p> <p>また、「地域ブランドと地域振興」の授業は来年度も継続開講とし、飛騨牛倶楽部3年目（Ⅲa）の学生は JA へのインターンシップを実施する他、富有柿やジビエをテーマとした「地域ブランドと地域振興」b、c も新たに開講する予定。</p>

ぎふフューチャーセンター アンケート結果

平成27年度第5回 「飛騨牛ブランドをどう考えるか」

参加者数32人、うち回答数32

1. 性別

	①男性	②女性
人数	24	8
割合(%)	75	25

2. 年代

	①10代	②20代	③30代	④40代	⑤50代	⑥60代	⑦70代以上
人数	14	7	0	5	4	2	0
割合(%)	43.8	21.9	0	15.6	12.5	6.3	0

3. フューチャーセンターへの参加回数

	①1回目	②2回目	③3回目	④4回目	⑤5回目以上
人数	17	12	1	1	1
割合(%)	53.1	37.5	0	0	0

4. 話し合いの場(ワークショップ等)の参加経験

	①初めて	②経験有
人数	12	20
割合(%)	37.5	62.5

5. 参加の理由(複数回答可)

	①テーマに関わ りたかった	②自分の良い経 験になる	③FCIに関心が あった	④人から勧めら れた	⑤その他
人数	7	13	0	4	16
割合(%)	17.5	32.5	0	10	40

⑤その他 の内容  
授業の一環 6  
飛騨牛を食べることができた 3  
現場の声を聞きたかった 1  
未回答 6

6. フューチャーセンターの感想

(1) フューチャーセンターに参加することで、どんなことを期待して来場しましたか(複数回答可)

	①参加者から地 域の情報入手 し、視野を広げ ること	②さまざまな知識 や経験を持った 人と知り合えるこ と	③テーマに関して 自分の意見を発 言できること	④地域に関わる きっかけのひとつ となること	⑤その他
人数	19	17	9	4	2
割合(%)	37.3	33.3	17.6	7.8	3.9

⑤その他 の内容  
一般の人の意見を聞きたかった 1  
意思決定の仕方を学ぶ 1

(2) 今日のフューチャーセンターに参加して、どんな感想を持ちましたか(複数回答可)

	①参加者から地 域の情報入手 し、視野を広げ ることができた	②さまざまな知識 や経験を持った 人と知り合うこ とができた	③テーマに関して 自分の意見を発 言できることが大 切だ	④地域に関わる きっかけのひとつ となりそうだ	⑤その他
人数	24	13	16	5	3
割合(%)	39.3	21.3	26.2	8.2	4.9

⑤その他 の内容  
続けることが大事 1  
自分の意見を深めたり改めたりできた 1  
テーマに対し学生が考える機会を得た 1

(3) フューチャーセンターに参加することで、地域に対する考えにどんな影響があると思いますか(複数回答可)

	①住民自治の意 識が高まる	②人(地域、大 学、行政など)の つながりができる	③行政が身近な 存在に感じる	④大学が身近な 存在に感じられた	⑤地域が身近な 存在に感じられた	⑥その他
人数	5	17	5	9	12	1
割合(%)	10.2	34.7	10.2	18.4	24.5	2

⑤その他 の内容  
地域経済に対する意識が高まる 1

(4) フューチャーセンターに参加して、地域に対する考えにどんな影響がありましたか(複数回答可)

	①住民自治の意 識が高まった	②人(地域、大 学、行政など)の つながりができた	③行政が身近な 存在に感じられた	④大学が身近な 存在に感じられた	⑤地域が身近な 存在に感じられた	⑥その他
人数	5	18	5	7	14	2
割合(%)	9.8	35.3	9.8	13.7	27.5	3.9

⑤その他 の内容  
地域経済に対する意識が高まる 1  
未回答 1

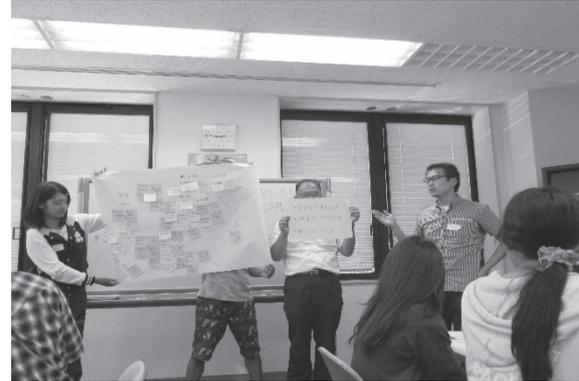
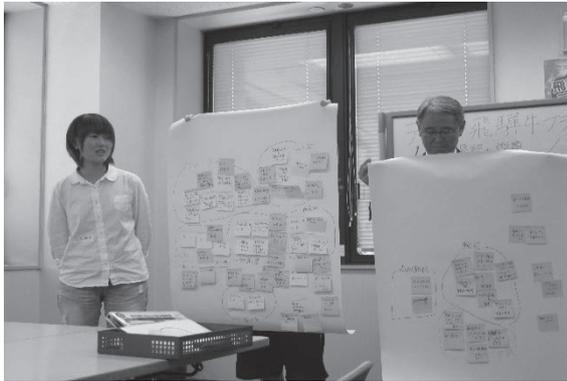
7. 今後のフューチャーセンターへの参加

	①参加したい	②テーマに興 味があれば参加 したい	③参加したくない	④その他	⑤その他 の内容
人数	13	17	0	2	センターが積極的にプロモーターになるべき 1
割合(%)	40.6	53.1	0	6.3	未回答 1

## 8. 自由意見

内容	年代
自分が思い浮かばないことなどもたくさん話に上がりとても参考になりました。もう少し発表の内容を考える時間や話しをしたあとに大まかにまとめる時間があつたらよかったです。	10代女性
時間が短い。今回のようにリーダーが決まっていると話し合いがしやすくてよいと思った。	10代女性
当事者(農家の方)が抱える問題を明示していただきたい。何に困っているかとか、どういう風に解決してほしいなど。進行はテンポがよくとても発言しやすかったです。	10代女性
とにかく自分の意見をどんどん発言していくことが大切だと思った。どんな意見をいっても尊重し、否定されないで頭をやわらかくして様々な意見を出し合うことができ、とてもよい経験となった。	10代女性
意見に対する反論を禁止(意見をつぶすことの禁止)はよい制度だと思います。今回は滞りなく議論できましたので、進め方のフローチャートがあると便利だと思います。	10代男性
ふせんに書くとき、少し時間が短いかなと思いました。他はよいと思います。	10代男性
知識のある人の発言はやはり影響力があると思いました。そういう中でみんなが発言できるといいと思います。	10代男性
出た意見に対してさらに意見を出せる時間が欲しかった。	10代男性
社会に向けて自分の意見を出し合える場は貴重なのでとても有意義な時間を過ごせた。話し合う時間をもっと取りたかったのでスムーズな進行をしてほしい。	20代女性
今回は飛驒牛の向上についてのフューチャーセンターでしたが、意見をまとめるのにもう少し時間が欲しかったです。	20代男性
テーマがあると話しやすいが盛り上がっているときにテーマを変えられるのもつたいない。	20代男性
どのテーマが具体的に発展可能かあたりをつけてください。継続・発展しなければいけないと思います。	40代男性
基調講演等、課題提起があってもいいと思う	50代男性
定期的な進め方では議論が進まない。とりあえずとしてはよいかもしれないが、議論を深める取組みには適さない。FOを開催したら必ず対応を徹底して継続的に取り組むことが必要。	60代男性

## 当日の様子



## 平成 27 年 12 月 17 日 成果報告会の様子



# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.09.29 2015年12月1日発行号

VOL.20



## 生産、流通の課題から探る 飛騨牛ブランドの未来戦略

岐阜大学全学共通教育科目「地域ブランドと地域振興I、II(飛騨牛倶楽部)」では、受講生は応用生物科学部の先生方の指導の下、外部講師(JA職員等)による講義や高山市での宿泊実習(岐阜県畜産研究所や地元畜産農家、飛騨ミートの施設の見学)を通じて、岐阜県のブランドである飛騨牛の振興について考えます。9月29日、この授業の一環として開催したフューチャーセンターには、学生や教員、JA関係者や農家のみなさんの32人が参加しました。

対話では、グループごとに飛騨牛の生産または流通の過程での課題やそれに対する工夫を出し合い、最後に「発展的に飛騨牛ブランドを盛り上げるためのブランド戦略」としてまとめ、発表しました。各グループからは、「観光と結び付ける」、「牛の特徴を数値として見える化する」、「法人化や資金面の支援により新規参入しやすくする」などの意見が出されました。今後、学生たちは飛騨牛についてさらに学びを深め、その成果を地域に向けて発表する予定です。



### 今回のまとめ

- 観光と結び付けてPRする
- 飛騨牛らしさ(小サシ(コースに脂がきれいな網目状に入る)、淡い肉色など)を数値として「見える化」する
- 肉質以外で差別化を図る
- 法人化や資金面の支援により新規参入を促し、後継者を育てる
- 子牛の数が少ないため、衛生管理を徹底し、子牛の病気を防ぐ

各グループからの  
意見・アイデア



### 自分の考えを広げるきっかけに

岐阜大学応用生物科学部1年

齋藤 結女 さん

飛騨牛の現地研修で学んだことに関して意見交流をすることで、仲間や自分と異なる立場の方々の多様な意見を聞くことができました。どの意見も非常に興味深く、斬新であったため、自分の考えをより広げることができました。今回学習したことをもとに、課題解決のため、様々な視点から考察をしていきたいです。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第6回 ぎふフューチャーセンター

若者よ、投票に行こう

平成27年11月10日（火）

会場：岐阜大学サテライトキャンパス

主催：岐阜大学・岐阜市



「地（知）の拠点整備事業」	
平成27年度第6回 ぎふフューチャーセンター（in 岐阜）	
会場	岐阜大学サテライトキャンパス
日程	平成27年11月10日（火） 13:00～15:40
目的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点整備事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携して大学が有する多様な豊富な教育力、研究力で県内の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として地域社会の活性化に貢献すること目的としてぎふフューチャーセンターを実施した。
テーマ	若者よ、投票に行こう （1）若者が投票に行かない理由を考える （2）若者が投票するようになるには
内容	選挙の投票率については全国的に低下しており、岐阜市においても例外ではない。その中でも年齢が若いほど投票率が低いという状況である。 また、平成27年6月、公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、公布（平成28年6月19日施行）され、年齢満18年以上満20年未満の者が選挙に参加することができることとなった。このことによって、大学生全員が選挙権を持つこととなる。 当事者となる層が増える若者が意思表示することは重要であるため、若者の代表として大学生から積極的に意見を聞くことで、選挙啓発や教育等、若者が投票するようになるためのアイデアや方法を考える。また、参加する大学生自身が投票に対する意識を持つことも目的とする。
参加者の構成と人数	35人（6～8人 × 5グループ） 岐阜大学 学生 12名 教職員 3名 岐阜市 職員 14名 一般市民等 6名
対話の方法	グループによる話し合い FC（2セッション、KJ法）
ファシリテーター	田中 伸 准教授
グループ発表	（1グループ） ・投票に行かない理由として、面倒くさい、知識がない、関心がない、投票しても成果が得られない、誰が当選しても変わらないということが挙げられた。解決策として、政治家を知らないの、政治家がSNS等で情報発信すること、投票する側も政治に関心がないことや政治不信で一票入れる価値があるのかという意識的なところで、政治への重みや当事者意識を持つ教育を小中高で行うこと、大学生や大人に対しても当事者意識を持つ文化や風潮を作ることが大事ではないか。選挙に行くことを一つの義務として、罰金やポイント制で還元されるといった形にして、選挙に行くことの価値を違った形で見出していけたらよいのではないかと。マイナンバー制度も始まるので、リスクもあるがネットから簡単に投票できるようになるとよい。選挙権も18歳以上に引き下げられたので、それに合わせて参政権も18歳以上に引き上げ、若い政治家が生まれるようになれば、政治に関心を持てるようになるのではないかと。 （2グループ） ・そもそも政治に興味がない、情報が多すぎてかえって混乱する、学校で政治や選挙について話し合う場がない、学校では教科書だけで教えていて主体的に学ぶということがなされていない、投票所の場所が閉鎖的で暗い、投票所が近すぎて誰が投票したのかが分かってしまう、など投票所に問題があるのではな

	<p>いかという要因が考えられる。今の制度を見直すこと、未来の子供たちの意識を改革することについて、投票所と学校の教育の2つにまとめた。小学生の段階から自分の考えや情報を発信することを行うため、このFCのような議論する場をたくさん作ることで興味がないということを改善するきっかけとなるのではないかと。選挙の立会人をもっと若い人にやってもらい盛り上げていく必要があるのではないかと。投票に一回も行ったことがない人に一度行ってもらうために投票所から盛り上げていくことが必要ではないかと。高校生も投票権を持つことになるので、学校に投票所を設けることも必要ではないかと。投票する人によって投票所の場所をいろいろと変えていくことが必要である。</p> <p>(3グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投票に行かせるという観点から3点にまとめた。生活圏からアプローチしていくこととして、WEB投票やショッピングモール内に投票所を設置する。選挙に行かなければいけないという強制性を持たせるということとして、投票することでポイントを付け何かしらメリットを持たせることや雇用者側が仕事として義務にする。また、学校で投票済書によって単位を出す。選挙について、誰を当選させるかという選挙ではなく誰を落とすかという選挙にする。</li> </ul> <p>(4グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選挙の必要性を感じない、候補者が高齢の方が多く若者が関心を持っていない、投票所が遠い、メリットがない、面倒くさい、興味がない、情報が分かりにくいというのが主な原因として考えられた。根本にあるのは、関心がない、面倒くさいというところにある。最悪の場合は法的に義務化することだが、そこに一票の価値があるのかという問題になるので最終手段としたい。その前にどうしたらよいかを考えると、教育を通して興味・関心を持ってもらうということが言えるのではないかと。情報に関しては、地域での交流を増やすことやネット投票できるようにすること。関心のない人はどんなことをしても投票しないので、これからの教育の中で、地域・家族を巻き込んで選挙の話をする場を作ることで、将来の若者が選挙に行くようにしていくことが大事なのではないかと。</li> </ul> <p>(5グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投票に行くのが面倒くさい、住民票を移していないのでいつ選挙があるか分からないので選挙があることを知っても行けない、候補者が若者と年代が離れている人ばかりで関心が湧かない、誰に投票したらよいか分からない、話題が上がってこないし政治の関心が低い、時間がないので投票に行けない、という原因に対して、マイナンバーを活用してネットで投票することや学校・職場・コンビニなどで投票できる制度を作ること、立候補できる年齢を引き下げるとか立候補するのにお金がかからないようにするなど、若者と同年代の人が立候補できるような制度を作ること、投票を義務化すること、投票することで商品券や税金の優遇措置を付けること、学校で選挙の授業をすること、投票日を1ヶ月前には知らせることを解決策として考えた。</li> </ul>
<p>FC のまとめと今後の展開</p>	<p>岐阜市において、選挙年齢引き下げも含め、今回のフューチャーセンターで出た意見を踏まえて選挙啓発を行っていく予定である。また、岐阜大学に期日前投票所が設置される予定となっており、若者がより投票しやすい環境が作られる。</p> <p>選挙に関しては、主権者としての意識が投票に大きく関わってくるところであるが、今後このような大学生による選挙の話題での対話の場が増えることが期待される。また、市と大学生のパイプができたことによって、連携して啓発活動が行われることが期待される。</p> <p>参加者には、県選管や他自治体からの参加もあったため、対話の場が他自治体へ広がることも期待できるのではないかと考える。</p>

## 第6回ぎふフューチャーセンターin岐阜のアンケート結果

平成27年11月10日(火)開催 午後1時から午後3時40分まで

参加者35名 回答者35名 回収率100%

### 1. 性別

①男性 30名 ②女性 5名

### 2. 年代

①10代 ②20代 15名 ③30代 13名 ④40代 5名 ⑤50代 2名 ⑥60代 ⑦70代以上

### 3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 20名 ②2回目 12名 ③3回目 1名 ④4回目 1名 ⑤5回目以上 1名

### 4. FCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 29名

②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 16名

③大学又は行政が身近な存在に感じられた 2名

④その他 1名

### 5. 政治に関心がありますか?

①とても関心がある 6名

②少し関心がある 25名

③あまり関心がない 4名

④まったく関心がない 0名

⑤その他 0名

### 6. 今後、選挙に行こうと思いますか?

①必ず行こうと思う 26名

②興味があれば行こうと思う 7名

③行こうと思わない 0名

④わからない 0名

⑤その他 2名

### 7. FC参加前、選挙当日の投票所以外での投票方法を知っていましたか?

①全て知っていた 19名

②一部知っていた 13名

③全て知らなかった 3名

### 8. 今回のFCに参加して、①学びになったこと、②今後、活動してみよう(又は業務に活かそう)と思うこと、③感想などをご記入ください。

○大学に投票所の設置を来年の参議院選挙に向けてがんばります。

○①色々な経験を持った方の意見を聞くことができた。②選挙の情報収集、③勉強になりました。

○選挙に関する考え方を立場のちがう人達から聞くことができ、参考になった。教育以外の方面からのアプローチ、特に主婦の方からの意見は予想外で刺激的だった。

○学年、職員の方、一般からの参加の方々と意見を共有できて、様々な考えを知ることができた。幅広い意見をかわすことがよりよい解決策の発見につながると感じた。

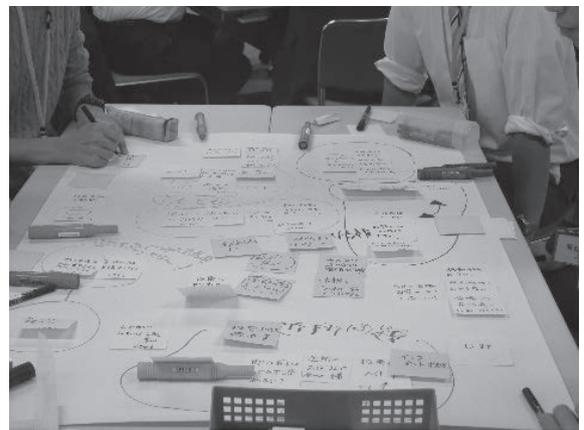
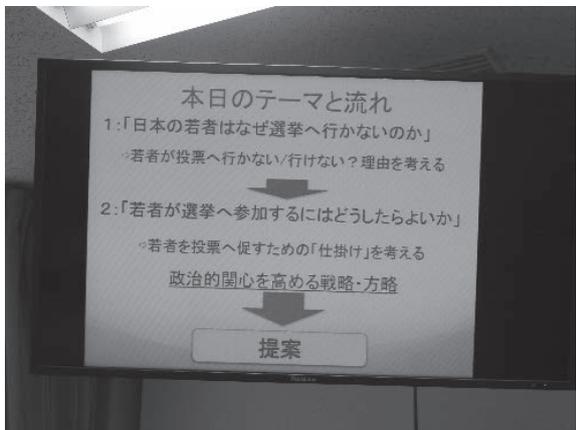
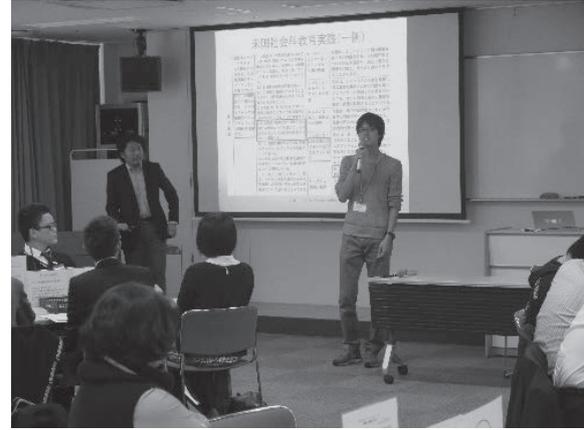
○①「保守的なチャレンジ」というコンセプトがあること。②すでに政治について話す場があるので、「新聞カフェ」とか)、もっと生かしたい。③そろそろ目的を高くかかげるべきだ。FCに参加して、テーマについて話し合えただけでも・・・という次元から、より具体的にしていけるべき。チームリーダーを含め、ワークショップの方法を知っていない。であるから、体系だった発表にならない。せめて分類と集類の違いくらいは、リーダーの人は知っておくべきだ。

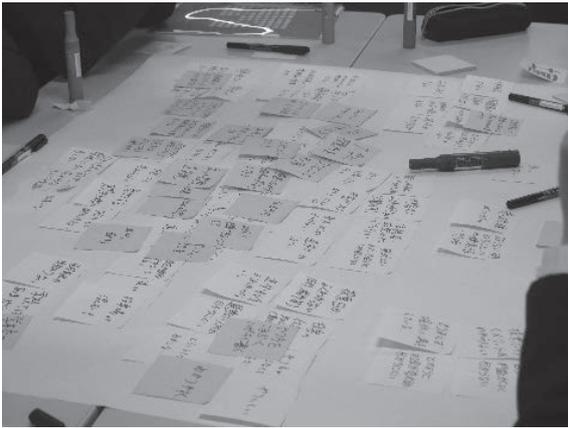
○①社会人の方々の視点や専門的知識に基づいた選挙についての分析、特に自分の持っていた疑問について、選管の方が答えて下さったり、社会の現状を踏まえた上での問題意識について知ることができた。②教員を目指す上で選挙に対する見識を深めることで子どもの政治的教養を高めるのに役立てたい。

○①選挙に行くために必要なことは、人それぞれ考えが違った。なので、より多くの人々が参加したいと思えるような選挙方法にしていかなければならないと思った。②選挙には(投票には)積極的に参加しようと思った。③興味はほとんど無いテーマだったが、皆で話し合うことで興味をもつことができた。

○①選挙に詳しい人の話が聞けたこと。②教員として幅広い知識をもつことが必要だと思った。③良い機会になった。

- ①さまざまな立場の人の選挙に対する考えを聞いてよかったです。公務員の方はいろいろな事をしてきているのだなと感じました。②選挙に行こうかなと思いました。③いろいろな意見をきけて楽しかったです。
- 18歳選挙権がテーマなら高校生も参加させるのも必要ではないかと思いました。
- 議論を深めることで、新たな視点をもつことができました。今後、教員になった際にも、このような議論の場を設け、議論のやり方を学ばせていきたい。議論をすることがまず大切で、その中で学ぶことが多かった。多様な意見を大切に、さらなる意見の深まりをしていきたい。
- 自分では考えられないような視点での意見を知ることができたので良かった。今後もこのようなワークショップの活動をしていきたいと思った。
- 異業種、学生さんと同一のテーマで意見交換する機会はあまりなかったので、良い経験になりました。
- 若者が選挙に行かない理由について、多面的に考えることができました。「行く→投票する」の行くをどう促すのか考えたことはあまりありませんでした。私たちのグループは、まず公的機関を利用した投票場ではなく、生活圏における行動のしやすさに注目して、ショッピングモール内に投票場を設置するという提案をしました... など、いつも考えないことを新しい視点でとらえることができ新鮮でした。
- 初めてFCに参加してブレインストーミングをしました。大変面白かったです。皆で意見をまとめていく（前向きに）が楽しい。
- 学生さん、先生、市職員の方々と立場を意識することなく、話し合うことができ、大変豊かな時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ①学生さんとふれあう機会はあまりないので、「勉強してるな」と感じました。②今後もチャンスがあれば「人と意見を交わす」「人の提案をよく聞く」修業をしていきたい。③楽しかったです。
- 若い世代が選挙をどう考えているか、生の声を聞いたことが大きかったです。可児市では、地域課題解決型キャリア教育の中で、このようなワークショップを数多く行っていく中のネタとして「選挙」が使えることを学びました。
- 今日行われた議論の方法は知っていたが、実践をするのは初めてだった。今回は選挙についての議論であったが、他の事柄について考えを深めるときにも利用したい方法であると思った。選挙、特に若者の投票率について、様々な立場の人から考えをきくことができ、とてもよい勉強になった。
- 多人数で同じテーマについて話し合うことで、視野が広がったのは良かった。フューチャーセンターのような場が増えていけば良いと思った。
- 消防の分野でもDIG訓練というものがあり、それに似た面もあり今後に生かしていけるのではないかと思います。
- ①大学生の意見が聞いてよかった。②さまざまな意見を肯定的に考える姿勢を持つことを大切にしたい。
- このような討論の場は日々の生活で少ないため、貴重な体験であったと思います。本日はありがとうございました。
- 市役所内の課題についてもFCの方法を活用して問題解決に活かしていきたい。
- 学生が入ることによって楽しくできました。
- 幅広い層の方々の意見が聞いて、大変有意義な時間でした。有難うございました。
- 今回研修した方法による議論や問題解決方法を、必要に応じて活用できたらと考えました。今の業務と関係がない内容ではありましたが、1つのテーマについて考えることで、いろいろと考え、今後の業務に生かされるのではないかと思います。
- 議論の進め方などが、非常に参考になりました。機会があれば、ぜひ活用したいと思います。
- ①自分がこのようなワークショップが不得意であること。②現在の業務でFC的なことを必要に応じてやっている。
- ①FCという手法を使って議論したのは初めてだったので、自由に肩の力を抜いて意見を言い合う環境のよさを実感しました。自分では思いつかない意見や考えもたくさん聞くことができ、とても参考になりました。②会議（部内、課内での）などで活用できれば、面白い発想で様々な意見も出るのではないかと思います。③とても楽しく研修に参加させていただきました。ありがとうございました。
- 教員、大学生など普段交流できない分野の方と話すことができ、大変有意義であった。
- さまざまな意見に触れることで、他の方の考え方を知らないいい機会になりました。





# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.11.10



### 若者の選挙に対する意識について考える

平成27年6月に公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、満18歳以上満20歳未満の若者が選挙に参加できることとなりました。11月10日に岐阜大学サテライトキャンパスで、岐阜大学生をはじめ、岐阜市民、岐阜市職員の皆さんら35人が参加し、「若者よ、投票に行こう」をテーマに第6回ぎふフューチャーセンターを開催しました。

まず、参加者は岐阜市選挙管理委員会事務局による選挙制度の説明と岐阜大学教育学部田中伸准教授による選挙の意識に関する海外の若者の事例について話を聞き、情報を共有しました。その後、若者が選挙への関心を深め、どのようにしたら投票するようになるかについて活発な意見交換を行い、「投票できる場所を増やす」、「選挙に関する教育が大切」、「投票の義務化」、「政治や選挙に関する話し合いの場を増やす」といった意見が出されました。今回の対話により、参加学生が選挙に対する意識を高めることができたのではないのでしょうか。この対話で出された意見は今後の岐阜市の取り組みの参考とされます。



#### 今回のまとめ

- 投票できる場所を増やす、投票の義務化、投票でポイント還元、投票日を早く知らせる
- 政治や選挙に関する話し合いの場を増やす
- インターネットの利用、マイナンバーと連動させた電子投票
- 被選挙権も18歳から、落としたい人を選ぶ
- 選挙に関する教育が大切、投票によって単位取得

各グループからの意見・アイデア



#### 政治を身近なものに

岐阜大学教育学部4年  
村上 拓也 さん

若い人でも立候補できるようになると、選挙に関心をもたせるだけでなく、自分で政治を変えてみようと考えられるようになり、より政治が身近なものになるのではないかと感じました。今後、教員になったとき、今回出た多様な考え方をもち、子どもたちに考えさせていく授業を行うことができればいいと思います。



**CCSC**  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp [FAX] 058-293-3167 [E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
**岐阜大学**  
GIFU UNIVERSITY



文部科学省  
**地(知)の拠点**



第7回 ぎふフューチャーセンター

## 南ひだ健康道場の活用

平成27年11月15日（日）

会場：南ひだ健康道場

主催：岐阜大学・岐阜県



<p>「地（知）の拠点整備事業」 平成27年度第7回 ぎふフューチャーセンター（in 南ひだ健康道場）</p>	
会場	南ひだ健康道場（下呂市萩原町四美 1557-3）
日程	平成27年11月15日（日）14:00～15:45
目的	<p>県有施設 南ひだ健康道場（正式名：南飛驒健康増進センター、下呂市萩原町四美）は食や健康に関する体験施設であるが、施設の利用が伸び悩んでいる。このため、若者や外部の者を交えた対話を行い、地域に刺激を与えるとともに、地域住民の取り組みに新たな動きが生まれることを目指す。</p> <p>&lt;施設概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体面積250ha、8割が森林エリア。健康学習センター、キャンプ施設、そば打ちや香りの体験施設、薬草園、しみずの湯（下呂市温泉施設）など。</li> </ul> <p>&lt;設立経緯&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和63年に出された県の総合医療構想をもとに、旧益田郡（下呂市）を中心に温泉や豊かな自然といった健康・美容資源を生かした地域計画「南飛驒国際保養地」が構想され、南ひだ健康道場はその中核施設とされた。しかし、その後の景気低迷などにより具体化までに時間を要し、当初より計画が縮小された形で平成16年にオープンした。</li> </ul> <p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用の向上に向け、地元住民グループによるそば打ち体験講座の開催や谷の清掃のなどほか、四美ナリエ（キャンドルナイト）や収穫祭といったイベントを開催しているが、活性化に向けた次の一手が見つからない状態である。</li> <li>・毎年度、県において「南飛驒健康増進センターあり方検討会」が開催されているが、新たな展開には至っていない。（予算の制約、人的体制の限界など）</li> </ul>
テーマ	南ひだ健康道場の活用
サブテーマ	<p>（1）南ひだ健康道場のいいところ、魅力</p> <p>（2）南ひだ健康道場でやってみたいこと、できること</p> <p>（3）南ひだ健康道場を活用したモデル事業を考える</p>
参加者の構成と人数	<p>35人</p> <p>岐阜大学生 12人（うち留学生6人）</p> <p>岐阜大学教職員 6人</p> <p>益田清風高校生 4人</p> <p>益田清風高校教諭 1人</p> <p>行政職員 4人（県2人、下呂市2人）</p> <p>一般 8人</p>
対話の方法	グループによる話し合い
ファシリテーター	伊藤栄一 地域協学センター地域コーディネーター

<p>当日のスケジュール</p>	<p>7:00 岐阜駅発</p> <p>7:20 岐阜大学発</p> <p>11:00～13:00 そば打ち体験（昼食） ※1,000円／人</p> <p>13:00～13:50 休憩・散策及び施設紹介 （天候不良のため森林ウォーキングを予定変更）</p> <p>14:00～15:45 フューチャーセンター</p> <p>① 挨拶（5分）</p> <p>② アイスブレイク（20分）</p> <p>③ 対話 各サブテーマ 20分×3（60分）</p> <p>④ まとめ（20分）</p> <p>16:20 南ひだ健康道場発</p> <p>19:30 岐阜大学着</p> <p>19:50 岐阜駅着</p>
<p>出された意見</p>	<p><b>1グループ</b></p> <p>☆ レンタサイクリングを使って地域を周り、景観写真の撮影、野菜や果物の収穫、動物とのふれあいを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森を楽しみながら写真を撮影</li> <li>・野菜や果物を収穫する（特に栗や柿はインドネシア人には珍しい）</li> <li>・B級グルメを考案する</li> <li>・獣害として問題となっているクマ、シカ、イタチを活用して動物とふれあう、バードウォッチング</li> </ul> <p><b>2グループ</b></p> <p>☆ 収穫体験、キャンプ、郷土料理、温泉、植樹体験など、この地域ならではの体験を楽しんでもらう。</p> <p>☆ 来た人にフェイスブックに書き込んでもらい、人気スポットにする。外国人には英語でPRしてもらい、行ってみたい場所になるよう仕向ける</p> <p><b>3グループ</b></p> <p>☆ 大学生向けの合宿プランの開発 ラフティングやスノーシュー（雪山歩き）、お酒、バーベキュー、コテージでの宿泊、温泉をセットにしたプランを開発し、大学生協を利用して売る</p> <p>☆ 外国人向けに、フルーツ狩りなどの収穫イベント、婚前写真撮影を実施</p> <p><b>3グループ</b></p> <p>☆ 森林やハンモックを活用して「ゆったり」する。森林浴、ハンモックでござろろ、絵を描く、カフェ、サイクリングなど</p> <p>☆ 縄文をキーワードにして山で遊ぶ（五色米の暗号ゲーム、どんぐりもち）</p> <p>☆ 山菜狩りやきのこと狩り</p> <p><b>5グループ</b></p> <p>☆ 小中学生に強制的に来てもらいこの施設の魅力を知ってもらう。ここでできるすべての体験を選択できるようにする</p> <p>例：魚釣り、ウォークラリー、源流探しの旅、森の遊園地</p> <p><b>6グループ</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 地元の祖父母と孫世代を対象に「森の中で一日保育園」を開催。工作の素材としてどんぐりや落ち葉を使用し、作品を展示</li> <li>◇ 都会の人向けに、親子向けのプログラムや婚活キャンプ、静かな環境を活かした吹奏楽や文化系サークルの合宿を誘致、珍しいきのこを食べる会の開催など</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果について、県の「南飛騨健康増進センターあり方検討会」(H28.1.8)にて報告した。地元住民の意向を確認したところ、対話の継続ではなく地元の取り組みへの学生の参加であった。</li> <li>・来年度の地域活動科目「人と自然の関わりから見た岐阜(後期)」において、学生が現地へ出かけ、地域住民とともに人と生き物が共生する環境づくりを行う。</li> <li>・県では来年度の新規事業として、南ひだ健康道場を活用して森林浴にそば打ちや温泉等をセットにしたモデル事業(2,600千円)を実施する。この事業を活用した学生の取り組みについては、今後検討していく。</li> </ul>



そば打ち体験



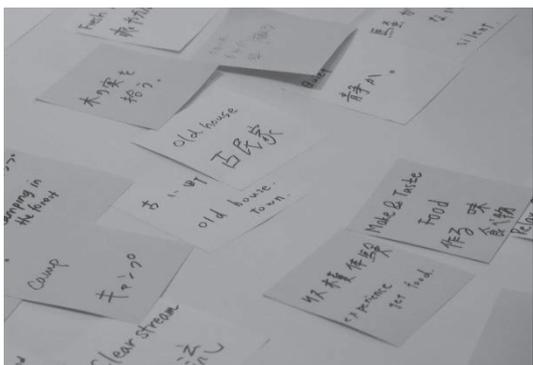
南ひだ健康道場 外観



対話



発表



ぎふフューチャーセンター アンケート結果

平成27年度第7回 「南ひだ健康道場の活用」

参加者数35人、うち回答数34

1. 性別

	①男性	②女性
人数	20	14
割合(%)	58.8	41.2

2. 年代

	①10代	②20代	③30代	④40代	⑤50代	⑥60代	⑦70代以上
人数	5	14	0	7	1	7	0
割合(%)	14.7	41.2	0	20.6	2.9	20.6	0

3. フューチャーセンターへの参加回数

	①1回目	②2回目	③3回目	④4回目	⑤5回目以上
人数	27	1	0	1	4
割合(%)	81.8	3	0	3	12.1

4. 話し合いの場(ワークショップ等)の参加経験

	①初めて	②経験有
人数	10	23
割合(%)	30.3	69.7

未回答1

5. 参加の理由 (複数回答可)

	①テーマに関わ りたかった	②自分の良い経 験になる	③FCIに関心が あった	④人から勧めら れた	⑤そば打ちをした かった	⑥森林ウォーキ ングをしたかった	⑦南ひだ健康道 場に行きたかった	⑧その他
人数	7	14	3	18	13	4	1	5
割合(%)	10.8	21.5	4.6	27.7	20	6.2	1.5	7.7

⑥その他 の内容  
山に来たかった 1  
おもしろそう 1  
実際に現地について  
考えたかった 1

6. フューチャーセンターの感想

(1) フューチャーセンターに参加することで、どんなことを期待して来場しましたか(複数回答可)

	①参加者から地 域の情報入手し、 視野を広げるこ と	②さまざまな知識 や経験を持った 人と知り合えるこ と	③テーマに関して 自分の意見を発 言できること	④地域に関わる きっかけのひとつ となること	⑤その他
人数	23	16	8	8	3
割合(%)	39.7	27.6	13.8	13.8	5.2

⑥その他 の内容  
この地域の振興につながる 2  
今後のセンターの活性化の模索 1

(2) 今日のフューチャーセンターに参加して、どんな感想を持ちましたか(複数回答可)

	①参加者から地 域の情報入手し、 視野を広げるこ とができた	②さまざまな知識 や経験を持った 人と知り合うこと ができた	③テーマに関して 自分の意見を発 言できることが大 切だ	④地域に関わる きっかけのひとつ となりそうだ	⑤その他
人数	16	22	7	10	3
割合(%)	27.6	37.9	12.1	17.2	5.2

⑥その他 の内容  
若い人たちの考えがヒントになりそう 1  
おもしろい 1  
参考になった 1

(3) フューチャーセンターに参加することで、地域に対する考えにどんな影響があると思いますか(複数回答可)

	①住民自治の意 識が高まる	②人(地域、大 学、行政など)の つながりができる	③行政が身近な 存在に感じる	④その他
人数	9	29	2	1
割合(%)	22	70.7	4.9	2.4

⑥その他 の内容  
健康道場を知ってもらうきっかけになる 1

(4) フューチャーセンターに参加して、地域に対する考えにどんな影響がありましたか(複数回答可)

	①住民自治の意 識が高まった	②人(地域、大 学、行政など)の つながりができた	③行政が身近な 存在に感じられた	④その他
人数	12	24	2	4
割合(%)	28.6	57.1	4.8	9.5

⑥その他 の内容  
もう一度見直すきっかけになった 1  
人の意見への意識 1  
地域の課題を身近に感じた 1  
特に変化なし 1

7. 今後のフューチャーセンターへの参加

	①参加したい	②テーマに興味 があれば参加し たい	③参加したくない	④その他
人数	13	19	0	0
割合(%)	40.6	59.4	0	0

未回答2

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.11.15 2016年1月1日発行号

VOL.21



## 多様な人々が集い 南ひだ健康道場の新事業を提案

下呂市萩原町の「南ひだ健康道場」は、そば打ちや森林ウォーキングなどの各種プログラムを楽しむことができる食と健康の体験施設です。対話の前に、マレーシア、ミャンマー、インドネシアの留学生を含む岐阜大学の学生は、地元の益田清風高校生とともにそば打ちを体験した後、自然豊かな地域内を散策しながら施設の概要について学びました。

対話には学生、高校生、教職員、行政職員、地元の皆さん35人が参加し、ときに英語も交えながら、グループで南ひだ健康道場のいいところ・魅力、南ひだ健康道場でやってみたいこと・できることを順次挙げた後、南ひだ健康道場を活用したモデル事業を考えました。各グループからは「レンタサイクリングを使って地域を周り、景観写真の撮影、野菜や果物の収穫、動物とのふれあいを楽しむ」、「大学生向けの合宿プランの開発」、「森の中で一日保育園」を開催するなどの提案がなされました。

今回提案されたアイデアは、南ひだ健康道場の取り組みの参考とされます。



### 今回のまとめ

各グループからの  
意見・アイデア

- レンタサイクリングを使って地域を周り、景観写真の撮影、野菜や果物の収穫、動物とのふれあいを楽しむ
- 体験、温泉、宿泊をセットにした大学生向けの合宿プランの開発
- 「森の中で一日保育園」を開催  
工作の素材としてどんぐりや落ち葉を活用する
- 森林やハンモックを活用して「ゆったり」する
- 外国人向けに婚前写真撮影の実施
- 小中学生に強制的に来てもらう  
すべての体験を選択できるようにする



### 留学生の視点から発言

岐阜大学大学院工学研究科1年

テイ ウィン さん

南ひだ健康道場でそば打ちや自然散策、地域の人々との対話を経験し、日本について知識を深めることができました。対話では、新しい取り組みとして中学校の研修旅行先とすることや外国人向けに英語の表示を設けることを提案しました。豊かな自然に恵まれたこの地域に多くの人が訪れることを願っています。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第8回 ぎふフューチャーセンター

阿木の特産安岐そば・シクラメン祭りをリニューアルする

平成27年12月12日（土）

会場：中津川市中の島公園

主催：岐阜大学・中津川市



「地（知）の拠点整備事業」 平成27年度第8回 ぎふフューチャーセンター	
会場	中津川市阿木 中の島公園 総合交流ターミナル体験実習室
日程	平成27年12月12日（土）13時半～15時半
テーマ	「阿木の特産安岐そば・シクラメン祭りをリニューアルする」
目的	シクラメン祭りは地元農家から販売用の花を提供してもらっているが、今年になり一部のシクラメンの栽培農家が廃業したことに伴い、地元住民の理解も含めて、今後シクラメンを中心に同祭りを開催することが難しい状況となった。祭りは継続して開催するが、来年度以降の祭りの内容をどのように新しく変えていくかが課題となっている。そこで、フューチャーセンターにより新しい祭りの取組みや内容を創出し、魅力ある阿木の祭りづくりにつなげることを目的とする。
サブテーマ	① 人が来る魅力あるお祭りとは？ ② 地域の魅力とは何か？ ③ シクラメン祭りを変える新しい取組みとは？
参加者	参加者 28人：学生 9人（社会人含む）、教職員 3人、地域 11人、中津川市職員 5人（5グループ（6人1グループ）
対話の方法	KJ法 学生がグループリーダーを務めた
ファシリテーター	大宮康一（地域協学センター特任准教授）
当日のスケジュール	13：30～13：40 趣旨説明・進め方説明 13：40～13：50 シクラメン祭りの概要説明 13：50～15：25 アイスブレイク（自己紹介など） セッション①「人が来る魅力あるお祭りとは？」 セッション②「地域の魅力とは何か？」 セッション③「シクラメン祭りを変える新しい取組みとは？」 発表に向けたまとめ グループ発表（2分×5グループ） 15：25～15：30 アンケート実施
出された意見・アイデア	中津川市阿木地区が毎年開催しているシクラメン祭りについて、新しい客層を見据えてどのように新しく変えていくかが課題となり、世代間交流・若い世代・子ども向けにすることや阿木の自然を活かすなどが出された。 ＜主な意見・アイデア＞ ・世代間交流や若い世代、子供向けのイベント ・阿木の自然の活用：ウォーキングコース、宝探し、ツリーライティング ・阿木のかくれた名産の活用：農産物、しめ縄、正月商品、イノシシ汁 ・阿木川ダムの活用：ダムカレー、カヌー、魚釣り ・有名人をシクラメン大使にする、ヒーロー、花の街にする ・屋台を増やす、ステージの活用（高校生）、歌舞伎

・会場を湖岸まで広げる、学校との行事とあわせる、パワースポット（風神神社）、フリーマーケット

・運動会、バーベキュー

<各グループの意見・アイデア>

**【グループ1】**

<花>

・花というくくりで品数を増やす

・花のまちにする

・メインイベントであるシクラメンをもっとアピールする

<ステージ>

・ステージを設置し出し物を行う

・阿木地区全員参加ステージイベント

・地域の子どもたちが発表する場を作る

<食べ物>

・阿木川ダムカレーを作る

・山菜そばなどそばの種類を増やす

・そば打ち体験

<アクティブ>

・運動会を開く

・中学校の文化祭も一緒に開く

・川に魚を放流して魚釣りをする

・子供向けツリークライミング

・ドッグラン

<アクセス>

・場所を変える ・駅からシャトルバスを出す

<季節商品>

・お正月向けの物 ・クリスマス商品

<その他>

・スマホとコラボ ・近隣地域と参加・協力 ・明知鉄道とからすみ

**【グループ2】**

<新しい企画>

・そば打ち体験

・山の散策（地域の人たちと一緒に）

・阿木の魅力を見せる展示

・コテージの活用

・近くの山を歩けるように開放

・午後6時くらいから星を眺める企画

・モニュメント（巨大シクラメンなど）

<販売を通じた交流>

・シクラメンを買うついでに正月商品も手に入れる

- ・阿木で作られた野菜の販売
- ・阿木の農産物を売る
- ・参加者と地元の人々の交流
- <会場>
  - ・駐車場と会館の間に屋台を
  - ・会場を湖畔まで広げる
  - ・屋台を増やす（手作り品、ママたち）
- <PR>
  - ・PR する
  - ・美濃から尾張までの花屋に宣伝してもらう
- 【グループ3】**
- <ステージ>
  - ・時差的にステージを使う
  - ・地元の高校生
  - ・歌舞伎復活
  - ・ステージを楽しみシクラメンを買う
- <宣伝>
  - ・テレビでの宣伝を多くする
  - ・パワースポットの宣伝
  - ・同級生を呼ぶ
  - ・有名をシクラメン大使にする
- <（企画する人間自身が）準備を楽しむ>
  - ・企画対抗
  - ・阿木太鼓選手権
  - ・吹奏楽
- <会場>
  - ・広く使う
- 【グループ4】**
- <行動j 範囲を広げる>
  - ・阿木⇔明知
  - ・他地域の相互交流
  - ・交通の便が良いところに、シャトルバス
  - ・ウォーキングコース（出店）
  - ・山も走れるマラソン大会
  - ・周りの小学校の行事にする
  - ・シクラメン祭りと他の行事をドッキング
  - ・規模を大きく合理化する
- <新しい名物>
  - ・つけものグランプリ
  - ・するめを出す

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安岐そばでワンコ大会</li> <li>・そば手作り体験</li> </ul> <p>&lt;イベントの組合せ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BBQ 祭り ・カヌー大会 ・レンジャーやつと仮面 ・イベントの多様化</li> </ul> <p>&lt;シクラメン販売の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家のレクチャー</li> <li>・生産者が屋台で売る</li> <li>・シクラメン以外の花の販売</li> <li>・販売時間を遅らせる</li> </ul> <p>【グループ5】</p> <p>&lt;自然の活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供向けの出し物やイベント</li> <li>・自然を生かした宝探し（つつじ山、ふれあい広場）</li> </ul> <p>&lt;客層、開催方法など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・客層を広げる</li> <li>・新しい人にも来てほしい</li> <li>・体験できるもの</li> <li>・新しい特産品（いのしし）</li> <li>・販売を増やす（地元農家と共同）</li> <li>・目立つような取組み（繁華街の道路封鎖）</li> <li>・小中高の活用</li> <li>・人が集まる場所での開催</li> <li>・祭りの名前を変える</li> <li>・バーベキュー場の活用</li> <li>・縁起の良いシクラメンを作る（開運シクラメン）</li> <li>・曜日を変える</li> </ul>
<p>今後の展開</p>	<p>今回のフューチャーセンターの結果や成果は、特産安岐そば・シクラメン祭りの地元実行委員会（12/21）や他の地域の会合（1/22）に対して報告を行い、次回の「特産安岐そば・シクラメン祭り」の新たな取組みを展開するにあたり岐阜大学の学生らが関わることについては地元の方々から了承を得ることができた。</p> <p>今後は、次回開催の祭り（平成28年11月開催予定）を目指して、中津川市や阿木地区と連携しながら、新たな客層を呼び込むための取組みについて具体的なスケジュールや計画等を協議し、展開していく。特に、次世代地域リーダー育成プログラムの上級段階科目（「地域リーダー実践（上級）Ⅰ、Ⅱ」）における課題テーマとして設定するなど、本学の学生が取り組みやすい環境を整えることも検討していく。</p> <p>また、今回の中津川市阿木地区でのフューチャーセンターの取組みは、平成27年12月に岐阜大学と中津川市の間で締結された包括連携協定に対しても貢献した。</p>

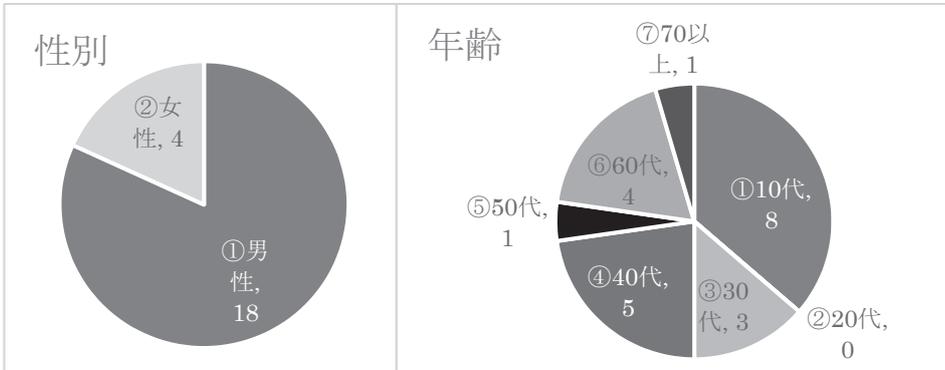
<アンケート結果>

【2015/12/12 シクラメン祭りリニューアル FC アンケート結果】

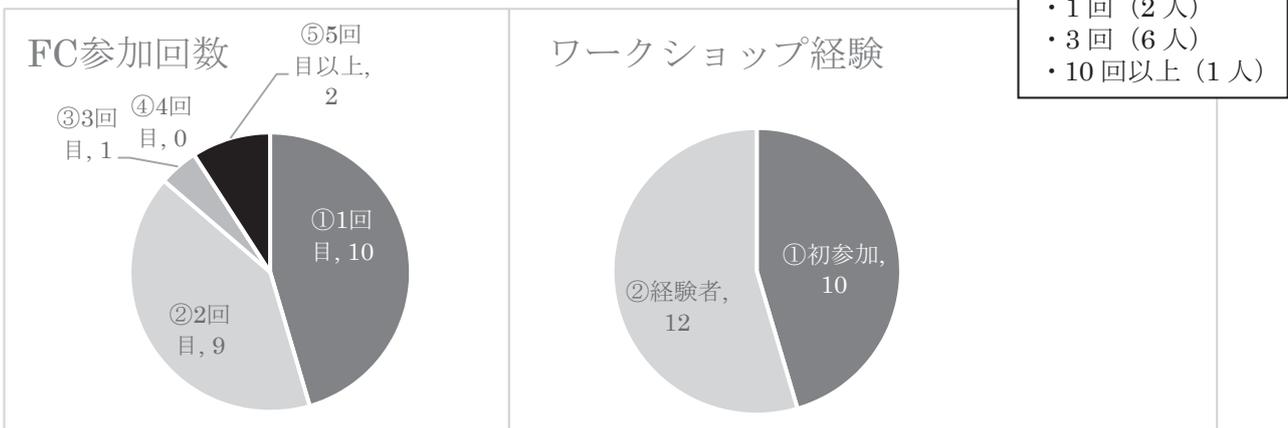
アンケート回収数：22件（回収率47%）

以下アンケート結果。グラフの数字は実数(人)

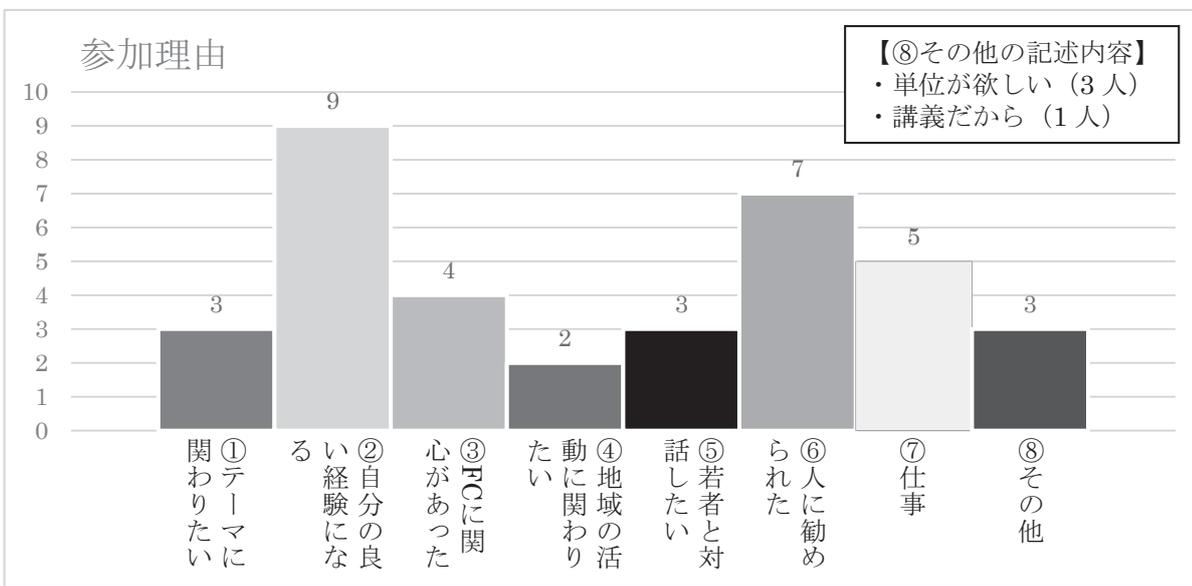
<参加者の属性>



<フューチャーセンターやワークショップの経験>



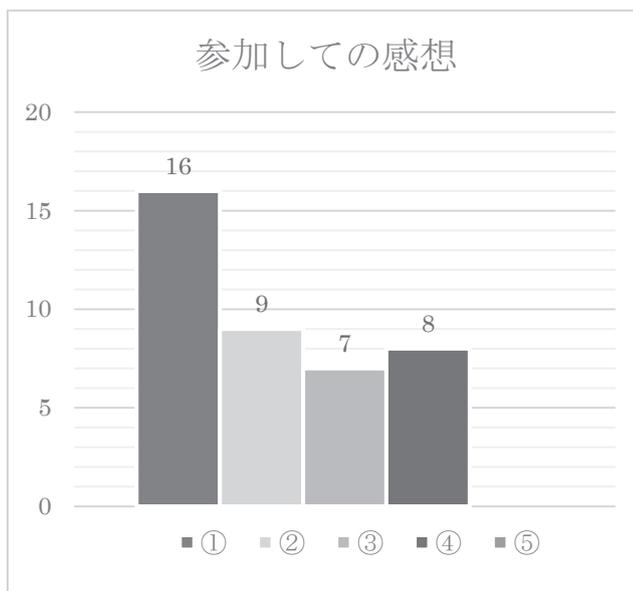
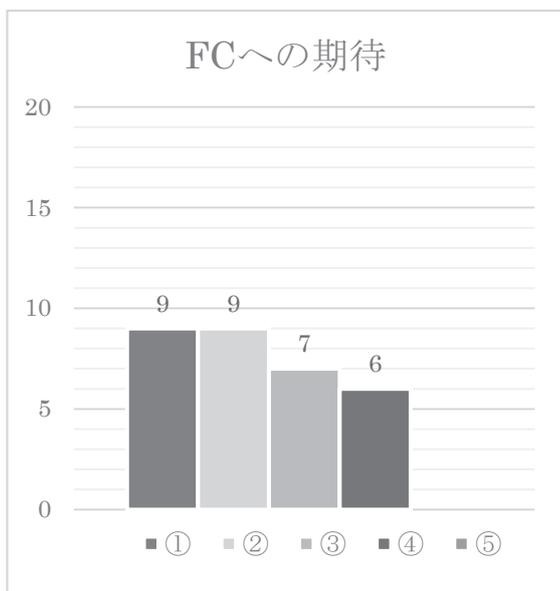
<参加理由>（複数回答）



## ＜フューチャーセンターへの期待と感想＞（複数回答）

【選択肢】

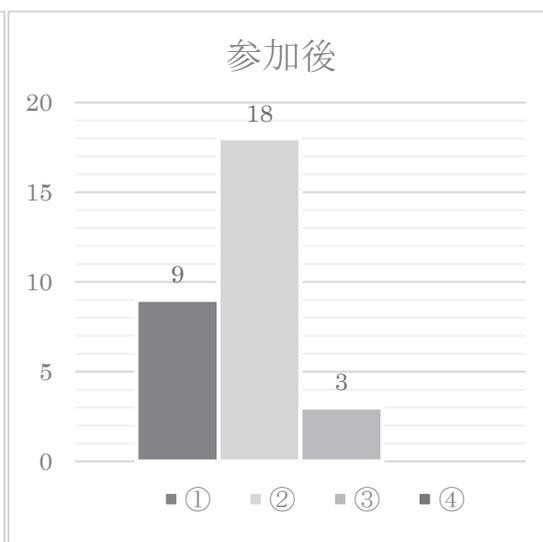
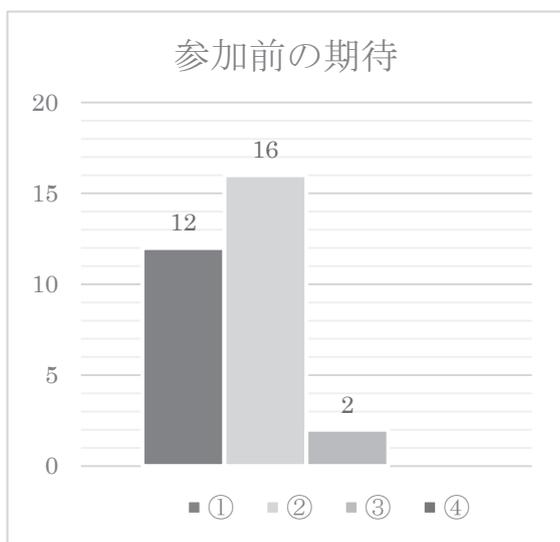
- ①参加者を通してさまざまな地域の情報を入手し、視野を広げる
- ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合う
- ③テーマに関して自分の意見を発言できる
- ④地域に関わるひとつのきっかけとなる
- ⑤その他



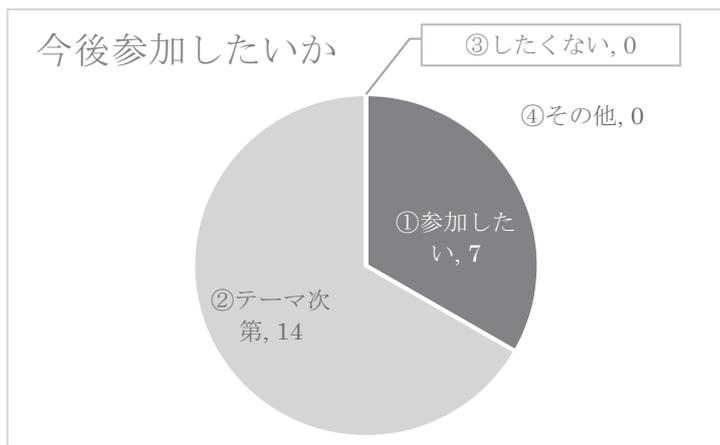
## ＜フューチャーセンターによる地域に対する考えへの影響＞（複数回答）

【選択肢】

- ①住民自治の意識が高まる
- ②人（地域、大学、行政など）のつながりができる
- ③行政が身近な存在に感じる
- ④その他



<今後フューチャーセンターに参加したいか>



<自由記述>

初めて参加しましたが、たいへん良い話し合いができました。継続して開催してもらいシクラメン祭りが変わっていく様子を見守りたいです。(30代・男性)
最後にまとめた意見を参加者にメール等の形で送ると良いと思う(特に希望者)(10代・男性)
FCが始まった時会場が寒かった(10代・女性)
様々な意見が出て、とても有意義なFCになったと思います。自分が思っていたより阿木にはいろいろな施設とか特産品とかがあって、それをうまく生かせれば、すごく良いお祭りになると思いました。発表2分では全然足りません。もっと話したかったです。(10代・男性)
時間がつらかった(10代・男性)
まとめというか議論の時間がもう少しあると良いと感じた。(10代・男性)
社会人や地域の方とのフューチャーセンターは初めてなので、様々な見方や考え方に触れることができよかったです。(10代・男性)
初めての経験でどんな形になっていくかとても楽しみでした。色々な世代の方とお話できて新鮮でした。自分の思いを紙に書くという作業が簡単な様でむつかしかったです、文字にすることで自分の意見を持つことができ、話できてよかったです。ありがとうございました。(40代・女性)
今までの会議や話し合いの経験しかなかったので、進行にとまどいも感じました。結果的に、会議の中身など整理されやすくわかりやすくなり目に見えることができました。(60代・女性)
新しい知識、意見にふれさせていただきありがとうございました。次回少しでも(多く)今回の意見を参考にさせていただきます。(60代・男性)
なれてない為にとまどいました(60代・男性)
人と人が会って話をするのは大切だし学生とはなせてたのしかったです。少人数グループではなしやすかった。(30代・女性)

<当日の様子>

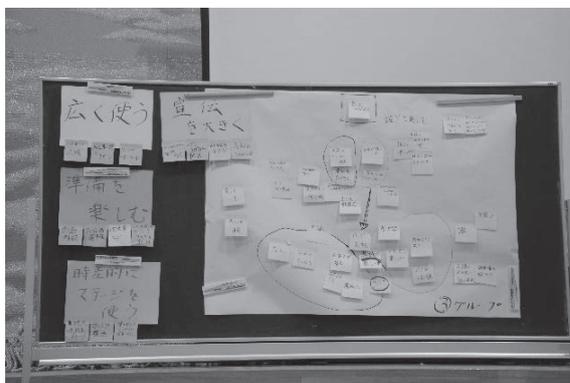
【趣旨説明など】



【グループワーク】



【グループ発表】



# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2015.12.12



### そばとシクラメンの里 中津川市阿木 対話で創る、祭りの新たな姿

中津川市阿木地区では、毎年11月末に地元の特産品を活かした「安岐そば・シクラメン祭り」を開催してきましたが、これまで足を運ばなかったような来場者層が参加するお祭りにするために、新たな取り組みを考えることにしました。12月12日に同地区で開催したフューチャーセンターには、岐阜大学生、阿木地区の住民の皆さんや中津川市職員など25人が参加し、このお祭りのリニューアルをテーマに話し合いました。

参加者は、対話の前に市職員からお祭りの概要についての説明を聞き、「人が来るお祭りとは」、「地域の魅力とは」について意見交換しながら、新たな人に来場してもらうための「お祭りを変える新しい取り組み」についてグループごとに意見をまとめました。発表では、「クリスマスやお正月向けの商品を販売する」、「子ども向けの体験イベントの開催」、「チラシや新聞による来場者が多いため広報を強化する」といった提案がなされました。

リニューアルしたお祭りの開催に向けて、岐阜大学は地域と連携して取り組んでいきます。



#### 今回のまとめ

- クリスマスやお正月向け商品、農産物を販売
- 体験イベント（ウォーキング、宝探し、そば打ちなど）の実施
- 近隣の他地域と交流する
- まち全体を花で飾り「花のまち」にする
- 新たな特産品（阿木川ダムカレー、いのしし汁、開運シクラメン）をつくる
- 隠れた郷土料理（するめの酒付け）を売り出す
- チラシや新聞による来場者が多いため広報を強化する

各グループからの  
意見・アイデア



#### 対話を重ねて、祭りに変化を

長楽寺 堂守  
戸塚 智尚 さん

いろいろな意見、見方、考え方があることを知るとともに、出された意見に対し「自分だったらどうするか」ということを具体的に考えることができました。こうした対話を重ねながら、お祭りが少しずつ変わっていくことを期待しています。また、これを機に学生がいろいろ企画し、地域に入り込んでくれるとうれしいです。



**CCSC**  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[ FAX ] 058-293-3167  
[ E-Mail ] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

**岐阜大学**



文部科学省

地(知)の拠点



第9回 ぎふフューチャーセンター

使いたくなる散策マップを作ろう

平成28年1月20日（水）

会場：岐阜市長良川うかいミュージアム四阿

主催：岐阜大学・岐阜市



「地（知）の拠点整備事業」	
平成27年度第9回 ぎふフューチャーセンター（in 岐阜）	
会場	長良川うかいミュージアム 四阿（あずまや）
日程	平成28年1月20日（水） 13:00～16:30
目的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点整備事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携して大学が有する多様な豊富な教育力、研究力で県内の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として地域社会の活性化に貢献すること目的としてぎふフューチャーセンターを実施した。
テーマ	使いたくなる散策マップを作ろう （1）現在の散策マップの問題点を探る （2）どういう散策マップになったら使いたくなるか
内容	岐阜市では、岐阜市総合計画の「魅力ある観光の推進」で取り組むべき施策として、自然、歴史、文化が体感できる「まちなか観光」を推進している。まちなか観光を推進する施策の一つとして、散策マップ（まちなか歩きマップ）を作成し、歴史や文化に触れるためのテーマ別の散策コースを掲載している。岐阜市では、今後も散策する人の支援を充実させていくため、現在の散策マップを、より活用できるものにしたいと考えている。 今回のフューチャーセンターでは、散策する人が使いたくなるような散策マップを考え、そこで出た意見を、岐阜市において、現在の散策マップの改訂も含めた散策マップ作りの参考とする。
参加者の構成と人数	36人（5～7人 × 6グループ） 岐阜大学 学生 13名 教職員 4名 岐阜市 職員 12名 一般市民等 7名
対話の方法	グループによる話し合い FC（2セッション、KJ法）
ファシリテーター	伊藤栄一氏（岐阜大学地域コーディネーター）
グループ発表	（1グループ） ・対象者が絞り切れておらず、たくさんの写真が何を目的にしているか分かりづらいので、情報を厳選して、このコースにはここという大きい写真を載せる。岐阜駅からのアクセスを分かりやすくする。路面電車、LRTなどを導入して観光の売りにする。トイレ、休憩所、バリアフリーなどの使いやすさの面の情報があるとよい。従来のコースを大事にしながら変更案を考えた。川原町コースを「しっとりコース」とし、長良川河畔のホテルに泊まったカップル（若者、高齢者）が手を取り合って歩いてもらう。戦国の道コースは「天下布武コース」とし、脚力によって3コースほどに分ける。御鯰街道コースは鮎とセットにして巡るコースにしてアユ料理を食べてもらうように紹介する。文学の道コースを無くし、万人向けの食べ歩きコースにする。このように、現在のコースを生かしながら、新しい観点で組み直す。 （2グループ） ・地図がいくつもあって見にくいので、一面で大きく見やすくする。スタート地点の記載と、そこに行くまでのバスや駐車場などのアクセスに関する情報を載せる。おすすめの食事処やお土産屋を記載する。最近増えている外国人旅行者に対応するため、英語や中国語等のバージョンも作成する。季節や時間帯に分けて紹介したものを作る。岐阜市で有名な鵜飼をもっとアピールする。レンタサイクルの情報も記載して行動範囲を広げられるようにする。

	<p>(3グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい問題点は、対象が不明、情報量が多いということである。情報を電子化して圧縮することで見やすくする。場所と興味によって詳細に分けたマップにする。全体が分かるマップを1つ作り、QRコードで詳細情報が分かるようにする。具体的には、おすすめ写真スポットを紹介するマップ、柳ヶ瀬倉庫や川原町など女性をターゲットとしたマップ、信長バスを利用した名所発見マップ、お城好きのための岐阜城とコアスポットの紹介マップ、岐阜公園の隠れスポットマップ、おいしいおすすめの店を紹介したマップを考えた。紙の地図の配布数やデジタル地図のアクセス数から、こういったものが人気なのかを分析してニーズに応じていく。</li> </ul> <p>(4グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形・大きさが小さい・使いづらい、買い物・グルメの情報が載っていない、各コースに岐阜駅からどのように行くか分からない、ルートが分かりにくい、写真と文章のリンクがない、岐阜市の一部しか載っていない、といった問題点が出た。形はミウラ折りとし、おすすめの料理の店や写真を載せてグルメ情報も入れる。岐阜駅からのバスの路線を入れる。スタートとゴールの位置を明確にし、施設から施設の所要時間を明記する。マップが地味なので、かわいいイラストや写真を載せて明るくする。もっと広い範囲を巡れるようにして、複数日のコースを設定し、宿泊施設も載せる。季節ごとの良い場所を明記して行きたくなるようなマップにする。</li> </ul> <p>(5グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象やニーズ、売りが分からない、文字が小さい、図に特徴がない、冊子の形状がいまひとつ、かかる時間が分からない、食べる場所やお土産屋の情報が少ない、ということが問題点として挙げられた。B5サイズの二つ折りとし、観光コースと岐阜博士コースを設定する。おもて面に岐阜市の地図を、裏面に2コースを載せる。岐阜博士コースは、感動するストーリーを作り、見どころに写真を入れて分かりやすく載せる。書き込みができるようにして、自分だけのオリジナルマップになるようにする。文字を大きくし、イラストを付ける。駅・施設間の移動時間、飲食店・お土産屋の情報を載せる。クーポンを付けて使ってもらえるようにする。</li> </ul> <p>(6グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな問題点としては、コースが多すぎる、コースの個性がいまいち、ターゲットがどの層なのかが分かりづらい。字面関係では、見づらい、細かいといった問題点があった。そこで何を望んでいるかで4つ程のコース分けをして、表紙はもっと明るく、顔が見えるようなものを作ることを考えた。ターゲットの絞り込みは、フローチャートで目的を選んでもらうことによって、それぞれ対応したページがあるという地図を想定した。地味で暗いイメージがある表紙については、海外の人にも興味を持ってもらうために着物の人を入れ、岐阜城、金華山、長良川、鶯を入れて明るくなるようにした。地図については、岐阜駅からのアクセスとバス停、レンタサイクルの位置が分かるようにした全体のものであった方がよい。市長おすすめのコースやまちに詳しい人のコースなどを取り入れる。また、散策で人気のあるスタンプラリーを取り入れ、ある程度スタンプが貯まったら景品を出すといった特典を付ける。</li> </ul>
<p>FC のまとめと今後の展開</p>	<p>これまで、岐阜市で作成している散策マップの改訂は、担当課による作業で、外部の意見を聞くという機会がなかったため、今回フューチャーセンターを行ったことによって、今後、岐阜市の散策マップ改訂において参考とすることができる。さらに、フューチャーセンターの手法がこういったマップ作りのアイデアや意見を出す方法として有効であることを認識してもらうことができた。</p> <p>また、イベント等でも効果が大きい大学と市の観光部署との連携が、これまで以上に深まることが期待される。</p>

## 第9回ぎふフューチャーセンターin 岐阜のアンケート結果

平成28年1月20日(水)開催 午後1時から午後4時30分まで

参加者36名 回答者34名 回収率94%

### 1. 性別

①男性 21名 ②女性 13名

### 2. 年代

①10代 3名 ②20代 9名 ③30代 9名 ④40代 7名 ⑤50代 4名 ⑥60代 ⑦70代以上 2名

### 3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 20名 ②2回目 11名 ③3回目 1名 ④4回目 ⑤5回目以上 2名

### 4. FCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 28名

②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 17名

③大学又は行政が身近な存在に感じられた 7名

④その他 0名

### 5. 旅行などで散策する際に、散策マップを使いますか？

①必ず使う 12名

②必要があれば使う 15名

③あまり使わない 7名

④まったく使わない 0名

⑤その他 0名

### 6. 今後、散策する際に、散策マップを使ってみようと思いますか？

①必ず使おうと思う 12名

②必要があれば使おうと思う 21名

③使おうと思わない 0名

④わからない 0名

⑤その他 0名

### 7. 今回のFCに参加して、①学びになったこと、②今後、活動してみよう(又は業務に活かそう)と思うこと、③感想などをご記入ください。

○①色々な人が色々な意見が出て、すごく貴重な体験ができました。自分とは違う意見で、すごく関心・興味をそそるものでした。それゆえに、発散した意見を収束させることの難しさを感じました。②自分ができることが多くて、ショックでした。これからは積極的に参加したいです。③とてもよい体験ができました。すごく勉強になったことが多かったです。ありがとうございました。

○①時代の違う人からの意見を聞くことができてよかった。自分1人ではどうしても浮かばないだろうという考えがあった。②様々なFCに参加してみたいと思った。今後何かを売り込むときは、世代の違う人の意見を聞こうと思った。③いつもと同じ人ばかりと話すことがほとんどなので、生活の中で違世代の方と触れ合う機会を作っていきたいと思った。

○①自分にはないいろいろな考えに触れることができてよかった。散策マップについて使いにくいと思うことは多くあったが、それについての改善点を考えることはなかったのでいい学習になった。②多くの人たちと話すことができたのでいい経験ができてよかった。また、普段話をしている学生と違い、大人の意見をたくさんきくことができたのでよかった。③自分は今回グループ内でのリーダーをやらせてもらい、さらにまとめ後の発表を全員の前でやらせてもらうというめったにできない経験をするのでよかった。緊張してしまい、うまくしゃべれなかったが、他の人の発表をみて、もっと落ち着いてゆっくりと話をしたほうがよいと改善点がわかったのでよかった。今後も機会があれば参加するようにしたい。

○普段同世代の人としか関わらないので、地域の方や岐阜市の方々と話せてとても貴重な体験だった。何気なく生活しているがためになることが多くあった。

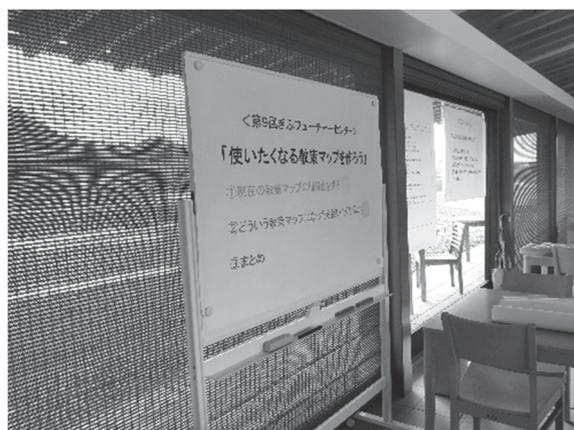
○バス起点のマップ、ターゲット別のガイドブック要素をふくんだマップという意見があり、良いと思った。マップ利用について、実際ガイドをしている方のお話が聞けて良かったです。

○それぞれのグループで同じ話題もあったが、まったく異なる議論が行われていたので、様々な視点の重要性があらためて理解できた。グループでの考えは個人の考えよりもさらに良くなるのがよくわかった。意見をまとめることの大変さがよくわかった。

○①マップにはいろんな種類があり、いろんな角度からの改善点があることが分かりました。②FCの進行

- の仕方。③発表をほめられたので嬉しかったです。
- まずは岐阜市に関してここまで詳しく考えたり調べたりすることがなかったので良い経験になった。また年齢や性別、立場が違う方々とお話しをさせて頂いたので、様々な目線から物事を見ることが出来て、そのような考え方もあるんだと驚かされた。こういったグループワークはこれからも生かされると思うので貴重な経験になった。
  - 実は、岐阜のメディアコスモス周辺のマップを作るのを考えています。そのマップはメディアコスモス周辺の料理屋や町家カフェ等を中心として紹介している設定です。ですので、今回は他の人の意見を聞くことがメインにしました。様々な意見を聞かせていただいて、本当に勉強になりました。また、マップの内容だけを他の言語に翻訳したら、外国人向けのマップになれるのは少し違和感があります。その点について、また詳しく考えさせていただきます。
  - 実際に活動してみると多様な考えや価値観があることが分かりました。ただ、どの人も、どのグループも「よいものを作ろう」とする意欲がありとてもよかったです。今回を通じて、より岐阜市を知り、実際に歩いてみたいと思いました。本日はありがとうございました。
  - ①自分では思いつかないようなことがたくさん出てきた。②完成だと思っているものを改めて考え直すという行為が大切だと思った。③リーダーをやってなかなかうまくいかなかったが、他の人が、たくさん意見を出してくれてありがたかった。ふつうに楽しかったです。
  - なかなか難しいテーマだったけど、全員で協力して1つの発表に形をつくれたことが、その過程に価値を感じました。せっくなので意見を生かしてマップを作ってほしい。
  - 同じグループになった方（近藤さん）が、まちなか案内人をされており、観光客さんの実状を教えてくださいることができました。いつも、きくことはできない内容でしたので、大変、勉強になりました。訪れてくださった方に、どんな動線を提供するとよいか考えることを通し、いつもはあたり前の風景を、観光資源として見るることができました。ありがとうございました。
  - 様々な方と話し合いができて大変に楽しかった。ブレインストーミング的で話しばなしで責任をおわらないというのは気楽だった。気楽ゆえに様々なアイデアを出すことができた。FCという組織をはじめ知った。地域と共に生きる大学というありようは重要であるが、地域に埋没しないよう注意が必要だと思う。工学系大学を優先するような風潮の中で、大学で学ぶことによって、世界観、人間観を育成することを忘れてはならないと思う。
  - 観光名所の案内は、まちなか案内人におまかせ。
  - なにげなく使うものがどの様に利用されどのような要望があるのかがわからなかった事の一つ一つが新しい考えとして吸収できた事は今後に生かせるよい時間となりました。どうもありがとうございました。
  - 今回のテーマだと短い。もっと時間をかけてまとめたい。岐阜市のマップ、色々あって知ってからじゃないと良い物が出来ない。実際多くのマップ行政や民間団体のものがあります。それら行政内も含めて横のつながりを持ってまとめてほしい。
  - 散策マップひとつでも、これほど多くの見方、考え方があるのかと驚きました。みなさん指摘が鋭くて、目からうろこが落ちる感じでした。何事もニーズを知って、対象に合わせたものをつくるということを考えなければいけません。これほど多様な意見が出るのかというのは、実際に多様な立場の方々とお話してみないとわからないということも思い知りました。仕事にもぜひ活かしたいです。
  - ①たくさん意見の中で、自分が思ってもみなかったものが出たりして勉強になりました。②よその町の観光の地図をみてみたいと思いました。③楽しく意見交換できました。
  - ①岐阜市の観光をPRするときに、どのような視点が必要か。②なぜ、うかいミュージアムを見たのか？ いまいち理由がわからなかった。
  - 座学ではFCの概要と進行方法を学ぶことができ、課題解決に向けた手法や考え方について、業務に活かせる部分を感じることができた。業務遂行に役立てられるようにしたい。また、実地においては、大学の職員や学生と触れ合うことで、多角的な視点を感じることができた。貴重な機会をありがとうございました。
  - 大学生やまちなか案内人といった幅広い年代の方からの意見を聞いて、視点の違う意見が多くあり、非常に参考になった。今後の業務において、行政側の一方的な視点だけでなく、様々な年代や立場の方からの意見を聞いて、よりよい事業を行っていきたいと思った。
  - ①様々な意見をきけて勉強になりました。②物事を多方面から見てみようと思います。③とても楽しかったです。仕事にも活かしていけたらいいです。
  - 工作上GWをすることがよくあります。どうしても年長者がしゃべりがちですが、年代を問わず気楽に話せるようなGW運営をしたいと思います。また、やわらかい発想で施策を考えられるようにと思います。

- 地域の方や岐阜大学の方との研修は初めてだったためとても楽しかった。学生の意見は、やはり斬新な意見が出て、とても参考となった。今後の業務において、考え方や視点を取り入れていきたいと考えている。
- 参加する立場としても今後マップに興味を持つという気持ちになり、意識の幅が広がるし、開催するのも意見が収集できて面白いかもしれないと思いました。
- ①学生や市民の方が考えていることを知ることができた。②様々な人からの意見をいただき反映させること。③学生さん達の熱意もあり、いい刺激になりました。ありがとうございました。
- 世代、所属の異なる方と意見交換する事、物の視点の違いが発見できることは、良い時間となった。各課により業務が異なっているので、各課の業務と関わる研究機関、大学学部と連携する仕組みを作っていければいいと思う。
- ①フューチャーセンターのグランドルール、思考法。②思考法を生かしたアイデア、政策の創造。③岐阜大学の学生、教師の方と討議でき、非常に良かった。
- ①他人の意見に対して否定しないと、さまざまな意見がたくさんでることがわかった。②業務内容によっては、このような会議形式はいい結果が得られそうと思いました。





# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2016.01.20 2016年2月1日発行号

VOL.22



### 「まちなか観光」を進めるために 使いたくなる散策マップにするには

岐阜市では、観光客がまちを歩き、歴史や文化を体感するための散策マップ「岐阜市をぐるり」を配布しています。この散策マップをより使いやすくするため、1月20日に長良川うかいミュージアムにおいて、岐阜大学生、岐阜市民、岐阜市職員の皆さんら36人が参加し、「使いたくなる散策マップを作ろう」(第9回ぎふフューチャーセンター)を開催しました。

まず、岐阜市観光コンベンション課から現在の散策マップについての説明を聞き、参加者が情報を共有した後、散策する人が使いたくなるような散策マップにするにはどうしたらよいかを話し合いました。グループごとに活発な意見交換が行われ、「移動時間やアクセスを分かりやすく記載する」、「買い物やグルメ情報を載せる」、「岐阜の人の顔が見えるように」など、様々なアイデアが出されました。

今回の対話で出された意見・アイデアは、現在の散策マップ改訂の参考とされます。新しい散策マップを手にも、皆さんが「まちなか観光」を楽しむことが期待されます。



#### 今回のまとめ

- 買い物・グルメ情報等を載せ、クーポンを付ける
- 分かりやすいアクセス
- 一面で大きく見やすいマップにする
- 英語・中国語等バージョンも作成
- 場所・興味別で詳細マップ
- 文字を大きく、かわいいイラストと写真を付ける
- 岐阜の人の顔が見えるような構成にする

各グループからの  
意見・アイデア



#### いろいろな改善点を発見

岐阜大学工学部1年  
森口 竜次 さん

散策マップを見て使いづらいと思うことはありませんでしたが、改善点まで考えることはなかったため、よい機会となりました。また、日頃なかなか関わることがない社会人の方と対話し、その中でグループリーダーを務めて代表で発表したことは貴重な経験となりましたので、今後に生かしていきたいです。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第10回 ぎふフューチャーセンター

つかえる「チラシ」を考えよう

平成28年1月30日（土）

会場：郡上市総合文化センター

主催：岐阜大学・郡上市



「地（知）の拠点事業」	
平成27年度第10回 ぎふフューチャーセンター(in 郡上)	
会 場	郡上市総合文化センター/多目的ホール
日 程	平成28年1月30日（土）13：15～16：00
目 的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携して大学が有する多様で豊富な教育力、研究力で県内の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として地域社会の活性化に貢献することを目的としてぎふフューチャーセンターを実施する。
テーマ	つかえる「チラシ」を考えよう ～「郡上かるた」から素材を選んで、観光PRチラシを作成する～ ① どの素材を選ぶか検討する（「郡上かるた」から選んでいく） ② こんなチラシになったらいいのではないかという案を意見交換 ③ 実際に作成し、完成させる。
内 容	市民が、何かイベントを開く場合、参加者を募るため「チラシ」や「ポスター」を配布して参加者に周知を図っている。しかし、実際にチラシ等を作成しようとしても、どのようなキャッチコピーにしたら良いかわからないといった意見や、そのデザインが難しいといった意見があり、こういったことを教えてくれるようなところはないだろうか、という問い合わせが行政にある。こうした問い合わせに行政職員として、専門的な知識を持っているわけではないので、なかなかアドバイスもできない状況である。公的な行事のチラシはもちろんのこと、地元でのイベント、ご近所の集まり、公民館行事など多くの場合でチラシが必要になってくる現状がある。 そのため、イベント等において、多くの参加者を得るにはどのようにチラシ等を作成していったらいいのかを、みんなで考えて、実際に活用していきたい。今回は、岐阜大学の「デザイン」を専攻する学生を参加者に加え、コツなどを座学で学び、大学教員、行政及び一般市民の参加を得ながら、市外の者、若者の視点も取り入れ、魅力的な「チラシ・ポスター」とはどのようなものか、アイデアを出すとともに、実際に活用できる方法を考え、フューチャーセンターにおいて実際にチラシを作成していく。参加者は、このフューチャーセンターにより生まれた気づきやアイデアを、持ち帰り今後それぞれの活動に活かしていただく。
参加者の構成と人数	22人 6人 or 5人×4グループ 学生 7人、大学教員 2人 市職員・一般含む 13人（空き家対策等の関係市民）

対話の方法	6人 or 5人×4グループ FC（2セッション）
ファシリテーター	山本 政幸 准教授
グループ発表	<p>今回は「郡上かるた」を題材にして、チラシを作成した。</p> <p>参加者に「郡上かるた」のカードを引いてもらい、選択されたカードを題材にして、実際に観光PRチラシを作成した。</p> <p>題材によって、チラシ作りが難しいと思われた素材もあったが、石徹白大杉やハザコなど、観光PRと結びつけるのが難しいカルタもあったが、参加者はグループ内で意見を出し合いながら話をまとめていった。今回は、各グループ毎に、岐阜大学教育学部美術専攻の学生にリーダーとなってもらい、参加者の出された意見をまとめて、チラシに仕上げるような方法で、フューチャーセンターを進めて行った。参加者も学生と話をしながら、一枚のチラシに仕上げられるよう努力していた。</p> <p>時間はかかったが、参加者の対話により、工夫して一枚のチラシに仕上げることができた。作業時間としては、短い時間ではあったが、8つのすべてのグループが時間内に仕上げることができた。なお、成果物として、別紙のとおりに完成した。最後に、ファシリテーター役の山本先生から講評をいただいた。キャッチフレーズの考え方や、配置の仕方、コメント欄の記入の仕方など、技術的な指導があった。</p> <p>なお、今回出されたチラシの案を参考にしながら、参加者は持ち帰って、今後の活動に活かしていただく。</p>
FC のまとめと今後の展開	<p>郡上市においては、こうした分野については、潜在的な需要があることが確認できたことや、今回のフューチャーセンターは、これまでの付箋を使った形式ではない形でフューチャーセンターを実施した。フューチャーセンターの中で、実際に素材を選んでグループでその素材について、議論しまた併せて手で作業し一つのチラシ（課題）を仕上げるというような形で、フューチャーセンターを進めることができた。こうした形式のフューチャーセンターはこれまで、実施したことはなかったが、今回のフューチャーセンターを実施できたことで、こうしたフューチャーセンターもあるのではないかと、一つの提案ができたのではないかと考えている。</p> <p>こうした、フューチャーセンターについては、今回のチラシ作成のような形だけでなく、他に発展させて展開することが可能であり、今後、郡上市教育委員会の生涯学習講座へ継続的に展開できないか、そのあり方など、検討されることが望まれる。</p>

## 第10回ぎふフューチャーセンターin 郡上のアンケート結果

平成28年1月30日(土)開催 午後1時15分～午後4時20分まで

参加者 21名 回答者 11名 回収率52%

### 1. 性別

①男性  ②女性

### 2. 年代

①10代  ②20代  ③30代  ④40代  ⑤50代 ⑥60代  ⑦70代以上

### 3. こうした講座(フューチャーセンター)への参加は何回目ですか。

①1回目  ②2回目  ③3回目 ④4回目  ⑤5回目以上

### 4. これまでに、様々な立場の人たちが集まり話し合いながら何かを決めていく場(ワークショップ等)に参加したことはありますか。

①今回が初めての参加  ②これまでに参加したことがある(1～5回)

### 5. 今回の講座(フューチャーセンター)への参加を決めた理由はなんですか。(複数回答可)

- ①テーマ「つかえるチラシを考えよう」に興味があった
- ②自分の良い経験になるから
- ③フューチャーセンターに関心があった
- ④人から勧められたから
- ⑤その他(勉強と思ってきた。)

### 6. 今回の講座(フューチャーセンター)の感想についてお伺いします。

(1)今回の講座(フューチャーセンター)に参加することで、どんなことを期待して来場しましたか。(複数回答可)

- ①参加者を通してさまざまな地域の情報を入手し、視野を広げること
- ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えること
- ③テーマ「つかえるチラシを考えよう」に関して、自分の意見を発言できること
- ④地域に関わるひとつのきっかけとなること
- ⑤その他(チラシづくりの参考にしたかった。/つかえるチラシを作りたい。/コツを学びたかった。人との交流を楽しみたい。/ノウハウを学びたい。/チラシづくりの参考になればと思った。)

(2)今日の講座(フューチャーセンター)に参加して、どんな感想をお持ちになりましたか。(複数回答可)

- ①参加者を通してさまざまな地域の情報を聞いて、視野を広げることができた
- ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた
- ③テーマ「つかえるチラシを考えよう」に関して、自分の意見を発言することが大切だ
- ④地域に関わるひとつのきっかけとなりそう
- ⑤その他(自分の今後に役立てたい。/思っていた以上に実践的で学べて良かった。)

(3)今回の講座（フューチャーセンター）に参加することで、地域に対する考えにどんな影響があったか、ありましたか。

※参加前に思うこと（複数回答可）

- ①住民自治の意識が高まる 2名
- ②人（地域、大学、行政など）のつながりができる 10名
- ③行政が身近な存在に感じる 1名
- ④その他（スキルを上げたい。） 1名

(4)今回の講座（フューチャーセンター）に参加して、地域に対する考えにどんな影響がありましたか。

（複数回答可）

- ①住民自治の意識が高まった 3名
- ②人（地域、大学、行政など）のつながりができた 6名
- ③行政が身近な存在に感じられた 2名
- ④その他（良い所を大発見できた。） 1名

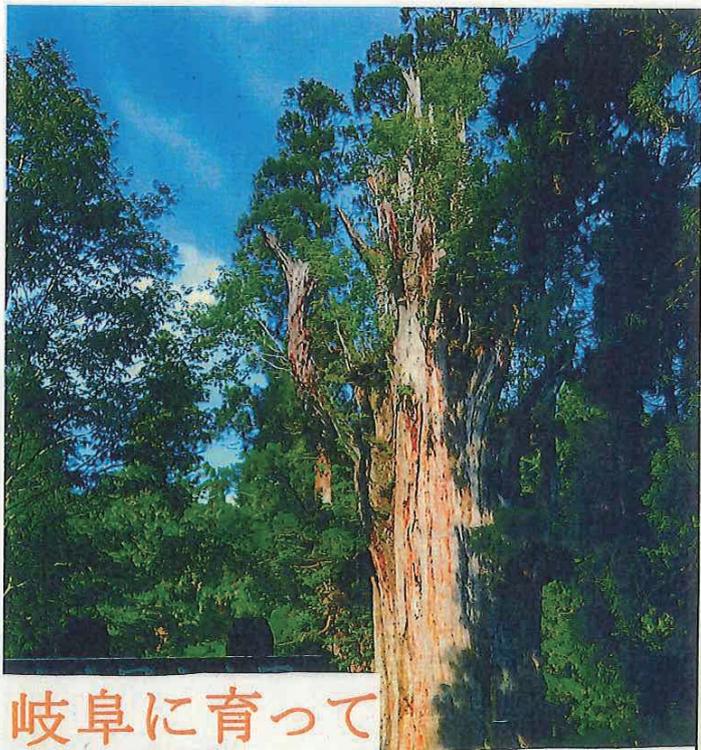
7. 今後、今回の講座（フューチャーセンター）に参加したいですか。

- ①参加したい 5名
- ②テーマに興味があれば参加したい 6名
- ③参加したくない 0名
- ④その他（                    ） 0名

8. 今後の参考とさせていただくため、今回の講座（フューチャーセンター）の内容や進め方について、ご意見をお伺いします

＜意見＞

- 若い人の中に混じって迷惑をおかけしたかもしれませんが、若い人の斬新なアイデアをお聞きする中、大変、勉強になりました。フューチャーセンターでの対話での結果、出来上がった作品は、地元に住んでいる中では気がつかない視点が入っていて、よく仕上がったものと思いました。感謝です。
- 楽しくグループワークできました。使えるチラシを作るコツ、キャッチコピーとリード文が重要だということが、例を見て良く分かりました。もっともっと、例を挙げたコツを学びたかったです。レイアウトやキャッチコピーのパターンなど。どうもありがとうございました。
- 今後もこうした講座を続けてほしい。
- 日常に役に立つような、面倒なものが簡単になるような、役に立つ話題などを提供してほしい。
- とても楽しかったです。
- パソコンを活用する場合は、今回は、フォトショップなどを準備するなど、もう少し環境が良いといいかなと思いました。
- チラシを作る際の、作業する手順が具体的で参考になりました。



岐阜に育って

約1800年 一八〇〇年

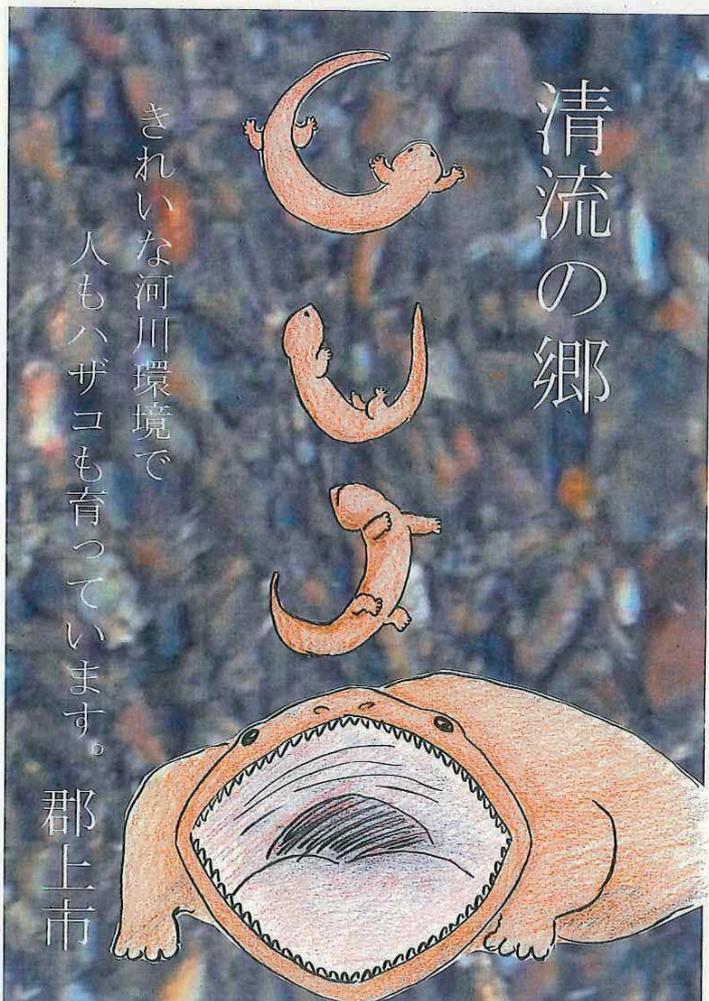
いとしろ  
石徹白大杉

郡上市

はなたぎ  
**桜旅**  
さくらの天の川をめぐる



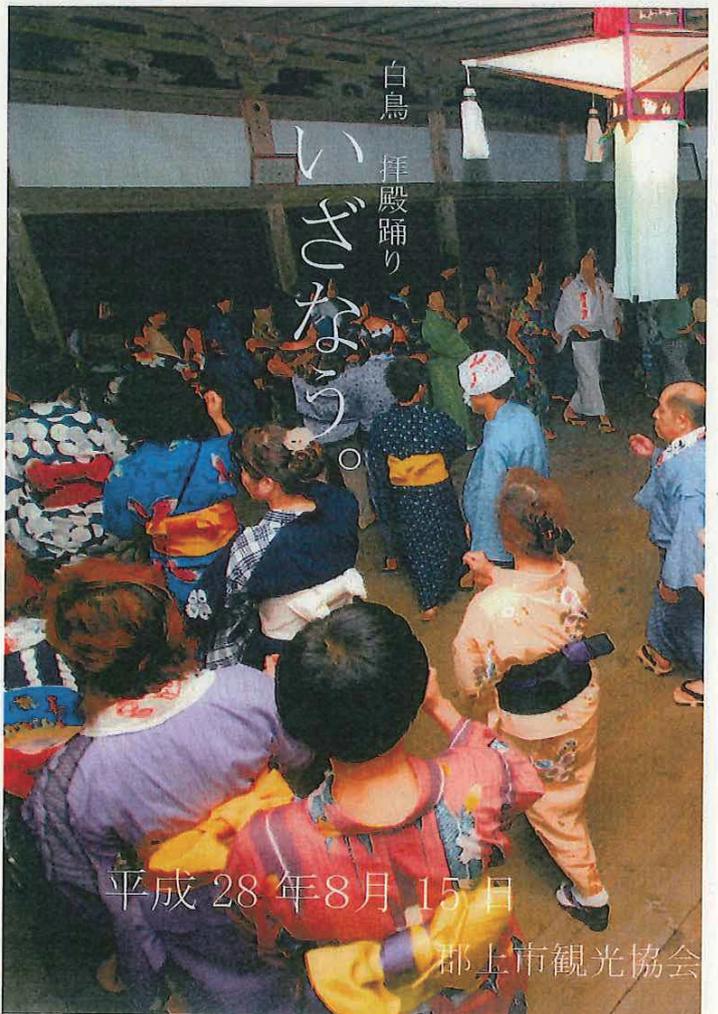
郡上市



清流の郷

きれいな河川環境で  
人もハザコも育っています。

郡上市

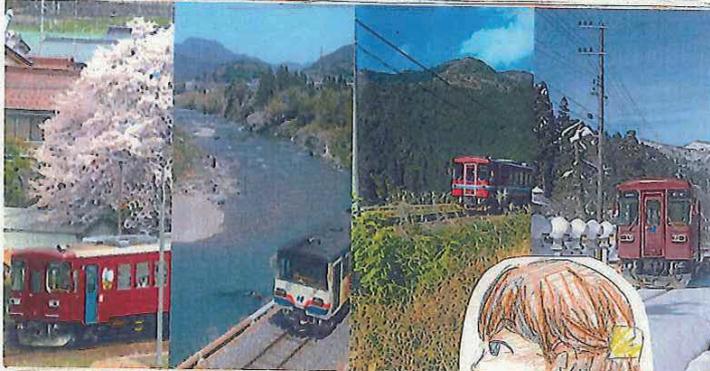


白鳥  
拜殿踊り  
いざなう。

平成28年8月15日

郡上市観光協会

ちょっと寄り道しませんか



郡上の四季で  
心にゆとりを

長良川鉄道



郡上市  
高鷲町



一面の雪景色

高原の牛乳

大根。.....大根!?

みずみずしい生食 ひらがの高原だいこん



430年の歴史!  
伝統の技・藍染



日本一を味わおう

郡上鮭は全国清流利き鮭大会で  
先人から受け継いだ  
清流長良川の香りをご賞味ください

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2016.01.30 2016年3月1日発行号

VOL.23



## 郡上を盛り上げる 「ちらし」を考えよう!

郡上市では、公民館や地域の行事に関わる市民の方から何かイベントなどを開催する際に「ちらしのキャッチコピーをどうしたらよいかわからない」、「ちらしのデザインが難しい」といった意見が寄せられていました。そこで、岐阜大学教育学部美術教育講座の山本政幸准教授を講師として「郡上かるた」の8枚の絵札(郡上本染、白鳥拝殿踊りなど)を素材に観光PR「ちらし」を作成するフューチャーセンターを開催しました。

フューチャーセンターには、一般市民11人、山本ゼミ生ら学生7人、郡上市の関係者5人が参加し、学生と市民が対話しながらキャッチコピーの決定や使用する写真の選定・切り貼りなどの作業を行いました。絵札によっては、観光PRが難しい素材もありましたが、学生と市民が一体となって作業し、8枚の観光PRチラシを作成することができました。

今回のフューチャーセンターで学んだ知識や技術を、参加者が持ち帰って今後の活動に活用することが期待されます。



©水野政雄



### 今回のまとめ

各グループで  
作成したポスター



### 地域に密着した取り組み

岐阜大学教育学部2年  
高垣 優奈 さん

初めての参加で不安もありましたが、地元郡上市出身ということで参加者との会話も弾み、地域に密着した取り組みだと感じました。様々な方と色々な話をし、多様な考え方にふれることができ、勉強になりました。今後の自身の活動に活かそう取り組みだと思えます。また機会があれば参加したいです。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第11回 ぎふフューチャーセンター

美濃加茂市特産の干柿の新たな展開を考える

平成28年2月16日（火）

会場：美濃加茂市生涯学習センター

主催：岐阜大学・美濃加茂市



「地（知）の拠点整備事業」 平成27年度第11回 ぎふフューチャーセンター（in 美濃加茂市）	
会場	美濃加茂市 生涯学習センター
日程	平成28年2月16日（火）
テーマ	美濃加茂市特産の干柿の新たな展開を考える
サブテーマ	①美濃加茂の干柿の現状を知る（干柿を見る、食べる） ※現場をよく知る人からの情報提供あり ②美濃加茂の干柿を取り巻く課題は何か ③干柿活用の新たなアイデアを作る
目的	美濃加茂市の特産である「堂上蜂屋柿」は、地元で生産され審査基準を満たして初めて出荷される商品であり、ごく一部の干柿（生産量の10%程度が最上級品）しか認定されない。そのほかの基準を満たしていない規格外（B級品）の干柿は、廃棄されるなど十分に活用されていないのが現状である。そこで、今回のフューチャーセンターをとおして堂上蜂屋柿になれない干柿を有効に活用する方策やアイデアを創出し、地域の特産品の認知度をさらに向上させることを目的とする。FCで創出されたアイデアなどは、岐阜大学と美濃加茂市が連携し、継続した取組みに活用する。場合によっては、同様のテーマで第2回目のFCも検討する。
参加者の構成と人数	地域住民 3人 加茂農林高校 10人 JA職員 1～2人 自治体職員4人 岐阜大学生 10人
対話の方法	5グループ（5人1グループ） 学生がグループリーダーになる ファシリテーター：伊藤栄一地域コーディネーター
参加者の移動方法	岐阜大学関係者：借り上げバスで移動 地域住民：現地集合 高校生：現地集合
当日のスケジュール	15：30～ 会場準備（生涯学習センター） 16：00～ 受付 16：30～ FC概要説明 16：40～ 美濃加茂市の情報提供 16：50～ アイスブレイク・自己紹介等 17：00～ セッション①（上記サブテーマ1） 20分 17：20～ セッション②（上記サブテーマ2） 20分 17：40～ セッション③（上記サブテーマ3） 20分 18：00～ まとめ 10分 18：10～ グループ発表 15分（3分/1グループ） 18：25～ アンケート 18：30～ 会場撤収

<p>出された意見</p>	<p>1. 課題としては、価格が高い、生産量が少ない、認知度が低い、後継者不足、保存性が低い、売り場が少ない、販売期間が限られることなどがあげられた</p> <p>2. 各グループによる干し柿を活用した新しいアイデアについては以下のとおり</p> <p><b>1 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鮎菓子や化粧品に利用する</li> <li>・ 規格外品も味は変わらず良いので、規格外品を使った試食会を行い、ゆず巻などいろいろな食べ方を提案する</li> </ul> <p><b>2 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の小中学生や観光客向けに現場学習や体験を行う</li> <li>・ 「蜂屋柿づくり」のゲームアプリの開発</li> <li>・ 高級ホテルで提供する</li> <li>・ 堂上蜂屋柿味のスナック菓子（ハイチュウ、キットカット）を作り、駅などで土産物として販売する</li> </ul> <p><b>3 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規格外品や機械乾燥の干し柿を使用して加工品を作る</li> <li>・ からすがつつくなどで捨てていた柿を活用してジャムを作り、そのジャムを洋菓子や和菓子に使用する</li> <li>・ 昇龍道ルートをめぐる外国人に干し柿づくりを行ってもらい、帰国前に届ける。その際に蜂屋柿の歴史を伝える</li> </ul> <p><b>4 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お菓子、ケーキ、お茶、酢に活用し、高級感を出す</li> <li>・ 給食に取り入れる</li> <li>・ ばら売りやコンビニでの1個売りを行い、多くの人に知ってもらう</li> <li>・ 保存方法を確立する</li> <li>・ 企業と連携する</li> </ul> <p><b>5 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 干し柿を売り出す機会を増やす。昭和村での販売やインターネットを活用する</li> <li>・ 航空機の機内においてもらい世界にPRする</li> <li>・ 和食、加工品、洋菓子に使用する</li> </ul> <p><b>6 グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い人に食べてもらうため、干し柿づくり体験やイベントを実施する</li> <li>・ せりをつかって価格をあげてPRする</li> <li>・ 農家の方が規格外の干し柿を使ってつくるゆずを干し柿で巻いたものを一般にも広める</li> </ul>
<p>今後の展開</p>	<p>美濃加茂市と協議の上、決定する。なお、干柿の保存については、岐阜大学と美濃加茂市との共同研究が予定されている。</p>

ぎふフューチャーセンター アンケート結果

平成27年度第11回 「美濃加茂市特産の干柿の新たな展開を考える」 参加者数31人、うち回答数29

1. 性別

	①男性	②女性
人数	23	6
割合(%)	79.3	20.7

2. 年代

	①10代	②20代	③30代	④40代	⑤50代	⑥60代	⑦70代以上
人数	14	3	4	4	3	0	0
割合(%)	48.3	10.3	13.8	13.8	10.3	0	0

3. フューチャーセンターへの参加回数

	①1回目	②2回目	③3回目	④4回目	⑤5回目以上
人数	23	2	0	3	1
割合(%)	79.3	6.9	0	10.3	3.4

4. 話し合いの場(ワークショップ等)の参加経験

	①初めて	②経験有
人数	10	19
割合(%)	34.5	65.5

5. 参加の理由 (複数回答可)

	①テーマに関わりたかった	②自分の良い経験になる	③FCIに関心があつた	④人から勧められた	⑤その他
人数	11	10	8	8	5
割合(%)	26.2	23.8	19	19	11.9

⑥その他 の内容  
 課題研究に生かせる 1  
 市役所からの依頼 2  
 専門的な話を聞きたい 1  
 未回答 1

6. フューチャーセンターの感想

(1) フューチャーセンターに参加することで、どんなことを期待して来場しましたか(複数回答可)

	①参加者から地域の情報を入手し、視野を広げること	②さまざまな知識や経験を持った人と知り合えること	③テーマに関して自分の意見を発言できること	④地域に関わるきっかけのひとつとなること	⑤その他
人数	19	16	8	13	1
割合(%)	33.3	28.1	14	22.8	1.8

⑤その他 の内容  
 若い人の感覚で新たな可能性や  
 気づきがあればと思った 1

(2) 今日のフューチャーセンターに参加して、どんな感想を持ちましたか(複数回答可)

	①参加者から地域の情報を入手し、視野を広げることができた	②さまざまな知識や経験を持った人と知り合うことができた	③テーマに関して自分の意見を発言できることが大切だ	④地域に関わるきっかけのひとつとなりそうだ	⑤その他
人数	20	16	9	7	2
割合(%)	37	29.6	16.7	13	3.7

(3) フューチャーセンターに参加することで、地域に対する考えにどんな影響があると思いますか(複数回答可)

	①住民自治の意識が高まる	②人(地域、大学、行政など)のつながりができる	③行政が身近な存在に感じる	④その他
人数	13	23	5	3
割合(%)	29.5	52.3	11.4	6.8

⑥その他 の内容  
 課題の重さ(なかなか解決できない)を感じた 1  
 地域資源が見える 1  
 みんなの思いやアイデアを具体化できるきっかけ 1

(4) フューチャーセンターに参加して、地域に対する考えにどんな影響がありましたか(複数回答可)

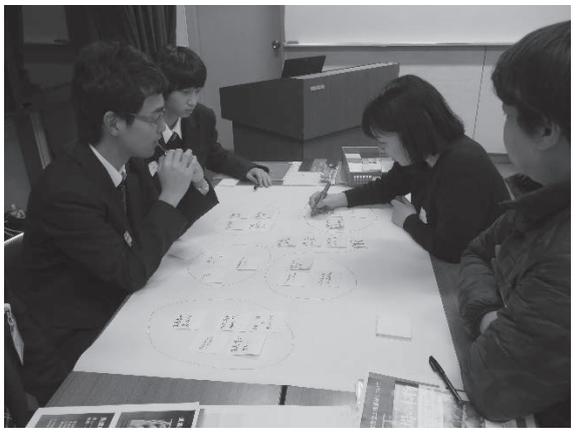
	①住民自治の意識が高まった	②人(地域、大学、行政など)のつながりができた	③行政が身近な存在に感じられた	④その他
人数	10	22	5	2
割合(%)	25.6	56.4	12.8	5.1

⑥その他 の内容  
 みんなの思いをまとめるのは難しい 1  
 地域には資源がもっとあるはず 1

7. 今後のフューチャーセンターへの参加

	①参加したい	②テーマに興味があれば参加したい	③参加したくない	④その他
人数	12	16	0	0
割合(%)	42.9	57.1	0	0

未回答1



# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2016.02.16



### 美濃加茂市特産「堂上蜂屋柿」の 新たな展開を考える

美濃加茂市特産の干柿「堂上蜂屋柿」は、大ぶりの実やあめ色の美しさが特長で千年続く伝統的な製法で作られています。2月16日のフューチャーセンターには、岐阜大学生や加茂農林高校の生徒、堂上蜂屋柿の生産・流通関係者や美濃加茂市職員など31人が参加し、堂上蜂屋柿の新たな展開について考えました。

参加者は、市職員から堂上蜂屋柿についての説明を受けた後、グループごとに堂上蜂屋柿や規格外の干柿、他の産地の干柿を見て試食しながら干柿の現状について理解を深め、後継者不足や保存性の低さなど堂上蜂屋柿を取り巻く課題について意見を出し合いました。次に、規格外品を含む干柿を活用したアイデアを考え、各グループからは、「試食会を行い、干柿のゆず巻きなど新しい食べ方を提案する」、「せりをつかって価格をあげてPRする」、「保存方法を確立し、出荷時期を長くする」などの意見が出されました。

課題とされた干柿の保存については、岐阜大学と美濃加茂市による共同研究が予定されています。



### 今回のまとめ

- 規格外品を使った試食会を行い、干柿のゆず巻きなどいろいろな食べ方を提案する
- ばら売りやコンビニでの販売を行い、多くの人に知ってもらう
- 昇龍道ルートをめぐる外国人に干柿づくり体験をしてもらい、帰国前に届ける
- せりをつかって価格をあげてPRする
- 地元の小中学生や観光客向けに現場学習や体験を行う
- 保存方法を確立する

各グループからの  
意見・アイデア



### 堂上蜂屋柿を同世代に伝えたい

加茂農林高校生物工学科3年

白井 和稀 さん

私たちの高校では、堂上蜂屋柿を使った酢や鮎菓子の開発に取り組んでいます。今回は、様々な方の意見を聞けることを楽しみに参加しました。人それぞれ意見が異なり、堂上蜂屋柿についてたくさんの方の方向性があることを知りました。今後は学んだことを活かしながら、堂上蜂屋柿について同世代の人に伝えていきたいです。



**CCSC**  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[ FAX ] 058-293-3167  
[ E-Mail ] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



学内企画 ぎふフューチャーセンター

## 岐阜大学生によるオリエンテーリングルートの提案

平成 27 年 9 月 4 日（金）～5 日（土）

会場：中津川市中の島ふれあいの里ほか

主催：岐阜大学工学部社会基盤工学科

地域システムデザイン研究グループ



1. 名 称 ぎふフューチャーセンター@中津川市阿木地区
2. 主 催 岐阜大学工学部社会基盤工学科 地域システムデザイン研究グループ
3. 開 催 日 平成27年9月4日(金)～5日(土)
4. 開催場所 中の島ふれあいの里 ホール(〒509-7321 岐阜県中津川市阿木2780-1)ほか
5. テー マ 岐阜大学生によるオリエンテーリングルートの提案
6. 参加人数 41人 (学生:16人, 大学教職員:5人, 自治体職員:4人, 阿木地区住民:16人)
7. 目的

阿木地区は中津川市の南西にあり、人口は2,580人と中津地区と比較して、少なく、高齢化率も高いことから、地域の伝統文化を継承していくことが課題であると地域住民が考えている。かつ観光により地域経済を維持していくことを課題とし、他地域あるいは他主体との連携構築に取り組んでいる。特に、阿木川ダム下流域の特性を生かした親水公園の活用など、自然とのふれあいを観光資源として活用した観光を推し進めており、地区の興味のある地域住民同士で地域外からの観光客を受け入れ、リピートしてもらう工夫をしている。

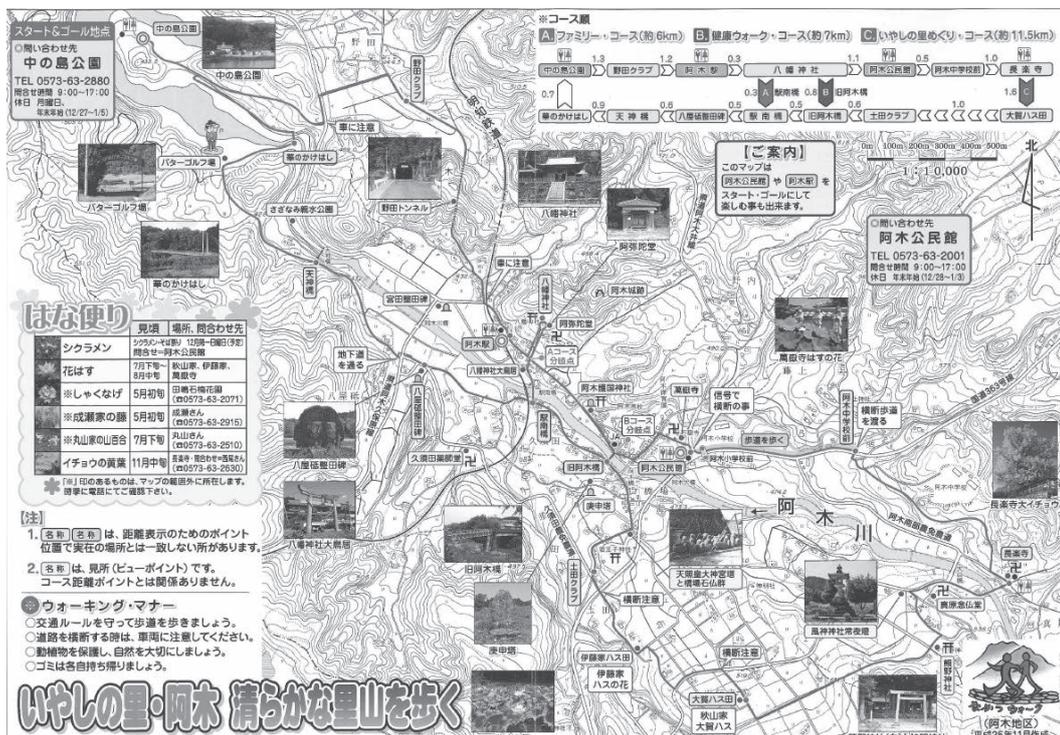
このような、中津川市阿木地区において、学生との対話の場を持つことへの期待が、中津川市阿木事務所および中津川市からあり、岐阜大学工学部社会基盤工学科 地域システムデザイン研究グループが、阿木地区でぎふフューチャーセンターを開催することとした。

阿木で開催したぎふフューチャーセンターでは、地域住民から学生が地域の現状を学ぶことを通じて、地域づくりのヒントを見つけること、および地域のことを地域内外に発信することにつながると考え、学生目線でオリエンテーリングルートを作成することをテーマとして設定した。

8. 内容

オリエンテーリング (実施 and ルートづくり)

- 既存のオリエンテーリングルートを地域の方の案内で実施する。
- 岐阜大学として、新たなオリエンテーリングルートを提案する。
- バスに乗り、主要個所をみたのちに、3グループに分かれ地元の方と一緒に阿木を散策する。



9. スケジュール

9月4日

時間	拠点場所	内容	備考
7:30	大学		
8:00	岐阜駅		
10:00-	明知鉄道恵那駅		
10:21 発 11:10 着	明知鉄道恵那駅 明知鉄道明智駅	明知鉄道についてのお話 by 明知鉄道 丸山朝夫さん	
11:10-11:40		移動	
11:40-12:00	中の島ふれあいの里	荷物を運ぶ	
12:00-13:00	研修室	昼食	ささりんどうのお弁当
13:00-13:40	中の島ふれあいの里 ホール	阿木の説明 地域の方の自己紹介 企画説明	
13:40-14:20		移動	3箇所をバスでまわり，紹介いただき，全箇所をまわったうえで，担当箇所で降りる。
14:20-16:00	中の島ふれあいの里 地域内	地域の方の説明 地域の散策	3ルート ①阿木城址 ②阿木橋・野田トンネル ③大いちょう
16:00-17:30	中の島ふれあいの里	室内ルート作成	
17:30~19:00		夕食づくり	
19:00~	〃（炊事棟）	夕食・意見交換	地域の方に再度合流いただく
		室内ルート作成	

9月5日

時間	拠点場所	内容	備考
7:30-8:00	中の島ふれあいの里	朝食	
8:00-8:50		準備	
8:50-10:15		発表会	
10:15-10:30		移動	
10:30-12:00	パターゴルフ場	パターゴルフ	地域の方も参加いただく
12:00-13:30	そば処	昼食	
-16:00	岐阜駅		
-16:30	大学		

10. 協力いただいた地域の方

代表者	団体
本多 敬穂さん 外	阿木歴史教室
渡辺 和義さん 外	阿木城址保存会
戸塚 智尚さん 外	阿木大いちょう保存会
西尾 廣行さん 外	阿木区長会
渡辺 雅代さん	集落支援員

## 1.1. 各班のオリエンテーリングルート作成の結果

### 【1班】

#### (1) 班員

学生：小野剛史 (M2)，川口直秀・井戸聖 (M1)，衣斐友良・大河周平・尾関清太郎 (B4)

大学教職員：出村嘉史

#### (2) テーマ

気の安まる散歩道

#### (3) 目的

阿木城跡を地域の財産として認識してもらう

#### (4) 課題

- 阿木城跡について地域の人にも知られていない  
一部の保存会の方々が率先して保護活動を行っているが、十分に知られていない現状がある
- 来る人が歴史マニアのような特定の層に偏っている  
来られる方にどこで知ったのかをアンケートや聞き込みにより調査したところ・・・歴史好きのマニアの中で阿木城あとが有名となり実際に来られた方が多い
- 阿木の財産であるという認識が地域に根付いてない  
保存会の会長さんの話によると、ここだけの観光地で終わらすのではなく、阿木の財産として、守っていききたい。

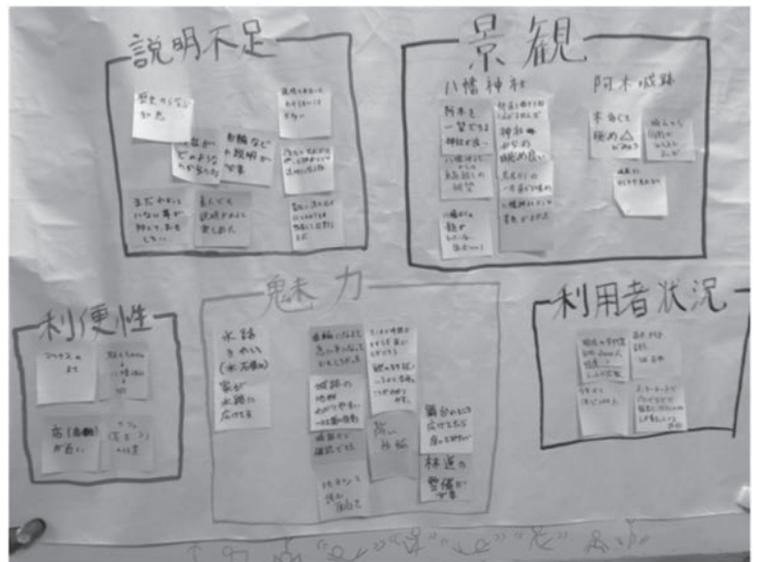
#### (5) 提案

コンセプト：阿木城跡を誰もが知る散策コースに

ターゲット：30～60代の社会に揉まれている人たち

効果：主に都会に住んでいる社会人は、田舎と時間の感覚が違うと思われる。都会のような時間が早く進む人にとって、阿木のようなどかでゆっくり進む時間はとても新鮮で心地良いものになると思う。その中の観光地として阿木城跡を提案したい。阿木城跡は天守閣がなく地形を利用した山の頂上に位置しており、今でも先祖の知恵が残っている状態である。ここに来てもらうために、駅からの散策コースと腰巻おにぎりを紹介します。

この散策コースは、地域住民の方が自ら整備した道であり、もともと城が存在した時期に使われていた道です。進んでいくと、曲輪や堀切といった戦術の土地利用がうかがえ、戦国時代に戻ってきたような感覚を味わうことができます。腰巻おにぎりを身に着けて登ってもらい、頂上で食べてもらうことも考えている。また下山したあとの神社から見える景色は田園風景、明知鉄道と田舎の象徴的な風景で、心を安らぎます。2時間ほどの散策コース。来訪者が増加することによって、新しいサービスが生まれる。明知鉄道利用者が増加する地域の財産として誇りに思えるものが増えるにつなげていきたい。



## (6) 感想

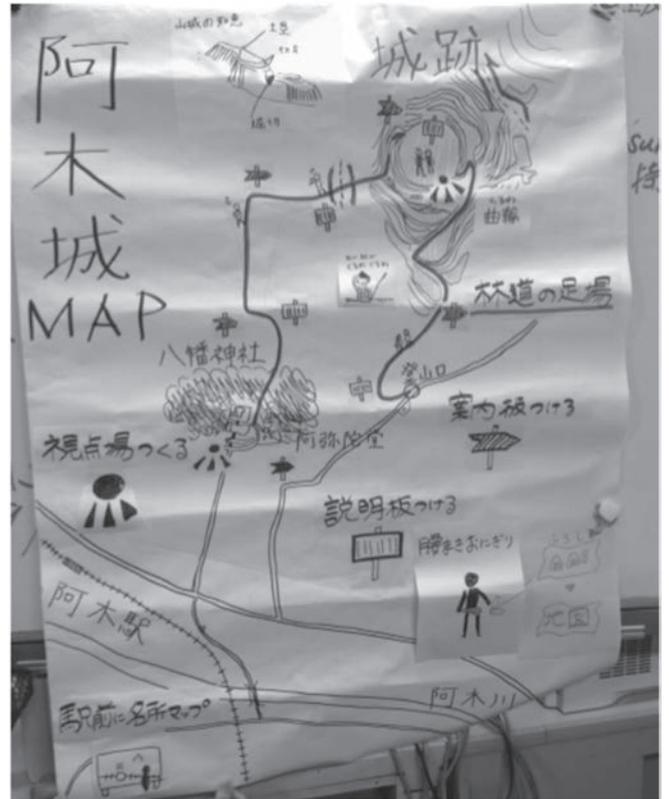
阿木という場所は初めて訪れたが、明知鉄道から始まり、阿木城跡めぐり、地域の方々と交流と体験させていただきました。中でものどかな田舎の風景と地域の方々の地元に対する熱い想いが印象的でした。僕自身も稲作をやっているため苦労は少しわかりませんが、あれほど草刈をして水の調整など管理しているのはすごいと感じました。毎日田んぼに出かけ、手入れしている姿がうかがえます。

そして何よりも阿木に対する愛着、守っていこうとする気持ちが伝わってきました。阿木城跡を案内してもらったときに、自主的に阿木城の魅力を伝えていきたいと考え、行動している人がいると知りました。そして地域の一つの財産として位置付けていきたいという考えを聞き、阿木を含め地域全体の活性化、まちづくりにつながると感じました。こういった方々が岐阜のそれぞれの地域で増えていくことが地域創世の一歩だと思います。

夜のバーベキューでは、本音や冗談をいれながら楽しく交流できたと思います。僕自身は進路相談にのってもらい、人生経験豊富な先輩に職業選択や仕事に対する不安を聞いてもらい心身ともにリラックスできました。また夜空の星がきれいだったことも印象的です。

僕たちの発表はたった一日で考えたもので、阿木の魅力のほんの少し程度ですが、若いなりの意見だったと思います。腰巻おにぎりなど・・・しかし、こういった魅力を考え伝えていくことができるのは、ここに住んでいる地域住民の方々が積極的に行うべきだと思います。

また訪れたいと思います。ありがとうございました。



## 【2班】

### (1) 班員

学生：周鴻・大野峻 (M2)，鈴木希 (M1)，横山宗一郎・渡邊光太 (B4)

大学教職員：倉内文孝・大野沙知子

### (2) テーマ

あぎばあと阿木の歴史をめぐる旅

### (3) 目的

阿木の歴史を感じながら、新たな魅力を発見する

### (4) 提案

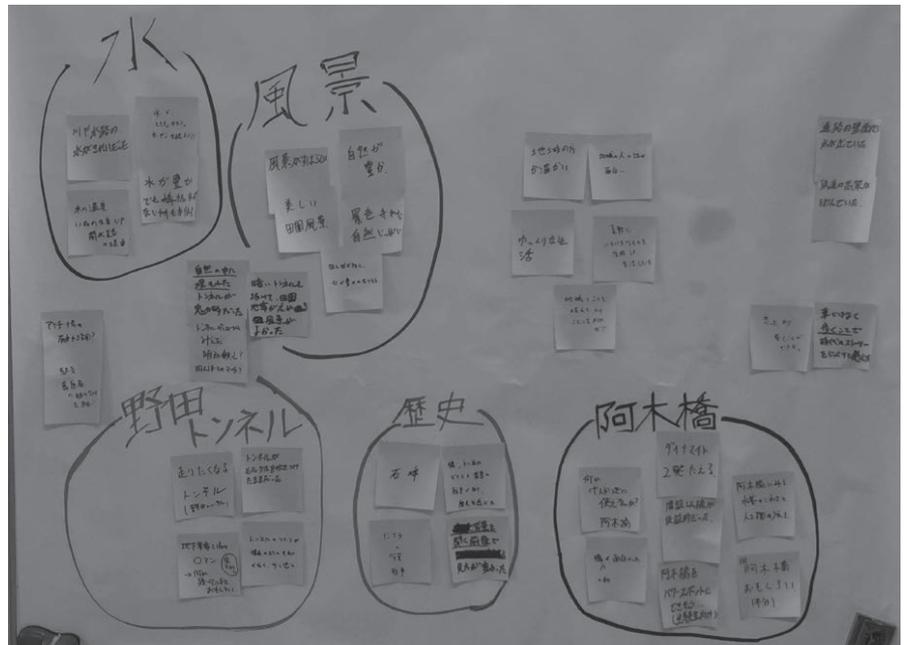
各ポイントの現状と歴史 ～そして、どう魅力を伝えるか

#### ① 旧阿木橋

私たちが提案するオリエンテーリングのルートはまず旧阿木橋からスタートする。現在の旧阿木橋の外観は異様ともいえるものであり、そこから歴史を感じさせられる。旧阿木橋がそのような状態となったのは 50 年前のある出来事によるものである。

昭和30年代、阿木川で大規模な洪水災害が起こった。この水害発生の要因としては3つ存在する。まず1つ目は大雨による河川水位の上昇。2つ目が戦時中の木材不足による森林伐採、3つ目としては、除草剤を撒

くことで地盤が緩くなってしまったことがある。以上の3つの要因が重なり洪水が起こってしまった。また大規模な洪水が発生したために、川岸が大きく削られてしまった。しかし、コンクリート橋である旧阿木橋は流されることなくほぼ無傷で残った。その後、撤去工事のため2度ダイナマイトによる爆破工事が実施されたが、旧阿木橋は耐え、撤去が白紙とされた。さらに、阿木に住む住民の生活において非常に重要な橋であったため、失われた半分のコンクリート橋を代替として鉄



橋を増設した。このような歴史的な背景により、現在の旧阿木橋は、その半分がコンクリート橋で、もう半分が鉄橋という異様な構造となっており、今もなお地域住民の大切な橋として使われている。

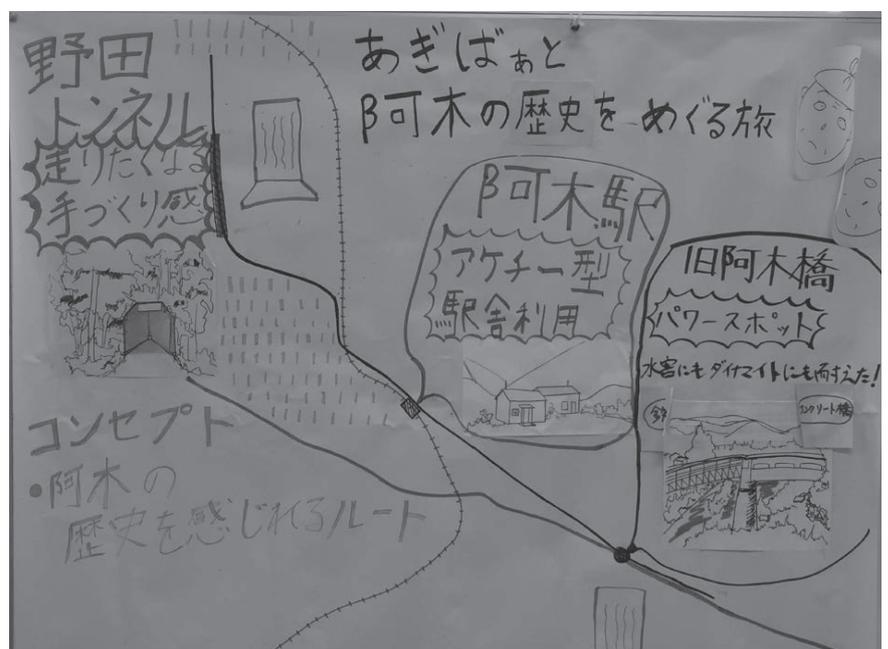
そこで、大規模な洪水や、爆破工事にも耐えてきた旧阿木橋を、パワースポットとして旧阿木橋の魅力を伝える為の観光資源として利用してみてもどうか。

## ② 阿木駅

阿木駅は昭和8年に国鉄明知線の駅の一つとして開業した。当時の阿木駅は木造であり、現在でもその面影を残している。開通当時に使用されていた列車「明智一形」が保存されている。しかし、現在、「明智一形」は倉庫として利用され、その周囲は板で覆い隠されているため散策する道路側からは全くその姿を見ることができない状態となっている。かつて阿木に住む人々の重要な移動手段として機能し、生活を支えていた「明智一形」の存在を阿木駅を訪れる人たちに知ってもらい、阿木駅全体の魅力を伝える為の観光資源として利用できないかと考えた。例えば、明智駅を訪れた人たちが「明智一形」とその背後に広がる田園地帯をカメラのフレームに収めればきっと阿木の魅力が伝わる作品が完成するだろう。

## ③ 野田トンネル

阿木高校から真っすぐ東に進み、阿木駅を通り過ぎて北へしばらく進むと、細い山道が見えてくる。その小道をさらに奥へ進んで行くと、素掘りの小さなトンネルがひっそりと山の奥へと続いている。これが阿木トンネルである。戦時中に地下軍需工場として掘られ、現在では主に地元の人々によって道路トンネルとして利用されている。このトンネルが現在まで大切にされ続けている理由は、単なる近道というだけではなく、阿木の歴史を体感することができるスポットの一つとして阿木に住む人々の強い思いが込められているからである。そこで、阿木トンネルの歴史とその魅力が伝わるようにするに



は、新たに手を加えることをせず、その自然に囲まれているという立地条件と、トンネル内の現在の状況を生かしたいと考えた。

また、野田トンネル南側は山道へと続き、北側は田園地帯となっている。そのため、南側からトンネルに入り、暗く長いトンネルをぬけて目の前に広がる田園地帯を見たとき、阿木の景観的魅力に気づくことができるのではないかと考えた。そこで、散策ルートの方角はトンネルの南から北へ進み、野田トンネルの出口をゴール地点とする提案をした。

#### (5) 感想

オリエンテーリングのルート作成において、どうすれば阿木に残る観光資源の魅力をもっと多くの人々に伝える事ができるか、さらにどのように地域の方々の思いを反映した提案を行なうことができるかということに意識していた。また、阿木の外から来た「よそもの」の私たちだからこそ気づくことができる阿木魅力を発見しようと考えていた。阿木に住む人々にとってはごく当たり前のよう存在し、観光資源として認識されていない風景や資源が、まだまだ多くあると思う。それを客観的な視点により発見することが私たちの役目であったと思う。

### 【3班】

#### (1) 班員

学生：富田敬之 (M2)、永井信明・安藤宏恵 (M1)、坂東照仁・佐々木憲史 (B4)

大学教職員：高木朗義・杉浦聡志

#### (2) テーマ

人生のルート

#### (3) 目的

自然豊かな阿木をアピールするために、大イチョウの木を中心に、どのようにして観光客を呼び寄せ、リピーターになってもらうか。観光ルートを作成することを目的とする。

#### (4) 課題

阿木は緑が多く、川の水も澄んでいて、阿木という地名の由来である「気の安らぐ場所」としてうってつけの場所である。3班は大イチョウの木がある長楽寺を中心に散策した。長楽寺は周囲の自然に溶け込んでおり、長楽寺自体とても情緒があった。そして、大イチョウと呼ぶだけあり、木はたくましくそびえ立っていた。また、長楽寺から少し歩くと、中学校があり、その付近の高台から見る景色は素晴らしかった。しかし、阿木を訪れる観光客は少ない。現に、散策中観光客らしき人は一人も見なかった。この理由として考えられるのは、見どころとなる場所同士の繋がりが薄く場所が分かりづらいため認知されづらい事だと思われる。また自然が豊かなのは阿木だけではない。自然が豊かなのは確かだが、これだけでは観光客は訪れない。何かもう一つアピールできるポイントがなければ観光客は寄ってこないと考えられる。これらの点から、「見どころの場所が何処か分かりづらい」、「今ひとつインパクトが足りない」という課題が挙げられた。

#### (5) 提案

これらの課題に対して、いかに阿木を訪れてもらうか、いかに阿木を回ってもらうかの解決策を提案していく。大イチョウ自身もそうだが、大イチョウの周りには夫婦円満や恋結びといった縁結び系統の言い伝えがあるものが多かった。そこで3班はルートでも人生のルートというテーマで解決策を提案していった。以下に詳細を示す。

##### ① 大イチョウ

大イチョウには乳根というものがある。乳根とは枝から垂れ下がったように下にのび 太棍棒上の突起物で

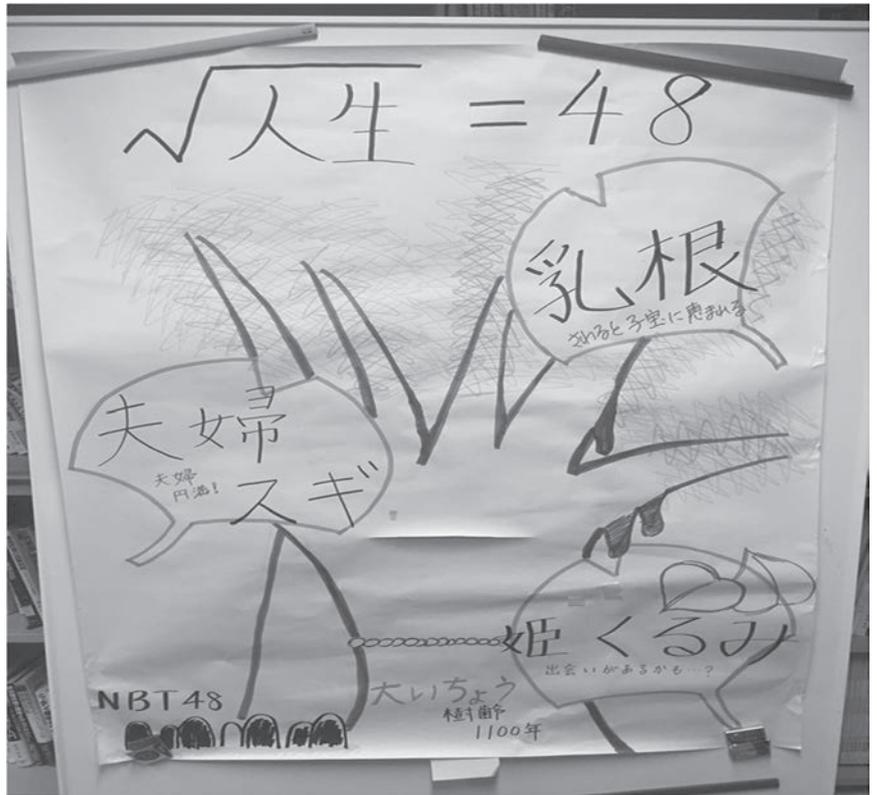
ある。この乳根に触ると乳がよく出る、子宝に恵まれるなどの言い伝えがある。

## ② 夫婦杉

散策では夫婦杉を実際に見たわけではない。夫婦杉については、地域の人から教えてもらった情報である。夫婦のように2本の杉の木が寄り添っているように見えるので、夫婦杉と呼ばれている。地域の人がおっしゃるには夫婦杉を訪れると夫婦円満の効果があるといわれているらしい。

## ③ 姫くるみ

これは散策の途中で見つけたものである。くるみの木が道端に生えており、それになっているくるみを見ると、ハート型であった。地域の人



これを姫くるみと呼んでいるらしい。これに言い伝えはないのだが、私たちはハート型であったため、これを見つけると出会いがあるという設定を作った。

この大イチョウ、夫婦杉、姫くるみの共通点である縁結び系統の言い伝えを利用して人生のルートというテーマでルートを作成した。ただ大イチョウや景色のいい高台を回るだけでは観光客は寄ってこない。さらに設定を加えることによって、散策する価値を与えた。

## (6) 感想

3班はメンバーにどんどん意見を出してもらえた。テーマ等も発表前日の話し合いで早くから決めていたため、色々と考えて議論する事ができたと感じた。学生だけの班ではなく高木先生や杉浦先生の二方にも参加していただいた事もあり、アイデア、アドバイス等も多く、障害無く進められたと思う。全ての班には地域の人に参加されていたが、地域の人と初めて来た自分達の意見を比べる等といった事でき、違った視点の意見を貰えた事も大きかった。全く別のルートであった1班2班からはやはり自分達とは異なった視点でルートが作成されていた。一つの町の阿木でも散策する場所が少し違うだけでこれだけ別のアイデアが出る事は阿木には多くの魅力があるということだと考える。

## 12. 夏ゼミでの学びや意見・感想

### \*\*\* 阿木地区からの意見・感想 \*\*\*

- ✓ オリエンテーリングルートの記事で参考になることがあった。域学連携とは何かを感じられた。学生が勉強することも域学連携の中であったが、地域の側が学生からパワーをもらった。域学連携は地域の方が学ぶ機会だった。
- ✓ 阿木橋はパワースポット、流れない、壊れない、このような発想は新鮮だった。
- ✓ 阿木城址は、阿木の中でも知られていない。地域内でPRすべきとわかった。腰巻おにぎりは、いいアイデアだった。
- ✓ 大イチョウを見に、お祭りにも、ぜひ参加をしてほしい。
- ✓ 新しい目でみて、意見をもらうことができた。
- ✓ みんなの願い、過疎地域で人口を増やしたい、訪れる人を増やしたい、そのために、地域の方がこのイベントに参加をしていることを理解してほしい。
- ✓ 新しい発想をもってきてもらうことは阿木にとってよいことだと思った。また、阿木とはいいところだったとPRしてほしい。
- ✓ 何がしたいのかがよくわからなかった・・・
- ✓ ゼミ側の課題などが、もう少しわかっていたら、もう少し上手に説明できたかもしれない。
- ✓ 今回の取り組みを通じたつながりが、今後も維持できるかどうか。2日間あったので、まだよかったが、協学センターの1日だけの取り組みで何ができるのかと思う。
- ✓ 地域からの参加者が区長等年配の方ばかりだったが、地域の若い人に参加してもらったらよかったと思った。

### \*\*\* 学生の意見・感想 \*\*\*

#### ○阿木城

□阿木という場所は初めて訪れたが、明知鉄道から始まり、阿木城跡めぐり、地域の方々と交流と体験させていただきました。中でものどかな田舎の風景と地域の方々の地元に対する熱い想いが印象的でした。僕自身も稲作をやっているため苦労は少しわかりますが、あれほど草刈をして水の調整など管理しているのはすごいと感じました。毎日田んぼに出かけ、手入れしている姿がうかがえます。そして何よりも阿木に対する愛着、守っていこうとする気持ちが伝わってきました。阿木城跡を案内してもらったときに、自主的に阿木城の魅力伝えていきたいと考え、行動している人がいると知りました。そして地域の一つの財産として位置付けていきたいという考えを聞き、阿木を含め地域全体の活性化、まちづくりにつながると感じました。こういった方々が岐阜のそれぞれの地域で増えていくことが地域創世の一步だと思います。夜のバーベキューでは、本音や冗談をいれながら楽しく交流できたと思います。僕自身は進路相談にのってもらい、人生経験豊富な先輩に職業選択や仕事に対する不安を聞いてもらい心身ともにリラックスできました。また夜空の星がきれいだったことも印象的です。僕たちの発表はたった一日で考えたもので、阿木の魅力のほんの少し程度ですが、若いなりの意見だったと思います。腰巻おにぎりなど・・・しかし、こういった魅力を考え伝えていくことができるのは、ここに住んでいる地域住民の方々だと思いました。また訪れたいと思います。ありがとうございました。

#### ○大イチョウ

□東濃地方にはあまり出ることが少なく、地域を知るいい機会となりました。大いちょうを中心にまち歩きを行ったが、中学校近くからの眺望や阿木川のせせらぎなど自然を感じられるいいポイントだと感じました。歩くにはちょうどいい範囲だと感じたので、ポイントポイントで案内マップを作ることは有意的なものだと思います。

ます。

□明知など周辺地域には比較的行き慣れていたが、阿木へは初めて訪れた。自分の班は大銀杏を見に行ったが、歴史ある大銀杏は魅力的だと思った。紅葉の時期に少し早かったのが惜しい。

認知さえ広がれば来たい人は出てくるだろうと思うが、同時に、人がいなくて静かに過ごせるから魅力的なのでは、とも感じた。静かな時間を過ごせることが魅力なのであれば、どこまでの範囲を、どれだけのレベルで整備するのか吟味すべきだと思う。個人的には阿木駅周辺の鉄道の風景や、流されず残った橋など、興味をそそられる物が多かったため、自分の班が回れなかったのは心残りでもある。

明知鉄道の機関車も乗ってみたいと思っているので、いずれ個人で立ち寄ってみたいとも思った。

□私は、大いちょうの班で街歩きをしました。そこで、大いちょうはもちろんですが、その後に河岸段丘が見えるという阿木中学校の方へ向かったときに、その道中での何気ない会話から学ぶことが非常に多かったと思います。昔のエピソードを交えながら、阿木ならではの話などを聞くことができ、とても面白かったです。ただ、全体的な意見として、阿木を初めて訪問する学生がほとんどでしたので、事前にもっと阿木について学習し、特に気になるところや見てみたいところをあげておくと、もっと充実したものになったのではないかと感じました。

#### ○トンネル

□地域の方々と一緒に歩くことで、歴史を知ることができた。一方で班員と地域の方々の人数が合っておらず、情報が多すぎたところはあった。(班員より地域の方々の方が多かった)情報を整理するためにも、事前に班員で勉強会等を開き、知識をある程度つけてから参加していればよかった。

#### ○感想

□地域の方々が、熱心に説明をしてくださったので、阿木に対する愛着や、自分たちのまちをどうにかしたいという思いが伝わった。それぞれの観光スポットで、まだわかっていないことが多く、謎を解いていくような感覚で回れたことが一番楽しめた。地域の PR の仕方を地域の方々と考えていくやり方を楽しめたので、勉強になった。

□今回阿木に行くのは初めてだったけど、自然が豊かで良いところだと思いました。自然だけでなく歴史を知ることにより阿木の事を楽しむことができました。案内してくださった地域の方も親切で有意義な1泊2日でした。また機会があればぜひ阿木に行ってみたいと思います。

□二日間、阿木をふれることができ楽しかったです。そんな短い期間で阿木を理解できるのか、等の意見もありましたが、期間がある以上やむを得ないと思います。阿木を理解するのではなく、新たに知るきっかけであると考えています。その中で、地域住民と様々なことを対話できたことや地域というものを感じることができたことを感謝しています。

□今回初めて阿木へ行って驚いたことが2つあります。1つは田畑や城址などが住民の方の手で丁寧に整備されていること。もう1つは、地域活動に関心を持ち、ワークショップやバーベキューへ足を運んで下さる地域の方が大勢いらっしゃったことです。阿木を住みよくしようと実際に行動されている方が多くいることは、阿木の資産であり、地域振興のための施策を行なう際の原動力になると思いました。

□今年(2015年)の夏ゼミは阿木に行きました。阿木は山の麓にあったきれいで静かな村です。私たちが歩いたルートはどこでも、水がざあざあ流れています、緩やかな水音を聞いて、気持ちがすごく落ち着いています。少し高い所行けば、眺めると、黄色の棚田を一望に収めることができます。夜、住民たちと一緒にご飯を食べたり、話したりしていました。爺ちゃんばかりいましたけれども、とても親切です。話の間に年配の方の寂しい気持ちも感じました。阿木にただ一泊二日しか過ごしませんでした。きれいな自然風景ととても親切してくれた住民たちは私に強い印象を残した。

□私は愛知県出身なのでなかなかここまで緑に囲まれる機会も少ないので、とても新鮮な気分で二日間を過ごせた。田舎だが、田舎故にとっても気の安らぐ所であり、何より地域の方々の温かさを感じることができていい場所だと思いました。また機会があれば訪ねてみたいです。

□阿木での夏ゼミでは、地域の方とのまち歩きにおいて新たな発見がありました。それは、何の情報もない状態でまち歩きをするのと、その地域のことを知った上でまち歩きをするのとでは同じルートでも全く景色の見え方や感じ方が異なるということに気付きました。私はこのような心理現象を生かすことにより、阿木でのまち歩きをさらに楽しくできるのではないかと考えています。

オリエンテーリングの新たなルート提案においては、言葉でうまく伝えることができなかつたところが多々あり、まだまだ多く反省する点があります。阿木のまち歩きはとても楽しく、散策する時間がもっと欲しいと強く感じていました。たった2日間という短い期間では阿木の魅力を最大限に引き出すことができずとても悔く思っています。機会があればまた是非阿木を訪れ、阿木に眠る魅力をもっとたくさん発見したいと思います。

### \*\*\* 大学教職員の意見・感想 \*\*\*

(高木) 学生にとっては、阿木地域の歴史や文化に触れ、地域の方々と交流するなど、様々な気付きを得ることができ、貴重な学びの機会となりましたこと、改めてお礼申し上げます。一方で、ゼミ合宿の主たる成果であるオリエンテーリングルートの提案については、ストーリーを持たせることが重要であり、無味乾燥な現ルートに比べれば、多少なりとも新しい提案ができたのではないかと考えておりますが、その重要性を十分説明できなかつたような気がします。したがって、阿木地域の方にとっては、何か得られるものがあつたのか、疑問に感じてしまったのではないかと、心配しております。また、お邪魔する機会があると思いますので、引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

(倉内) 今回は我々の研究室のゼミ視察におつきあいいただき誠にありがとうございました。2日間にわたり地域の皆様とふれあうことができ、特に山間部に縁のない都会の学生たちにも新しい学び、刺激があつたと思います。

阿木地区まちあるきでうけた印象ですが、戦中戦後の日本の大きなうねりの一端がこの小さな地域に大きな影響を及ぼしていたことを語る様々な痕跡を見ることができました。名古屋との距離的な関係、鉄道が存在、貨物ヤードを有していたがゆえに軍需工場地として選ばれたこと、地下軍需工場建設のための横坑の建設、その建設のために連れてこられた外国人労働者との関係など。さらに、それらの流れの一環として建設された野田トンネルがその後開通し住民生活の礎になるなど、インフラ整備と国家計画、住民生活のつながりを学ぶことのできる貴重な場所と感じました。また、防災の視点からみると、繰り返し迫る水害の脅威を雄弁に語る旧阿木橋の存在も自然災害の脅威から逃れることのできない我々にとってその注意を喚起される格好の事例です。これらの財産をうまく活用することで、地域を回することで防災、インフラの重要性を学ぶことができるプログラムができるのではないかと感じました。

また、運営面に関して、我々の訪問目的を十分にお伝えしておらずご迷惑をおかけしました。今更ですが、我々の研究室のゼミ視察は、学生が山間部などの地域に事前知識を持たずに訪問し、その地域にお住まいの方からその地区の歴史や思いをお聞きし、その地域の魅力を感じ取ることで、地域おこしに際して何が大事か、を考えるきっかけとすることを企図しています。一方で、地域の方々も、理由なくなかなか訪問することがない世代である学生の率直な意見を聞くことで今後の地域おこしに何らかのヒントになれば、と考えております。つまり、学生が何か具体的なことを学ぶことだけを目的としているわけではなく、地域の方々も学生の意見から何かの気づきを得る、という双方向の学びの場として機能させたいと思っています。このような目的が共有できていなかったことは今後の視察の際に参考にさせていただきます。2日間本当にありがとうございました。

(出村) 大変充実した学習になりました。ありがとうございます。阿木の美しい田園風景が、実際には収益に結びついていないということを知りました。そしてとても充実した地域の歴史のコンテンツがあることを知りました。どちらも今後阿木に人が住み続けるリアリティを保証してくれる(他ではさらに失われようとしている)資源です。これまで創造しながら伝えられてきたコトを、次世代へつなげられなければ、その保証を失ってしまいます。学生がそのことを知って感じてくれているならば、この企画は大学の教育としては大きな意味があったと思います。

一方で大学側がお手伝いできたとすれば、これまで充分地域の方々で話合われて、了解済みになっているそれぞれの論点が、どれほど学生に響いたのかよい分析対象になっていたのではないかと、ということです。地域の側では、何かの答えを求めていた訳ではないと思いますが、事後にこの企画をどのように意義づけることができたのか、が大事に思います。例えば「城址や大銀杏はホントウに学生たちの心を打ったのか?」、「なぜ学生は地域の「願い」がこもる歴史を理解しなかったのか?」など多くの論点が地域への課題として出てきたと思います。振り返りから出てくるこういった視点こそが、次の舵取りの視点になると思います。

(杉浦) よく整備された農地がとても印象的で、収穫前の稲穂、森の緑と空の青さのコントラストが美しいと感じました。秋には大イチョウが色づくとのことで、季節が変わった時にも訪れてみたいと思いました。

ゼミ全体の感想としては大学側に阿木に関する基礎的な知識がなく、ほとんどの学生が訪れたことがなかったため、課題に対応する準備が不十分だった。また、課題がルートの提案ということだったが、いずれのグループもこのテーマに沿わなかったことから、課題設定自体も1泊2日で対応できる内容でなかったかもしれない。ただし、発表の中で議論された内容と地域の方の反応を見る限り、今後継続的に取り組めば、課題の設定も含めて地域の活性化に寄与できるような提案ができるのではないのかと感じました。

(大野) 今回の夏ゼミで、企画から携わらせてもらいました。地域の方・阿木事務所のみなさまの親切な対応に感謝をしています。阿木地区で、夏ゼミを開催すること、ぎふフューチャーセンターとして開催することで、地域と学生双方の学びをつくることを考え、阿木事務所や中津川市民協働課のみなさんと、限られた時間ではありますが、意見交換をしました。オリエンテーリングルートづくりのほかに、ショートフィルムづくりなど、夏ゼミのコンテンツとして、アイデアが出たことから、阿木地区の魅力や特徴を地域の方がご存じであることがわかりました。また、地域で精力的に活動している団体の話を聞くことは、学生にとって、まち歩きをすることで、地域の現状や課題を考えるきっかけになると企画段階から思っていました。一方で、地域の方の学びづくりについては、企画段階から、検討が足りなかったと反省をしています。

当日のオリエンテーリングづくりにもむけたまち歩きでは、地域の方が、とても丁寧に地域の説明をしてくださったおかげで、それぞれのルートで、地域の自然や歴史、生活を知ることができました。地域の説明をするために用意してくださった資料は、貴重なもので、現地を訪れることで、話を聞く以上に学びを得ることができたと考えています。オリエンテーリングづくりへの挑戦は、限られた時間、初めて訪れる地域では、難易度が高かったと思っています。ただし、検討をする過程や、地域の方に発表をする機会は、学生目線での学びを地域の方にみせることができ、よかったと思っています。

学生からの感想にもありますが、「また訪れたい」と思っていますし、訪れる機会や地域の方と学生のつながりを持つことができたと思っていますので、継続的に地域とかかわりを持つことで、今回の夏ゼミを地域の方とふりかえり、今後の展開をつくっていけることができれば、とてもうれしいことです。企画から当日まで大変お世話になりました。ありがとうございます。



ぎふフューチャーセンター

FD・SD

(Faculty・Staff Development : 教職員向け研修)



<FD・SD(教職員向け研修)>

日程	テーマ	会場	主催	概要・展開
4/24	新任職員研修「地域にとけこむ大学を創造する：大学職員（スタッフ）として地域とどう向き合うか」【参加者 16 人（新任職員 11 人、地域協学センター関係者 5 人）】	旧 早 野 邸 (大垣市)	職員育成課、 社会連携課、 地域協学センター	岐阜大学新任職員研修の一環で大学職員として地域と向かい合うかについて対話し、最後に職員として個人がすべきことを宣言しその後の業務に反映させることが期待できる。
6/12	職員研修フューチャーセンター「本学のビジョンを追い続ける事務職員の新しい姿」 (第 1 回)	岐阜大学・ 附属図書館 ラーニング コモンズ	岐阜大学（横 山理事、総務 企画課、人材 開発部）	第 1 回目は、職員自身が個人で作成した大学の将来ビジョンについて互いに発表し合い、他職員のビジョンと比べることで、他者のビジョンの理解を深めるとともに、自分で作成したビジョンを再認識することを行った。
6/18	職員研修フューチャーセンター「本学のビジョンを追い続ける事務職員の新しい姿」 (第 2 回)	岐阜大学・ 附属図書館 ラーニング コモンズ	岐阜大学（横 山理事、総務 企画課、人材 開発部）	第 2 回目は、森脇学長から大学の将来ビジョンについて直接説明を受けることで、大学のビジョンに対して理解を深め、各職員が説明できるようになることを目指した。また、各職員が作成した個人のビジョンと大学のビジョンを比べることで、類似点や相違点を把握し、職員が大学の将来ビジョンの実現に向けて必要であることを認識した。
7/17	職員研修フューチャーセンター「本学のビジョンを追い続ける事務職員の新しい姿」 (第 3 回)	岐阜大学・ 附属図書館 ラーニング コモンズ	岐阜大学（横 山理事、総務 企画課、人材 開発部）	第 3 回目は、最終回として大学の将来ビジョンの実現に向けて大学職員として何ができるかを議論し、個人でできること・すべきことを宣言させた。
10/8	岐阜市職員向け FC 研修 (参加者：岐阜市職員 29 人)	岐阜市役所	岐阜大学 岐阜市	岐阜市職員研修として、地域との連携や地域の課題解決にフューチャーセンターが活用できることを学び、業務に活かすことを目的に、昨年度に引き続き、「フューチャーセンター研修」を実施する。研修後、2 回のぎふフューチャーセンターに参加し実践を積む。
11/27	補佐研修「変革期における管理職補佐職の役割」 —COC 大学を目指して— (参加者：課長補佐級 19 人)	岐阜大学・ 附属図書館 ラーニング コモンズ	岐阜大学	同研修は、COC 大学として、目標・戦略・取組をパッケージとして考えることを共有することで、補佐職としての役割を認識させ、将来の幹部候補者としての資質の向上と職務遂行能力の増進を図り、所属組織内外での業務連携に役立てる。



国立大学法人 岐阜大学  
ぎふフューチャーセンター実施報告書  
平成 27 (2015) 年度版

編集・発行 地域協学センター  
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1  
TEL. 058-293-3168  
FAX. 058-293-3167  
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>  
発行月 平成 28 年 3 月



CCSC 地域協学センター  
Center for Collaborative Study with Community